

84-39h

東京

集英堂



學地理

日本誌

天津
角田政

永監修
治編修



凡例

一本書ハ尋常中學校、尋常師範學校其ノ他總ベテ中等教育ノ地理教科用ニ充ツル目的ヲ以テ編修セリ

一本書ヲ大別シテ、自然地理、地方誌、人文地理ノ三編トナス、最初自然地理ニヨリテ、日本帝國自然上ノ概念ヲ與エ、進ミテ地方誌ニ至リ、全國各部ニ於ケル天然及人事上ノ事項ヲ分解説明シ、終リニ人文地理ヲ以テ日本全國ヲ概括ノ觀念ヲ與フルノ趣向ナリ

一本書ニ用ユル日本ノ區劃ハ從來ノ畿道區劃ニ據ラズシテ、帝國統計年鑑ニ定ムル所ノ區劃法ヲ採レリ、是レ畿道區劃ナルモノハ單ニ地理上ノ一名目トシテ存スルノミニシテ、人事上既ニ何ノ關係ヲモ有セズ、然ルニ統計年鑑ノ區劃法ハ較々我が國風土

新編中學地理日本誌

第一編 自然地理

目次

○位置	一
○面積	三
○區劃	五
○沿海	六
○地勢	一一
○山誌	一四
○水誌	二〇
○平野	二四
○溫泉	二五

○地震	二六
○海流	二七
○氣候	二八
○生物	三一
第二編 地方誌	
○本州中區誌	三五
○本州北區誌	九一
○本州西區誌	一一四
○四國區誌	一五三
○九州區誌附沖繩誌	一六五
○北海道區誌	一九二
○臺灣區誌	二〇五

第三編 人文地理

○人誌	二三四
人口、風俗、氣質、宗教、教育	
○土地	二三〇
○生業、產物	二三一
農產、工產、林產、水產、鑛產、商業	
○交通	二四一
道路、鐵道、郵便、電信、電話、船舶	
○國體及政體	二四四
立法、行政、司法	
○國防	二四七
陸軍、海軍	

○外交……………二五一

挿入地圖

○大日本帝國及附近之圖

○地方區劃之圖

○山系及水系圖

○同溫線及海流之圖

○雨量配布圖

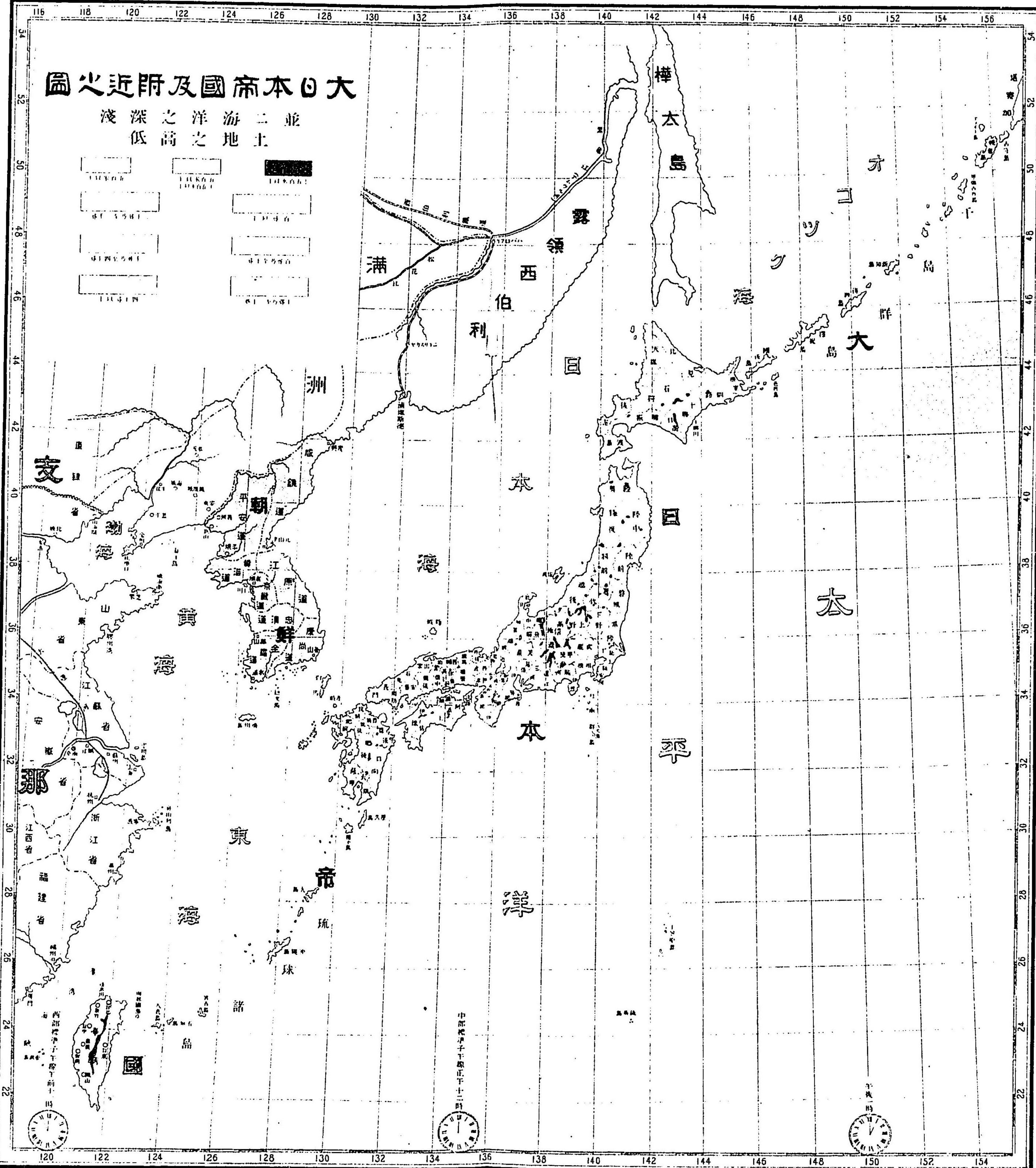
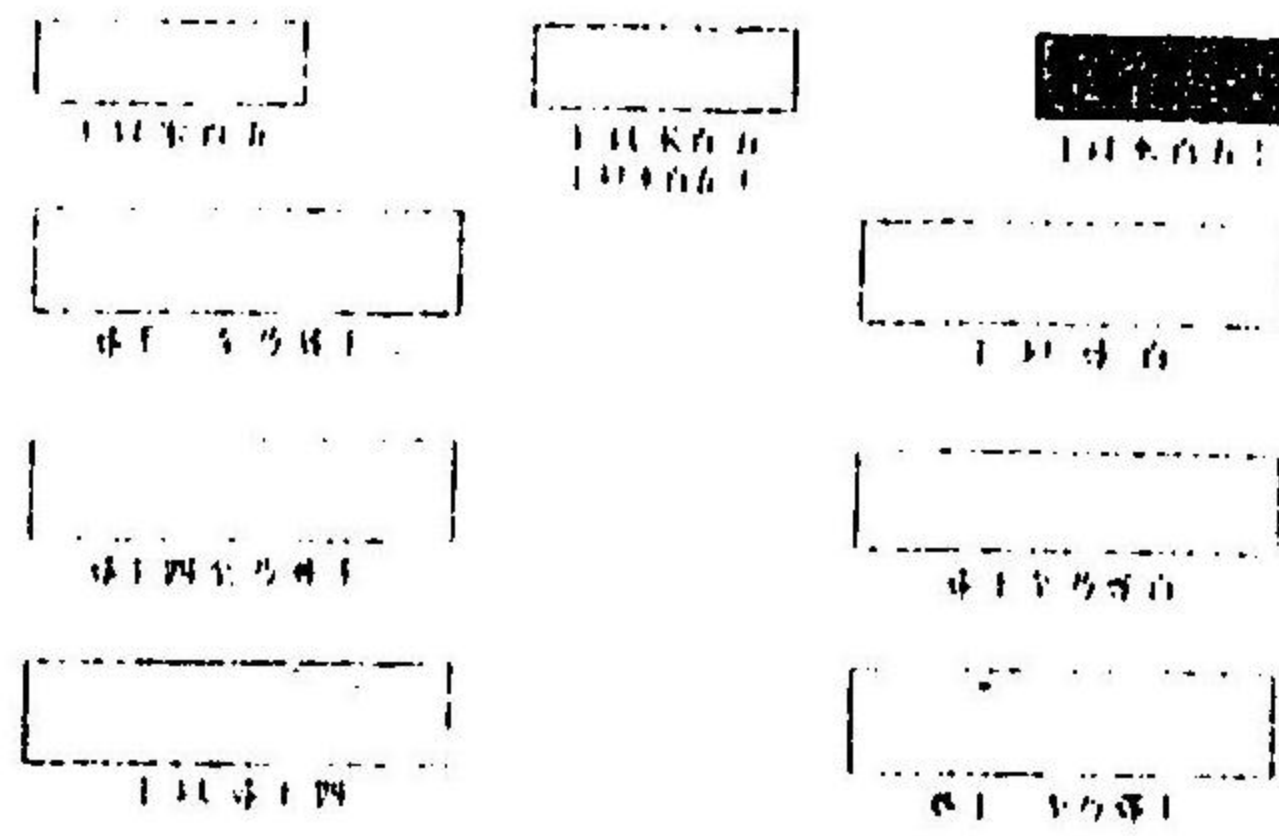
○交通全圖

○國防圖

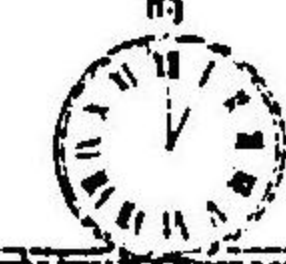
新編
中學地理日本誌目次終

大日本帝國及附近之圖

並二海之深淺
土地之高低



中華民國二十二年一月十二日



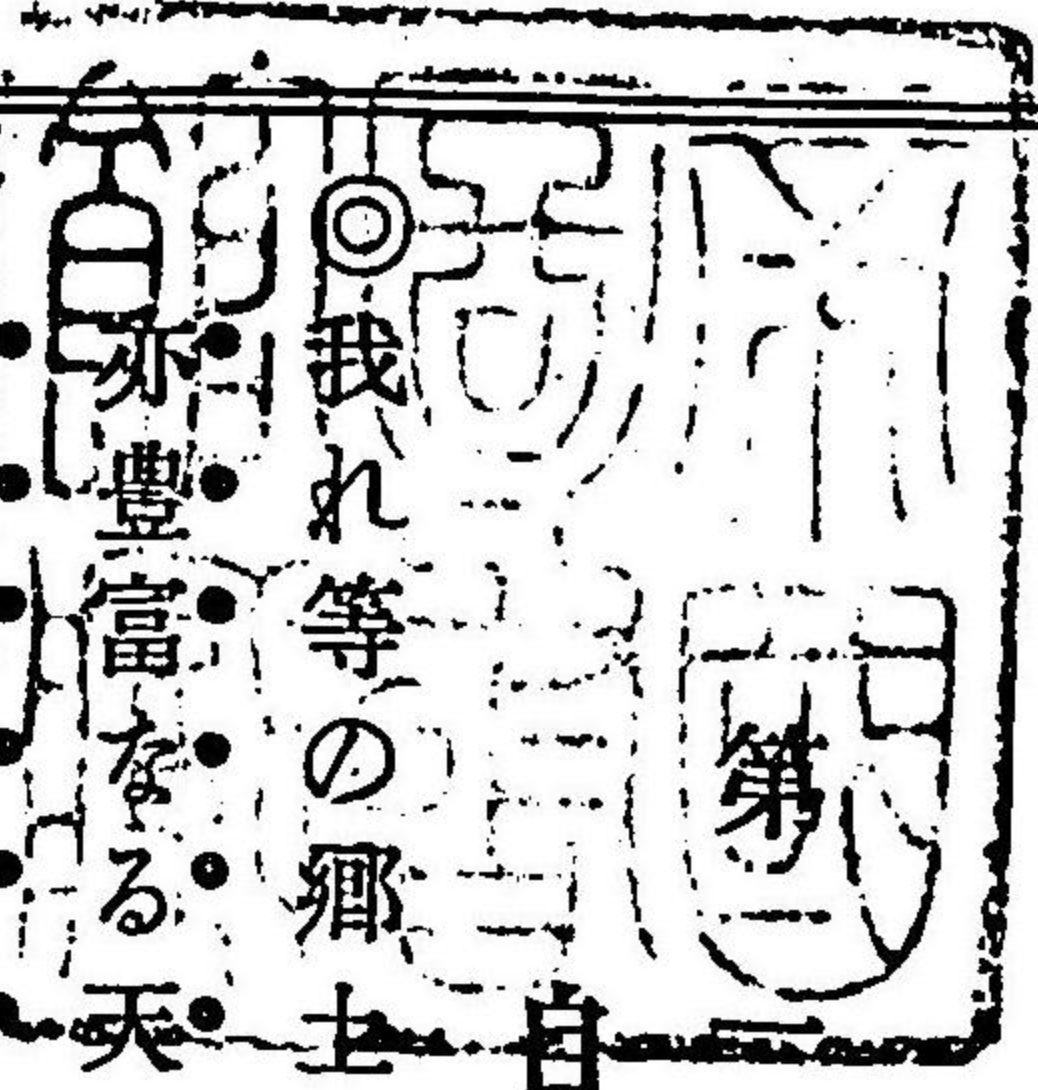
新編 中學地理 日本誌

矢津昌永 監修

角田政治 編修

自然地理

第



○我れ等の郷土なる大日本帝國は地球上に於て、氣候溫和に、財源亦豊富なる天賦の島國にして、上に至尊至榮の皇室を戴き、忠孝義勇の同胞茲に棲みて、國運愈々進み、各々其の生を樂めり。是れ我が國地理形勢の最も優勝なるに據らずんばあらず。今既に學べる日本地理に續き、稍々深く我が國の地理を説かんとす。

○位置 我が國は亞細亞洲の絶東なる北太平洋中に羅列する群

位置

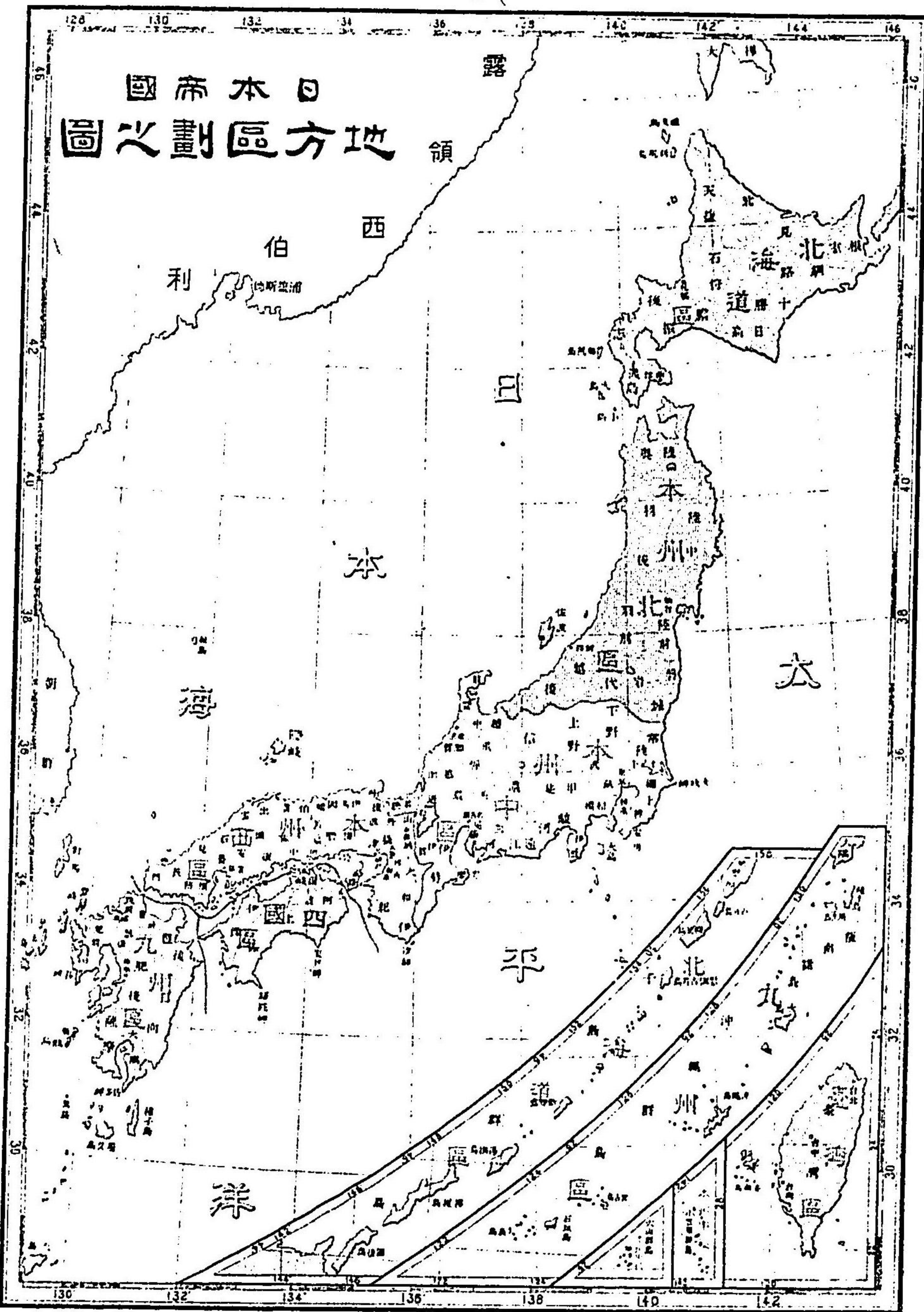
島にして東北より斜に西南に延びたり。其の極南は臺灣の南岬(北緯廿一度四十五分)にして既に熱帯に入り、北端は千島のアライト島(北緯五十度五十六分)なり、極西は澎湖島花嶼の西端(東經百十九度廿分)にして、極東は千島の占守島(同百五十六度三十二分)とす。故に南僅に熱帯に入る外總て北温帯内に在り。中央緯度は北緯三十四度なれば寒暖中和の國にして、我が國と緯度を同じくする所は皆世界の優勝國なり。

○西は日本海を隔て、露領西伯利及朝鮮に對し、東海を隔て、支那と相望む、南は一葦水の巴西水道を隔て、比律賓群嶋は呼ば、應んとす、北は千島群嶋により堪察加半島に接し、東は太平洋を隔て、遙に亞米利加洲に對す。島彙宛も亞細亞東岸に連珠を列ねたるが如く凡二千哩の間に斷續してオヨツク海日本海

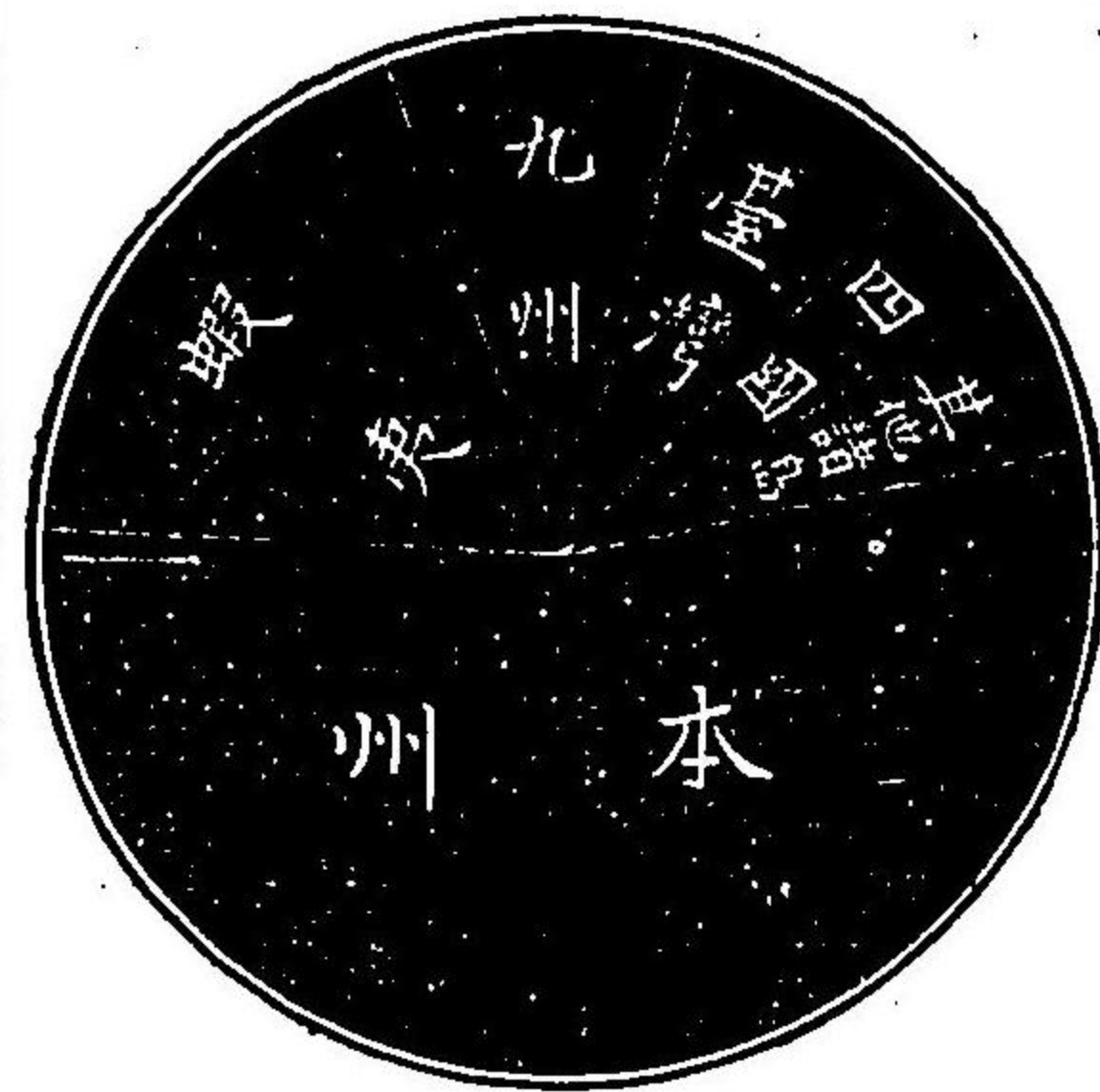
面積

黃海及東海を扼せり。故に西伯利、朝鮮及支那北部より東方に出づるには必ず路を我が領海に藉らざる可らず。又世界最多の人口を有する支那大國を後にし、富源限りなき北米大陸を前に控へ、南は南洋諸島の珍品、異産を收むべく、北は西伯利によりて陸路歐亞兩大洲に通ずべし。故に我が國は兵要上、商業上及交通上實に樞要の位置にあり。

◎面積 我が國の面積は二万七千〇六十二方里あり、五大島及約四千の島嶼より成る。中央の最大島は本州(本土)にして、次ぎの大島は北に在りて蝦夷島(北海道)と謂ひ、九州は本州の西南に位し、又本州と九州間の大島を四國とす、臺灣島は遙か南に在りて其の大さ九州に次ぐ。其の他千島、琉球、佐渡、淡路、對馬、隱岐、壹岐等稍々大なる島なり。此の各地の面積及大小の比例を示せ



五大島及屬島面積比較圖



ば左の如し。

土地	面積	百分比	土地	面積	百分比
本州	一四五七、二二	五三、八四	蝦夷地	五〇六一、九〇	一八、七〇
九州	二六一七、五四	九、六七	臺灣	二二五九、九〇	八、三五
四國	一、一八〇、六七	四、三六	千島 (三十二島)	一〇三三、四六	三、八二
琉球 (五十五島)	一五六、九一	〇、五八	佐渡	五六、三三	〇、二一
對馬	四四、七二	〇、一七	澎湖島 (五十二島)	八二、〇〇	〇、三〇
淡路	三六、六九	〇、一四	隱岐	二一、八九	〇、〇八
壹岐	八、六三	〇、〇三	小笠原島 (二十島)	四、五〇	〇、〇二
總計	二七〇六、二四六	一〇〇、〇〇			

○全面積の内、本州は其の半を占め、蝦夷は本州の三分の一、九州、臺灣は略々、同じく、四國は蝦夷の四分の一に當り、其の他諸島の面積を合せて、本州に比すれば約十分の一に當る。

區劃

◎區劃

我が國の區劃に二様あり。一は現今の政治區劃にして、一廳三府四十九縣あり、更に小別して六百六十一郡とす。一は古の政治區劃にして畿内、八道八十五國是れなり。(既ニ暗知スル畿道國ノ名ハ本邦地理ヲ學ブニ必要ナリ數々繰リ返スベシ)

○本書には便利の爲め最も本邦の自然に適へる帝國統計年鑑の區劃法に従ひ、本州を中區、北區、西區とし、其の他を四國區、九州區、附沖繩、北海道區及臺灣區とす。各區に包轄する府縣(北海道八國)左の如し。(區劃地圖ヲ看ヨ)

- | | | | |
|----|----|----|-----|
| 北本 | 中 | 本 | |
| 州 | 區 | 州 | |
| 新潟 | 富山 | 東京 | 神奈川 |
| 福島 | 山梨 | 静岡 | 埼玉 |
| 宮城 | 愛知 | 三重 | 千葉 |
| 巖手 | 岐阜 | 茨城 | 栃木 |
| 山形 | 滋賀 | 群馬 | 長野 |
| 秋田 | 福井 | 石川 | |
| 青森 | | | |

本州	京都	大坂	奈良	和歌山	兵庫	岡山	廣島	山口
西區	島根	鳥取						
四國區	德島	香川	愛媛	高知				
九州區	長崎	佐賀	福岡	熊本	大分	宮崎	鹿兒島	附沖繩
北海	渡島	後志	石狩	天鹽	北見	膽振	日高	
道區	十勝	釧路	根室	千島				
臺灣	臺北	新竹	臺中	嘉義	鳳山	臺南		
區	宜蘭廳	澎湖廳	臺東廳					

◎沿海 海岸の出入多き國は港灣半島等に富めるを以て交通商賣に便あり従ひて其の國の文明開發を補助すること尠からず。故に海岸線の長短は直に國の文野を卜すべきなり。本邦の海岸線は屈曲甚だ多きを以て之を延長すれば七千四百六十

七●里●に●及●べ●り●。此●の●延●長●里●程●は●國●の●廣●さ●に●比●す●れ●ば●甚●だ●長●く●、世●界●中●我●が●邦●に●比●す●べ●き●國●な●し●。左●に●各●島●に●就●き●其●の●沿●海●の●狀●を●述●ぶ●べ●し●。

◎本州海岸線の重なる出入は太平洋方面の北端に斗南半島斗出し西津輕山嘴と相對し内に陸奥灣を抱き蝦夷島と津輕海峽を挟む。斗南半島以南犬吠岬に至る海岸は鋸齒狀を呈して大灣入なく、牡鹿灣及松島灣を稍々大なりとす。犬吠岬の南には房總半島出で、三浦半島と共に東京灣を擁す。

○伊豆半島其の西に出て、東に相摸洋、西に駿河灣を作る。以西志摩と三河の間に一大灣入あり、知多半島灣の中間に出で、衣浦、伊勢海に分つ。伊豆の南端石廊崎より志摩に至る七十五里の海上は有名なる遠州灘なり。志摩の西に紀伊半島出で、紀

州灘、熊野浦を左右にし、何れも舟行の難所とす。

○紀淡海峡をすれば大坂灣にして、是れより西、馬關海峡(早瀬或ハ長豊海峡)に至る間を瀬戸内海とす、風景甚だ好く、海岸は犬牙の如く相錯り、無數の島嶼、其の内に點綴せり。内海中、重なる出入は兒嶋半島及兒島灣、廣島灣等あり。

○早瀬海峡を東北に廻れば日本海にして、海岸線の屈曲は太平洋の如く多からず。島根半島、若狹入江、富山灣、能登半島、男鹿半島等を大なる出入とす。本州を圍む海岸線の延長は一千九百五十三里にして、屬島に五百二十三里あり。

○四國島は他の四大島に比して小なれば、海岸線長からず、其の延長は屬島を合せて六百七十六里あり。瀬戸内海には梶取(宮崎岬)三岬の兩突出ありて、伊豫灣を抱く。太平洋には東に室戸岬西

四國島ノ沿海

九州島ノ沿海

に蹉跎岬ありて、土佐灣を擁す。伊豫の佐田岬は西に走りて九州と連絡せんとし、其の間は早吸海峡(豊後水道)とて潮流急なり。

○九州島は海岸の出入頗る夥しく、特に西部は灣入岬角相交錯せり。肥前は全國中最も海岸の屈曲に富み、全部西に突出して半島狀をなし、内に築紫灣及大村灣を抱き、松浦、彼杵、野母、島原の四半島あり。又薩隅は舞へる猿猴の兩股の如く、股間は鹿兒島灣にして内に櫻島を挿めり。九州の北岸一帯は、玄海洋に臨み、唐津、博多の小灣入あり。瀬戸内海に面しては、國東半島及齒莖灣あり、其の以南には臼杵、佐伯等の小灣入ある外、海岸線の屈曲に乏しき日向灘に面して、南端に一の志布志灣あり。海岸線の延長八百六十一里、之に壹岐、對馬、其の他の屬島を加ふれば一千八

蝦夷島ノ沿海

百四十七里の長きに達せり。

○蝦夷島は赤鯉の尾を振ふに譬ふべし。宗谷襟裳の兩岬を兩鰭とし知床納紗布の兩岬東に突出して、其の頭頸を作り、渡島半島は振へる尾なり、尾間に内浦灣を抱けり。海岸線の延長は比較的短く、六百二十九里にして、千島列島を合すれば一千二百一十一里とす。

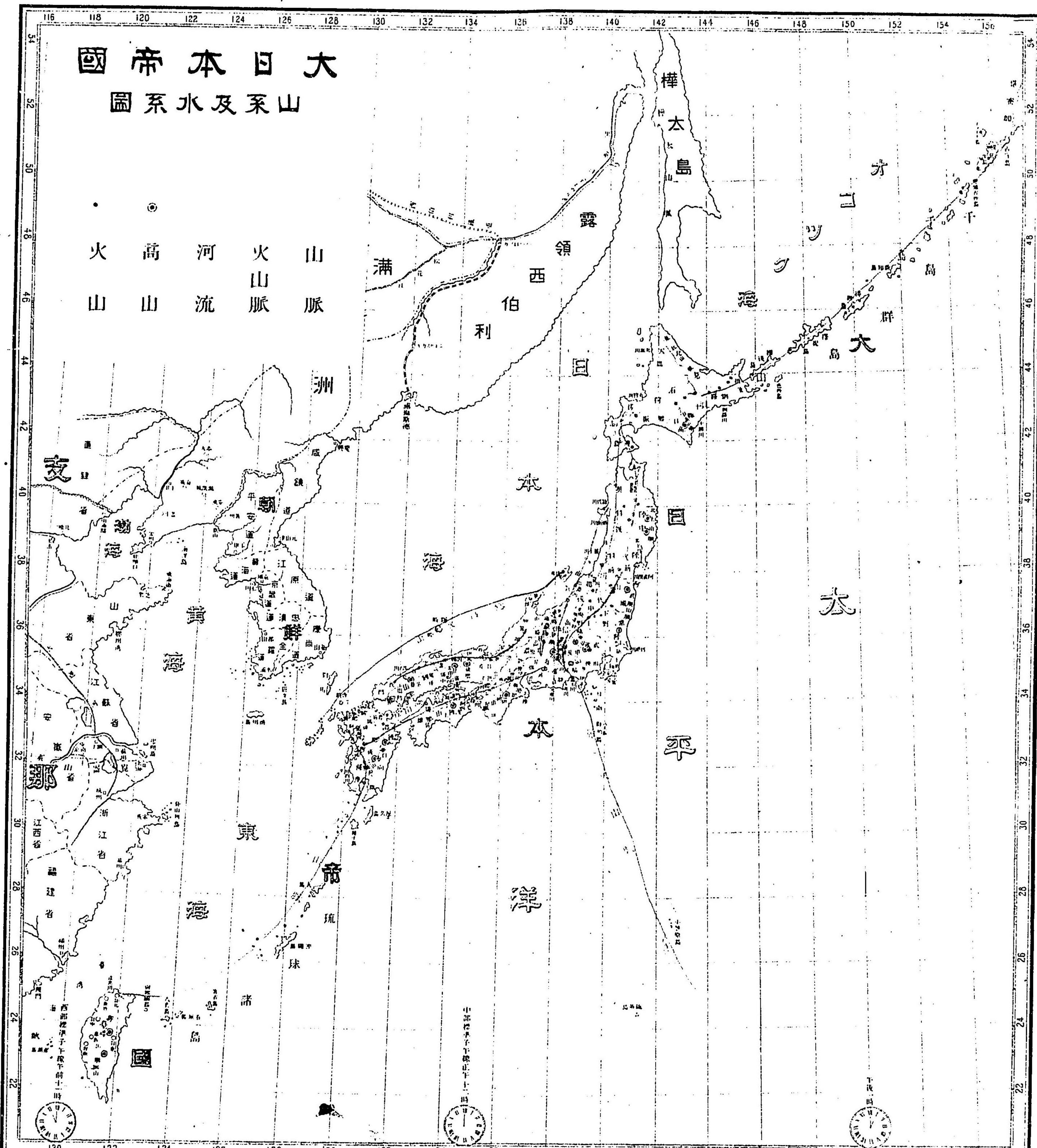
臺灣島ノ沿海

○臺灣島は五大島中海岸の屈曲最も少し。北岸は僅の小灣入りて、内に唯々の良港たる基隆あり。東岸は嶮岨絶壁にして港灣に乏しく、恒春半島遙か南に突出して、其の端兩分して南岬及西南岬となり、内を南灣とす。

○西岸一帯は臺灣海峡を隔て、支那の福建地方と相對し、裏に澎湖島を擁して、澎湖水道を作る。其の沿海は遠淺にして、打狗及

大日本帝國

山系及水系圖



山脈 河流 火山
山脈 河流 火山

支那

日本

太平洋

本

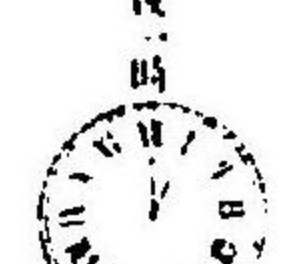
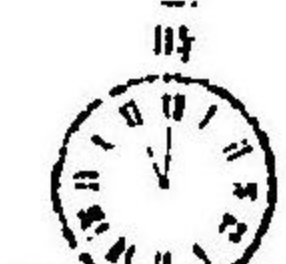
平

東

帝

洋

諸



地勢

淡水等の小港あり。故に其の海岸線の延長僅に三百五十二里にして、澎湖島を加へて、四百二十七里なれば、九州の半に及ばず。

◎地勢 日本之地躰は東南に張りて西北に彎曲せる略々三連の弓形より成り、其の走向は皆東北より西南に横はりて、亞細亞大陸の東に懸れり。三連の弓形は(一)千島列島(二)本土列島(三)琉球列島並に臺灣是れなり。故に其の觀頗る莊麗に、恰も三連の珠玉を亞細亞東岸に掛けたるに異ならずとて、外國の地學者は東洋の『花彩島』と稱揚せり。抑も此の東洋花彩島の内部の形勢は如何、今其の概略を左に記すべし。

○我が國は到る處山岳多き山國にして、平地は全面積の九分の一に過ぎず。故に山脉の配布を知るは本邦地理を學ぶに最も必要とす。國內に起伏する山岳は種々の方向に亘りて甚だ錯雜

せる如きも、本邦を構造する地軀は二大山系に過ぎず。樺太山系・崑崙山系是れなり。

○樺太山系 樺太島より蝦夷島に渡り、蝦夷と本土との間に一の窪陷ありて海水に浸され、本州に於て地形の如く西南に走り、遂に中央部に達す。崑崙山系(從來支那山系ト稱セリ)は其の脉遠く支那崑崙山より延くを以て名けらる、東海を渡り來りて九州に達し、西南より東北に趨きて四國中國の地體をなし、遂に本州の中央部に於て樺太山系と相會せり。此の二大山系の結節する所は本州中幅員最も廣く地勢最も雄峻なる甲、駿、信、越、地方とす。地學者此の結節以北を北日本と謂ひ以南を南日本と稱す。此の兩山系とも太平洋方面は陸地自ら擴出して能く發達すれども、日本海方面は彎曲して陷落の所多し、故に地學者又太平洋方面を外帶

火山脉

或は表日本と謂ひ、日本海方面を内帶或は裏日本と稱す。表日本は水成岩に富めども、裏日本は地質相錯りて火山に富めり。

○火山脉 火山は地火力の地殼の軟弱なる所を破りて迸發したるものあるを以て、若し地盤に、一列の裂罅等あれば、火山は此の線上に噴起して一帯の脉をなす。我が北日本と南日本と會合する所に本州を南北に横斷する裂縫帶ありて、一大火山脉茲に迸發す、之を富士帶と稱す。又樺太山系及崑崙山系とも單一の隆起帶にあらずして數條の並行せる山脉より成る、其の並走する脉間にも之に沿ひて裂線あり、故に火山列をなして噴起し、恰も水成山脉と交互に並走せり。我が國土は此等の諸山脉を地體として發育せる陸地なるを以て、地勢の東北より西南に延長するは自然の勢なり。

山誌

◎山誌 今、樺太、崑崙兩大山系に屬する重なる山脉及火山脉を左に記せん。

樺太山系

蝦夷山脉

◎蝦夷山脉 蝦夷島の正北、宗谷岬より南に走り、中央に於て千島火山帯に連り高峻の脉となり、再び千島火山帯より分れ、東南に走り襟裳岬に至りて海に没す。千島帯以北は一に東北山脉と云ひ、以南は日高山脉の稱あり。

千島火山帯

◎千島火山帯 堪察加半島より起り、千島列島を噴起し、蝦夷島の中央に於て蝦夷山脉と交叉して高峻となる、尙ほ西走して樽前有珠の火山を起し、火山灣を繞りて、津輕海峡に陥り、本州の中央火山脉に連る。本脉の火山灣の東北に聳ゆる火山彙を一に後志火山脉と云ひ、火山灣の東南海岸に亘るを渡島火山脉と云ふ。

北上山脉

阿武隈山脉

中央火山脉

鳥海火山脉

◎北上山脉 陸奥南端の太平洋岸より起り、北上川の東側を南北に走り、仙臺灣に没す、最高峰、早池峰は六千三百尺なり。

◎阿武隈山脉 北上山脉を受けて、阿武隈河口より起り、其の東側を走り、南端は筑波山彙に連る、最高峰は三千三百尺に達す。

◎中央火山脉(奥羽山脉) 斗南半島の恐山より起り、奥羽の境上を走りて太平洋と日本海の分水嶺となり、岩手山、駒ヶ岳、藏王山等の高峰を抽んづ、岩代に入りて吾妻磐梯の兩山あり、那須岳より二派に岐れ、稍々南に折れるものは日光山彙となり、稍々北する一派は帝釋山脉の名あり、上野に於て白根、赤城、榛名、妙義の諸山となり、富士帯に會す。

◎鳥海火山脉 陸奥の岩木山に起り、中央火山脉と並行して鳥海、羽黒、月山となり、岩代越後の境上に蜿蜒し、上野、越後、信濃の境に

彌彦火山

於て別に、三國、山脉の名あり、白根、吾妻、淺間諸山より富士帯に合す、鳥海山は七千百余尺なり。
○彌彦火山 羽後、男鹿半島の寒風山より日本海の飛島、粟生島に連り、越後の彌彦山より妙香、焼山等を経て、信濃に入り富士帯に合す。

富士帯

○富士帯 樺太、崑崙兩山系の接合線に噴起する一大火山脈にして、富士の高峰を盟主とし、北は八ヶ岳、淺間の諸山より越後の妙高山、焼山等に連り、南は箱根の群山より伊豆を経て豆南諸島を起し、終にマリアナ群島に到る。

崑崙山系

九州南部山脉

○九州南部山脉 九州島の南部、肥後、日向の境を西南より東北に貫き四國に亘る山脉なり、最高點市房山は六千餘尺に達す。

九州北部山脉

○九州北部山脉 九州の北部に於て肥前より兩筑、兩豊に蟠まり、早瀬海峡に没して、中國に亘る山脉なり。

阿蘇火山帶

○阿蘇火山帶 肥後の阿蘇山を主幹とし、東に趨り瀬戸内海に入り、四國の北部を過ぎ本州に入り、遂に三河より東北に走る、一に瀬戸内噴火帯の名あり。

霧島火山帶

○霧島火山帶 臺灣より沖繩の鳥ヶ島、及河邊七島を噴起し、櫻島より九州に入りて霧島山となり、肥前温泉岳に亘り、多良岳に終る。

四國山脉

○四國山脉 九州南部山脉を受けて四國の中央を東西に亘りて其の脊梁となる最高峰、石槌山は七千七百八十尺に聳ゆ。

紀伊山脉

○紀伊山脉 四國山脉の端を受け紀伊の高野山、大和の吉野山等より志摩に亘る山脉なり。

赤石山脉

○赤石山脉 紀伊山脉の一たび伊勢海に陥りたるもの三河より駿遠の境上を走り、遂に駿信の境より富士帯に會する高峻の山脉にして白峰山、赤石山等は一万尺以上に聳へたり。

中國山脉

○中國山脉 九州北部山脉を受けて山陰、山陽兩道の境となりて東西に亘る中國の脊梁山脈なり。此の山脉と四國山脉との峽間は即ち瀬戸内海是れなり。

美濃飛彈高原

○美濃飛彈高原 美濃より飛彈に亘る我が邦の大高原を組成せる水成岩なり。

乘鞍火山

○乘鞍火山 信飛及信越中の境上に蟠まる最も高峻なる火山脈にして鎗ヶ岳、穗高山、乘鞍岳、御岳の四峰は一万尺以上に聳へたり。

木曾山脉

○木曾山脉 天龍、木曾兩河の間を走る、山脉なり、駒ヶ岳は一万三

白山火山

百尺に達し、脈中の最高點とす。

○白山火山 加賀の白山を盟主とし、西、山陰道に於て伯耆の大

山より石見の青野山に至る。

隱岐火山

○隱岐火山 佐渡島の金北山キンホクサンに起り、能登を経て隱岐に亘り、壹岐及平戸島に終る。

臺灣山脉

○臺灣山脉 臺灣の山脉は全島を南より北に貫ける高峻の水成岩脈ありて最高點一万二千尺以上に達し、琉球帯に連れり。又火山脈は澎湖群島より臺灣島の西北端に渡り、琉球帯の裏面を沿ひて、遂に霧島帯に連れり。

○本邦は斯の如く水成山脉及火山脈連亘するを以て、到る所山岳多く、特に火山岩を以て日本全面積の五分の一を覆へる火山國なり。火山の數は百七十座の多きに達し、内本州及豆南諸島に

水誌

九十座、蝦夷島に十八座、千島に二十八座、四國に一座、九州に十六座、其の他諸島に十六座ありて、時々猛烈の噴火をなす。近くは磐梯山、吾妻山の爆裂の如きは人の知る所なり。

◎水誌 各大島の中央には脊梁山脉ありて、水系皆是れより分配せられ、幅廣からざる兩側の斜面を下り、太平洋及日本海等に流注す。故に河道總て短く、其の流れ又急に、頗る運輸の便に乏し。

○蝦夷島の山脉は十字形をなせるを以て、水系は此の高背を下りて四方に流注す。石狩川、天鹽川、十勝川は本島の三大河なり。

石狩川は長さ百七十六里、本邦第一の長流とす。此の諸河の灌域は沃野甚だ廣く、未墾の地あり、將來有望の所とす。

○本州の地形は狹長にして、山脉中央に脊梁をなし、河水は其の兩側に配送せらるゝを以て、長流を成す能はず、唯其中稍々長大

流 蝦夷島河

流 本州河

なるものは必ず兩脉の峽間に落ち、地形に従ひて流下するか、山脉を横斷する流れにあり。今其の大河を擧ぐれば、太平洋の排水道に北、上、阿、武、隈、利、根、木、曾、天、龍の諸川あり、皆山脉に沿ひて流る。又日本海系に能代、御物、最上、信濃の諸川あり、或は山脉を破り、或は山脉に沿ひて流る。此れ等諸大河は頗る廣き流域を開き、運輸、灌漑を資け、人煙稠密の主要地となれり。

○畿内附近には長大の河流なく、紀ノ川、淀川を稍々大なりとす。就中淀川は最も重要な河にして、畿内平原を流れ、其の灌域は肥沃にして、民物繁昌せり。

○中國は地形已に大河の養成を許さず、僅に江ノ河の中國山脉を破りて、日本海に注ぐを以て、稍々大ありとす。

○九州の河流も亦北部、南部の兩山脈によりて分水せらるゝが故

流 九州河

四國ノ河

○に大河を成す能はず。西に注げる筑後川、球麻川、内川、及東に流る、大淀川、五瀬川、等を稍々大なりとす。

○四國の河流は多く四國山脈に分水せられて南北に分流す。吉野川は四國山脈を破り、中流以下は其の脉と並行して流る、を以て最大なり、其の河域は農産物多し。此の外仁淀川、渡川、肱川、等あり。

臺灣ノ河

○臺灣の河水は全島を南北に縦斷する脊骨山脈により分水せられ、是れ又大河なし。唯淡水河は北流して稍々大なり。其の他重なる河水は大肚溪、濁水溪等あり。

○以上河流の内石狩、信濃、利根は日本三大河にして、富士、最上、球麻を三急流とす。

○本邦の河流は多く山間を急下するを以て、上流と中流とを具ふ

湖沼

れども、幅廣く水深く流れ緩にして運輸の便ある下流の特質を具ふるもの少なく霖雨に逢へば雨水忽ち急斜面を下りて平原に漲溢して水害を破ること尠からず。然れども此の急流を利用して電気等の原動力と爲すこと甚だ利あれば工業上には便益を興ふるに至るべし。又灌漑の利は稍々多く、各河の流域は主要の生産地にして、水田多く河口の三稜洲には繁盛なる都會を建つ。

○我が邦湖沼の大なるものは近江の琵琶湖を以て最大とし、周囲五十九里余、湖畔は風景絶佳にして、湖上漁船往來し運輸の便を占む。次ぎは常陸の霞浦にして、周囲三十六里、運輸灌漑共に便なり。其の他、周囲十里以上の湖水を擧ぐれば、岩代の猪苗代湖(十六里)、出雲の中海(十六里)、羽後の八郎潟(十五里)、陸奥の小河原

平野

沼(十三里)出雲の穴道湖(十三里)下總の印旛沼(十二里)陸奥の十和田湖(十里)等なり。

◎平野 平野は穀物蔬菜の産する所、又商賣工業の行はるゝ地にして、人類生活の要素は多く、茲に存す。本邦の地勢は廣大なる平野をなす能はず、唯山脉の峽間又は海濱の低地等に狭き平原あり。

關東平野

○關東平野は本邦第一の廣野にして、八州に亘れるを以て關八州平原の名あり。其の面積約百三十万里に亘り、利根川、荒川等の河流灌漑し、本邦の首府を始め、人口一万以上の都會二十一個、此の平野に建てられたり。

畿内平野

○畿内平野は關東平野に次ぎて五州に廣がり、地味肥沃にして古來繁盛の場所なり。本邦の二大都府及人口一万以上の都會八

濃美平野

個、此の平野に在り。

○濃美平野は尾張、美濃に亘れる肥沃の平野にして、三都に次げる名古屋を始め、人口一万以上の都會七個、茲に在り。

石狩平野

○石狩平野は北海道石狩川の流域を占め、將來有望の地なり。

筑紫平野
臺西平野

○筑紫平野は九州の筑紫瀉に瀕したる、膏沃の平野なり。臺西平野は臺灣の彰化より、臺南の間に廣がり、土地肥え、農産物多し。

宮城野、
越平野、
讚岐平野、
臺北平野、
溫泉

其の他、宮城野、越の平野、讚岐平野、臺北平野等あり。

◎溫泉 溫泉とは地下水の地熱によりて、礦物を融解したる溫泉なるを以て、鑛泉の名あり。本邦は火山に富むを以て、溫泉從ひて少からず、其の最も多き地は中央火山の連亘する地方及富士帶附近又は日本海沿岸の火山附近等なり。

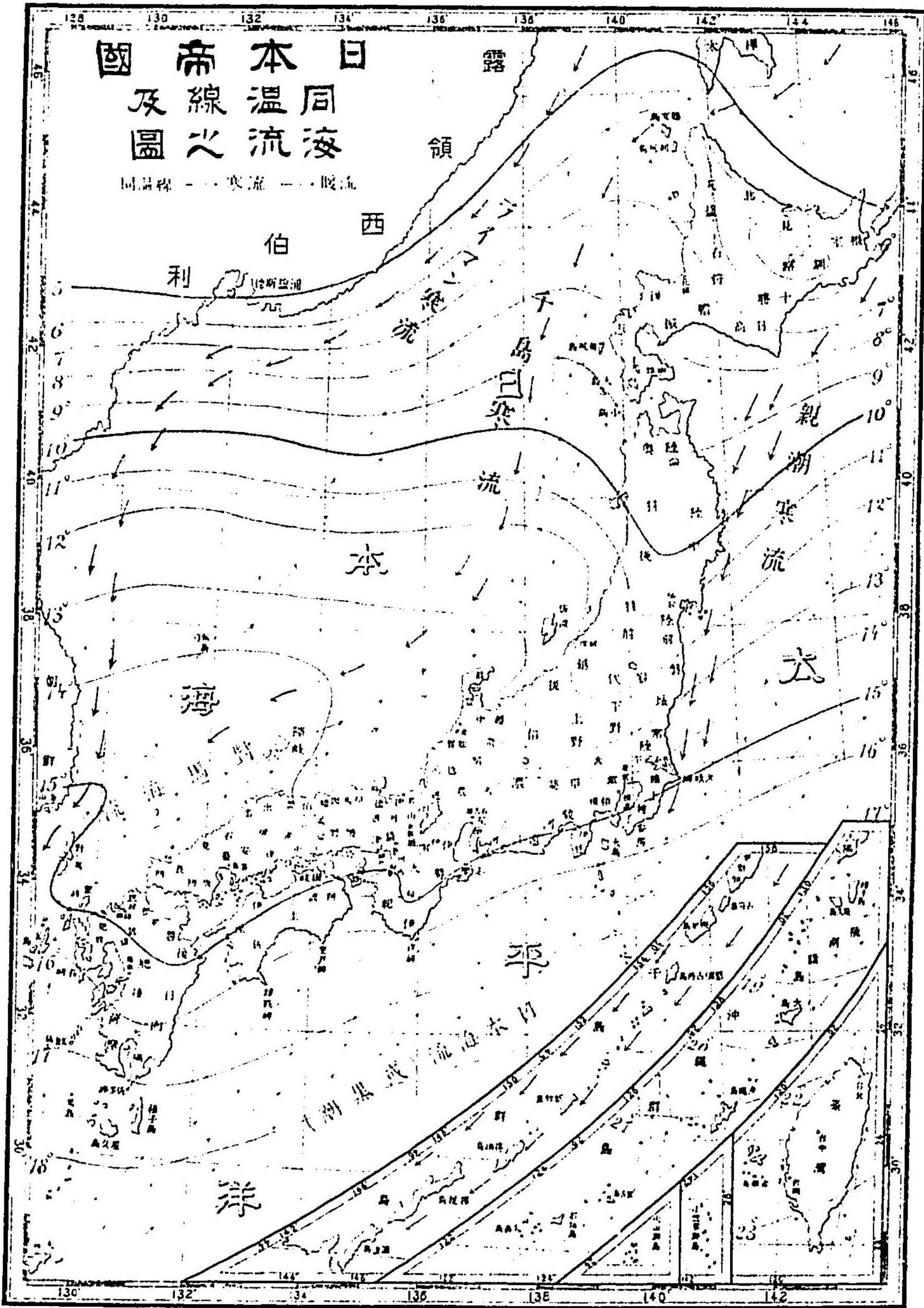
○九州も亦火山に富めるを以て、溫泉從ひて多く、四國は甚だ少く

して、北海道は西部に多し。温泉の總數は四百三十二あり、内本州に三百〇九、四國に九、九州に七十、北海道に四十四あり。

◎地震 本邦は有名の地震國なり。古來慘烈なる震災を被りしこと尠からず。統計によれば殆ど毎十年に一大地震ある割合にして、微震をも通算すれば殆ど一日としてこれなきはなし、其の震力、度數は各地同一ならざれど概ね地盤の堅固なる地方は弱く、且稀なれど、火山地方又は地盤軟弱なる平原は強く、且多し、殊に富士帶の近傍、關東平野、濃美平野等は最も頻繁にして亦強烈なり。明治二十四年の濃尾、二十七年の東京、二十九年の陸羽の大地震の如きは親しく人の知る所なり。地震の海中に起るを海震と云ひ、恐るべき海嘯を生ずることあり、本邦古來海嘯の害少からず、近くは二十九年三陸地方海嘯の如きは未だ人の

日本帝國
及同溫線
之海流圖

同溫線 — — — 寒流 — — — 暖流



暖海流

忘れざる所なり。

◎海流 我が邦を圍める海洋には暖寒二種の海流あり。暖流は日本海流と稱し、南方赤道附近より來り、臺灣の東方を北流し、北緯二十六度の邊に於て本支二流に分る。本流は琉球列島の東を流れ九州、四國、本州の南岸を洗ふ、其の色深藍色なるを以て黒潮と稱し、伊豆諸島の間を流るゝ時最も著しく黒瀬川の稱あり。尙ほ進んで犬吠岬の沖を過ぎ日本陸地を遠ざかり東方に流る。其の温度は通常の海水に比して四五度高し。支流は對馬海峽より日本海に入り、其の東部を流る、是れを對馬海流とす、津輕海峽の西方に至り分れて二派となり、一は津輕海峽を出で、消滅し、他は北流して宗谷海峽を経てチヨツク海に入る。

○寒流の我が國近海を流るるものに三派あり。一は親潮と稱し

寒流

堪察加及千島に沿ひて南流し、本州の東岸を洗ひて犬吠岬附近に於て黒潮に會ひ表面に其跡を失ふ。他の二派はチヨツク海より起り、露領沿海州の東岸を南に流れ、樺太島の北角により分れて二派となり、該島の東岸を南流するを樺太海流と云ひ、千島の間を出で、親潮に合するものと、日本海に入りて、其の中央を流るゝものとあり。他の一派を來滿海流とす、亞細亞大陸の東岸に沿ひて南流し、朝鮮海峽を過ぎて東海に出づ。斯の如く、我が環海には暖寒の海流あるを以て之が爲め氣候を感化し若くは航行の便を得ること尠からず。

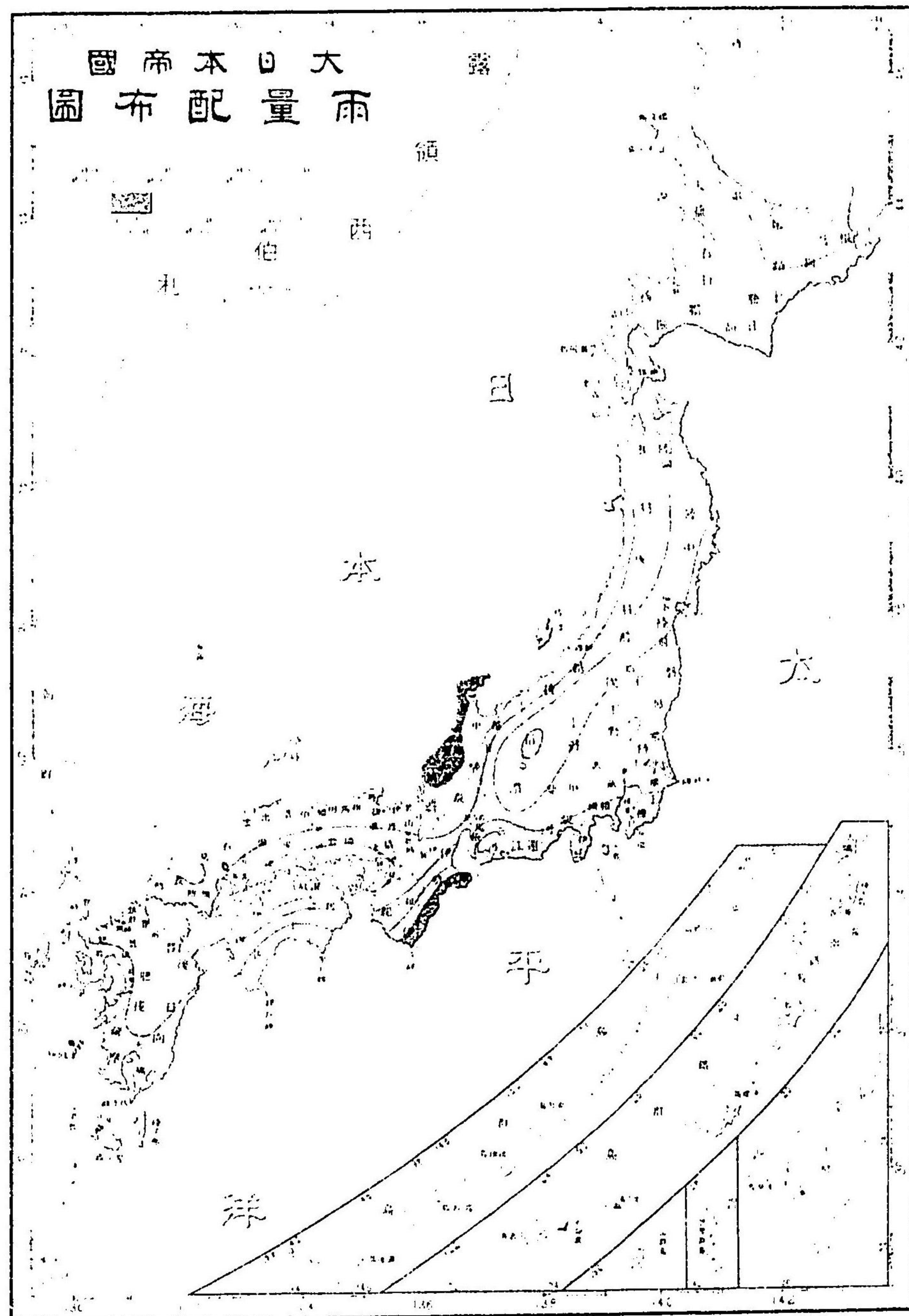
◎氣候 我が國の位置は南部僅に熱帯に入る外、總べて北温带内に在りて、到る處氣候和順にして、四季皆愉快に生活することを得べし。亞細亞洲中に於て氣候の暢和なること一も我が邦に

氣候

及ぶ處なし。今國內各地に就て全年の平均溫度を述べれば臺灣島の南端に於ける二十三度四を最高とし、北海道の釧路に於ける五度を最低とす、其の差は十八度四にして、中央部の平均溫度は十二度なり、此の中央溫度は歐羅巴の南部諸國及支那中部と同等なり。夏(八月)の平均溫度は南部の二十七度より北部の十五度の間にあり。冬(一月)は南部の七度を最高とし、北部の氷點下十度を最低とす。我が國は海を環らす島國なる上に、南面は溫暖なる黒潮の洗へるを以て著しく溫暖なり、但、東北の一部は寒流に洗はれて稍々寒冷なれども、全躰より之を見れば、寒暖中和の好氣候にして、暑熱の人を傷害する所少く、又寒氣の營作を妨ぐる地稀なり。是れを以て動植の物皆其の所を得て全土風色に富み亞細亞洲中の樂園と稱せらる。

○我が國は溫帶中にありては多雨の地に屬す。全年平均雨量は一千五百七十三^三耗あり、即全邦土の面を五尺二寸の深さを以て掩ふ割合に當れり、各地により又多少の差あり。降雨の量最も多きは二所あり、(一)大隅より志摩に至る太平洋岸一帯の地、(二)加賀、能登、越前等の日本海に面する地方とし、何れも二千三百耗以上あり。又雨量の最も少なき所は蝦夷島にして、之に亞ぐを本州中央部の信濃より兩野に至る内地及瀬戸内沿岸の各地とす。季節に就て言へば暑候は多雨にして寒候は降雨稀なり。六月及九月は霖雨多く、殊に六月は『五月雨』と稱し、降雨連日に亘ることあり。十一月より翌年三月頃までは天氣晴朗の日多し。

○我が邦は西北に大陸を受け、東南は大洋に瀕するを以て、風は主として此の二者に支配せらる。即夏期は大洋より亞細亞大陸

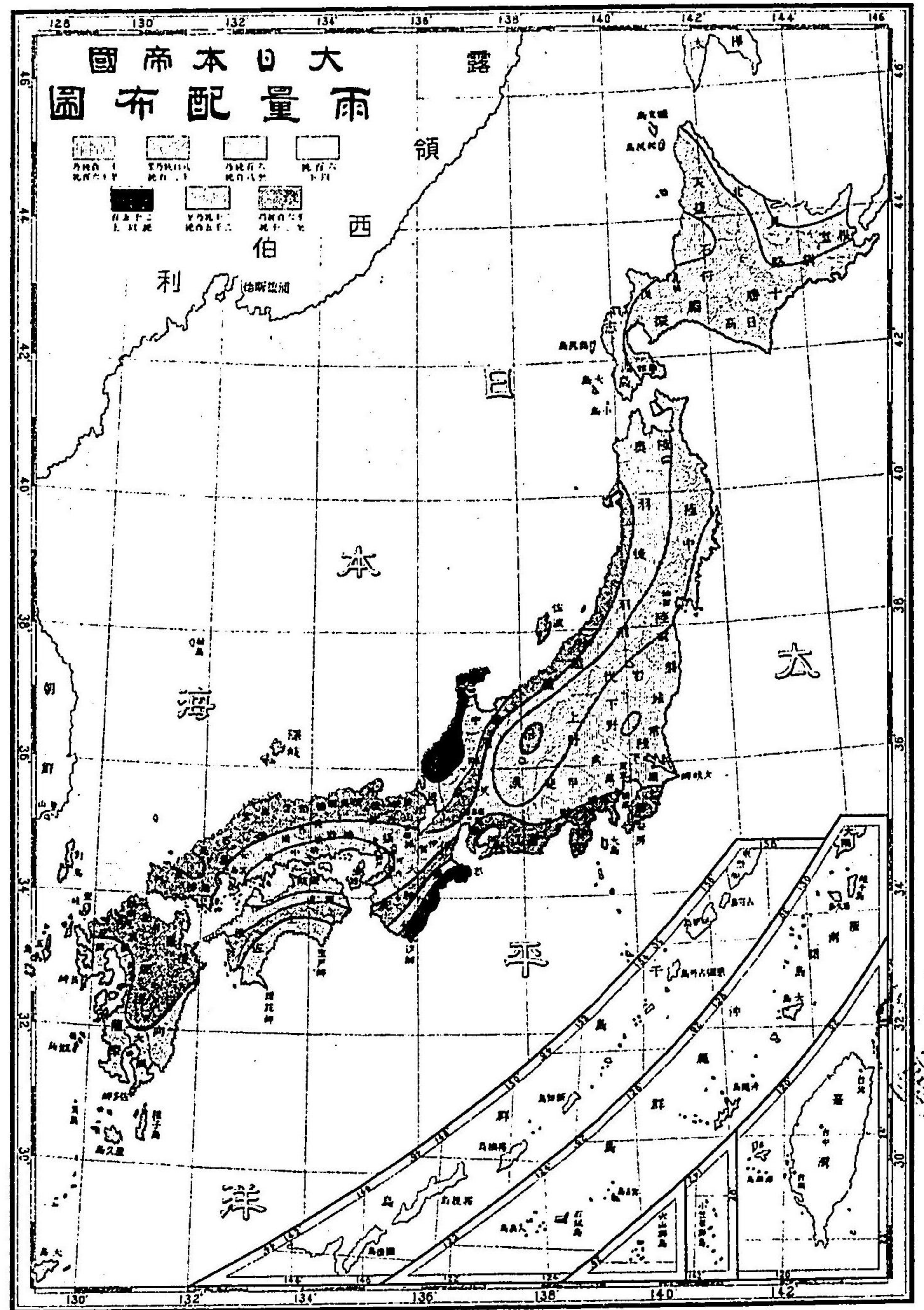


の内地に向く風あり、是れ夏日南風及西南風多き所以なり。冬期は之に反して、亞細亞大陸より黒潮に向ふ西北風あり、此の風は烈寒の地を掃ひ來るを以て、此の風を被る間は我が邦の寒氣は較々強し。九月の上旬には往々颶風起ることあり、此の颶風は比律賓群島若くは臺灣島附近に起り、東北に進み九州四國を經て日本海に出で、北海道を横きりて遙に東方へ向ふ。

◎生物

植物 生物

○植物 我が邦の地形は斜に長く、三十緯度を通じて太平洋波上に横はり、且つ氣候の溫暖なると雨量の多きとにより、寒溫熱三帶の植物を併有し、有用の樹木及華麗の花卉尠からず。凡北緯三十二度以南なる九州南部、臺灣、琉球、小笠原島及其の他の諸島には熱帶の植物繁茂し、其の重なるものは樟、榕樹、羊齒、烏木、蘇鉄、



生物 植物

◎生物

の内地に向く風あり、是れ夏日南風及西南風多き所以なり。冬期は之に反して、亞細亞大陸より黒潮に向ふ西北風あり、此の風は烈寒の地を掃ひ來るを以て、此の風を被る間は我が邦の寒氣は較々強し。九月の上旬には往々颶風起ることあり、此の颶風は比律賓群島若くは臺灣島附近に起り、東北に進み九州四國を経て日本海に出で、北海道を横ぎりて遙に東方へ向ふ。

○植物

我が邦の地形は斜に長く、三十緯度を通じて太平洋波上に横はり、且つ氣候の溫暖なると雨量の多きとにより、寒溫熱三帶の植物を併有し、有用の樹木及華麗の花卉尠からず。凡北緯三十二度以南なる九州南部、臺灣、琉球、小笠原島及其の他の諸島には熱帶の植物繁茂し、其の重なるものは樟、榕樹、羊齒、烏木、蘇鉄、

動物

竹栢、露兜樹、楠榔樹、椰子、檳榔樹、龍眼肉、芭蕉實、芒菓等特種の産あり。九州、四國、本州及蝦夷の南部には温帯植物能く生茂し、國民の命脉を繋ぐ米麥の嘉穀を首とし、穀類、豆類及織緯植物能く生し、喬木には杉、檜、樅、榿、公孫樹、赤松、黒松、山毛榉、柯樹、茶、梅、櫻、楓、栗、山茶、茶梅、檉、榿、橡、楸等の有用樹繁茂せざる地なし。蝦夷の北部及千島列島には寒帯樹類の植物繁茂す、赤楊、蝦夷松、偃松、椴松、羅漢松等を重なる特生樹とす。海中にも亦海流と緯度とに應じて各種の海生植物あり。

○動物。我が邦に繁殖する動物は必要なる食用及他の用をなす家畜、禽鳥、虫類多く、有害なる猛獸、有毒なる蟲類等は實に少し。虎、象、豹の如きも古昔は棲息せしが如しと雖ども、現今は其の跡を絶ち、唯北海道に熊、狼を産すると臺灣に山猫及豹を棲ましむ

るのみに過ぎず。内地普通の獸類には馬、牛を始め犬、猫、豚等の家畜は最も多く、野生の猪、鹿、狐、狸、鼬、兎、猿の類尠からず、臺灣には水牛を産す。魚鳥及虫類は何れも多く、特に魚介は熱帯より來る暖流、寒帯より來る寒流あるを以て地球上に於ける各種大抵産せざるものなく、貴重なる海生哺乳類をも産せり。中にも九州以南の海には熱帯生の特産多く、奥羽以北には鱒、鮭、鱈の類多し。

○鳥類は繁殖法未だ盛ならざるを以て、家禽類には鶏、家鴨の外著しき食用鳥なく、野生の禽類も人口多く捕獲盛なるを以て多き方にあらず。鷹、雁、鴨、鷺、鴉、雉、鳩の類を普通とし、鶴は甚た少なく、臺灣には鴉を見ず、北海道には大鷲多し、此の外各種の小鳥尠からず、鴨、雁を始め秋に來りて春に歸るもの多し。

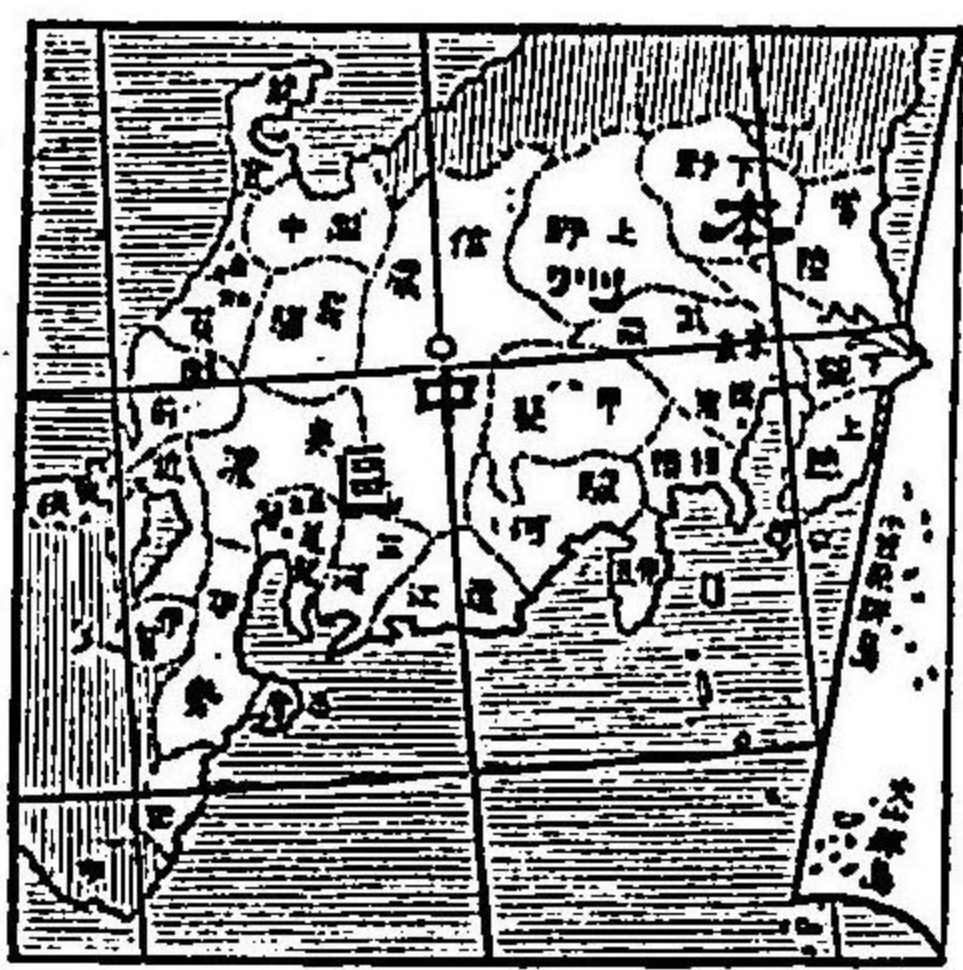
○蟲類は其の種類多けれども、利害を爲すもの少し、只蠶は我が國益をなし、琉球、臺灣には毒蛇及有毒の爬虫を生ず。

第二編

地方誌

本州中區誌

◎本州中區は我が國の中央部を占め、西は本州西區の畿内に接し、東は本州北區の奥羽と境し、南は太平洋に臨み、北は日本海に濱す。全國中、幅員最も廣濶に、人口亦稠密なる主要の部にして、其の疆域は東海道全部、中仙道及北陸道(越後を除く)の二十六國を包轄す。面積六千四百四十五方里、人口千六百八十六万人あり、左の一府十六縣を置く。



本州中區之圖

地勢

本州	東京府	神奈川縣	埼玉縣	千葉縣	茨城縣
	栃木縣	群馬縣	長野縣	山梨縣	静岡縣
中區	愛知縣	三重縣	岐阜縣	滋賀縣	福井縣
	石川縣	富山縣			

◎地勢 本區の中央部は樺大山系、崑崙山系の會合所に當るを以て高峻なる山岳起伏し、其の周圍には稍々廣濶の平野を存せり。今地形により大別して中央高地(二)太平洋傾地(三)日本海傾地の三部とす。

中央高地

(一)中央高地は本區の中央大部分を領する本邦第一の高陸地なり。信、飛、高原を中心とし南は甲、駿、遠に亘り、北は越中、加賀、越前に跨り、東は兩毛の北部に及ぶ。山勢一般に雄峻に往々一万尺を抜く高峯あり、河流の泉源となり、氣候寒冷にして風色蕭條たり、溪

太平洋傾地

々に狭き低地を存す。
 (二)太平洋傾地は東部に關東平野あり、武藏を中心とし、八州に跨る所謂關八州の平原なり、地肥へ人多く、最も形勝の地にして繁盛の都邑多く此の間に建てり。西部に濃尾平野あり、尾張より美濃に亘り、亦殷賑の沃野にして、中古群雄の衝を争ひし血戰場少からず。

日本海傾地

(三)日本海傾地は海岸の幅廣からざる平野にして、越中平原は土肥へたる農産地なり。若狹、越前、加賀に亘る海濱にも平地を存し、重なる農産地なり。能登は別に人掌狀をなして、海中に突出し海岸は急斜にして奇景多し。
 ○本區の中央は北日本と南日本との對曲地にして、其の分界を富士帶とす。富士帶以東重なる山脉は中央火山脈、關東山脉、彌彦

富士帯

火山[○]脈[○]（一名東部沿[○]岸[○]火山[○]脈[○]）とし。富士帯以西には赤石[○]山[○]脈[○]、木曾[○]山[○]脈[○]、乘鞍[○]山[○]脈[○]、美濃[○]飛[○]驒[○]高[○]原[○]、白[○]山[○]火[○]山[○]脈[○]、隱岐[○]火[○]山[○]脈[○]等なり。

○富士帯は信濃より甲、駿、相を横断し伊豆の突出となり、太平洋中の豆南諸島を噴起する高峻なる火山脈なり。此の脈伊豆にて天城山彙となり、山麓に熱海の間歇温泉あり、箱根山彙は其の北に連り、山間に箱根七湯涌出す、愛鷹山より本脈の主山なる富士の高峯となる、富士山は本邦第二の高山にして最頂點たる劍峰[○]は一万二千四百六十七尺に聳え、四時白雪消えず、其の觀望の雄壯なること世界に稀なり、頂上には内院[○]と稱する周回一里の舊噴火口あり、其の周邊には奇巖削立し重なる頂八峰あり、故に八朶[○]の芙蓉峰の名あり、富士の中腹に寶永山あり、以北富士帯に屬する重なる山は甲斐の八ヶ岳、鎗ヶ峰、信濃の立科山等なり



富士川ヨリ富士山ヲ望ム

本帯は實に我が邦を兩分する天然の一限界にして其の風土に關係あると甚だ深し。

○中央火山脈は本區に入りて本邦三大火山の一なる那須岳となり、是より分岐し稍南に走り下野に入るを日光山彙とす、山彙中の高峰を男鉢山と謂ひ、海拔八千二百尺あり、中禪寺湖は此の山彙の間に湛へたり。本脈は上野の境に於て白根山となり是れより赤城[○]榛名[○]妙義[○]の三大山となる。妙義

山は怪巖削立して、巖腹に天然の石洞門を通し



淺間山噴煙ノ圖



妙義ノ石門
全第一石門

其の壯觀、我が邦三、奇景の一なり、是より遂に淺間山に會す。淺間山は八千余尺に聳え本邦三大火山の一にして噴煙絶えず、碓氷峠は其の南麓にあり、(アプト式



鐵道を以て上下し二十六の隧道あり。又那須岳より西に折れ下野、岩代の境を亘るを帝釋山脉と云ふ、帝釋山(六千二百七十尺)は其の主山なり、此の脉の西に連るを三國山脉とす、清水越は上野より本脉を踰えて越後に入る阪路なり、是より白根山及吾妻山に連る、草津の温泉は此の脉間に涌出す。關東山脉は關東平野の北を限り、武藏の北部に於て秩父山彙となる、武甲山、三峰山、雁坂峠より、甲斐の東北部に蟠まり、大菩薩峠、天目山となり、信濃境に於て富士帯に合す、小佛峠、笹子峠等は此の脉を踰ゆる坂路なり。

○彌彦山、火山脉は越後の彌彦山より米山、妙高山、燒山等を経て信濃に入りて、高妻、黒姫、戸隠山、等峙てり。其の他本區には阿武隈

○山脉の末端を受け磐城より常陸に入りて加波山、筑波山となる、筑波山彙、房總半島には鹿野山及鋸齒の狀をなせる鋸山等の房

總山彙あり。

○次に富士帶以西の重なる山脉を擧ぐれば。

○赤石山脉は三河の海濱より東北に走り、遠江の大日山、秋葉山より無間山、黒法師山となり、信、駿、及甲の國堺に於て最高峻となり、本脉の主山たる赤石山(三万百尺)及白峰山(一万二尺)は本州水成岩中の最高嶺たり。其の東側に身延、及七面の諸山あり、東海道の小夜の中山は本脉を踰ゆる坂路にして、今は堀内、金谷間に大隧道を穿ちて瀛車を通せり。

○木曾山脉は天龍川を隔て、赤石山脉と駢走し、天龍、木曾、犀川の分水界となる、駒ヶ岳、惠那山等の高峰ありて、本脉には良材に富める森林多く、木曾五木の名あり。乗鞍火山脉は兩越、及信、飛の境上に蜿蜒たる高峻の火山脉なり、大蓮華山(一万三十二尺)立山(九千四百五尺)

鎗ヶ岳(一万〇三三)乗鞍岳等一万尺以上の高峰並列して雄峻を極む。○濃飛高原は乗鞍火山脉の西方濃飛に亘る壯大の山地なり、起伏錯雜して高臺狀を爲せり、滿山、水松を以て古來有名なる位山は此の中にあり。

○白山火山脉は山陰道より來り、若狹の青葉山を経て、越前の大日岳、荒島岳、及加賀の南部に於て最も重厚の山彙をなせり。脉中に抽づる白山は海拔八千八百尺に聳え、盛夏の外、白雪を戴けるを以て白山の稱あり、此の脉北に延びて礪波山となり、旭將軍か平軍を鑿殺せし、俱利伽羅谷あり。隱岐火山脉は隱岐より來り、能登の北部に於て寶立山、鷹爪山等を崛起し、海を越へて佐渡の金鑛に名高き金北山に連る。其の他近江、伊勢に亘りて、鈴鹿山脉あり、鈴鹿山、膽吹岳、國見岳等峙てり。不破の關は此の脉を踰

水系

ゆる古の關門にして、其の關ヶ原は徳川氏覇業の基をなせる血戰場なり。

◎水系 地勢中央に雄峻の高地ありて、南北に傾斜するを以て分水界は此の中央高地にあり。故に中央高地より兩斜面を降る水は南して太平洋、北して日本海に注ぎ、水系は自ら太平洋系及日本海系に分る。

○太平洋水系は排水界の廣きを以て、自然に長大の河流を涵養せり。利根川は三國山脉及日光山彙より降る諸水を上野の平原に於て集め、關東平野の間を東南に流れ、行々諸水を合せ、下總の關宿に至り、本支兩流に分る。支流は江戸川と稱し、武藏下總の境を限りて東京灣に注ぐ。本流は東南に流れ、鬼怒川、小貝川等を合せ更に手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦等の水を入れ、銚子港に至り海



川井大ノ昔



川井大ノ今現

に注ぐ、長さ七十四里、下流は川の廣さ一里余に及び、水深く流れ緩に、漚船上下し、運送灌漑の便あること本邦第一とす、又關東一の大河なるを以て、阪東太郎の稱あり。

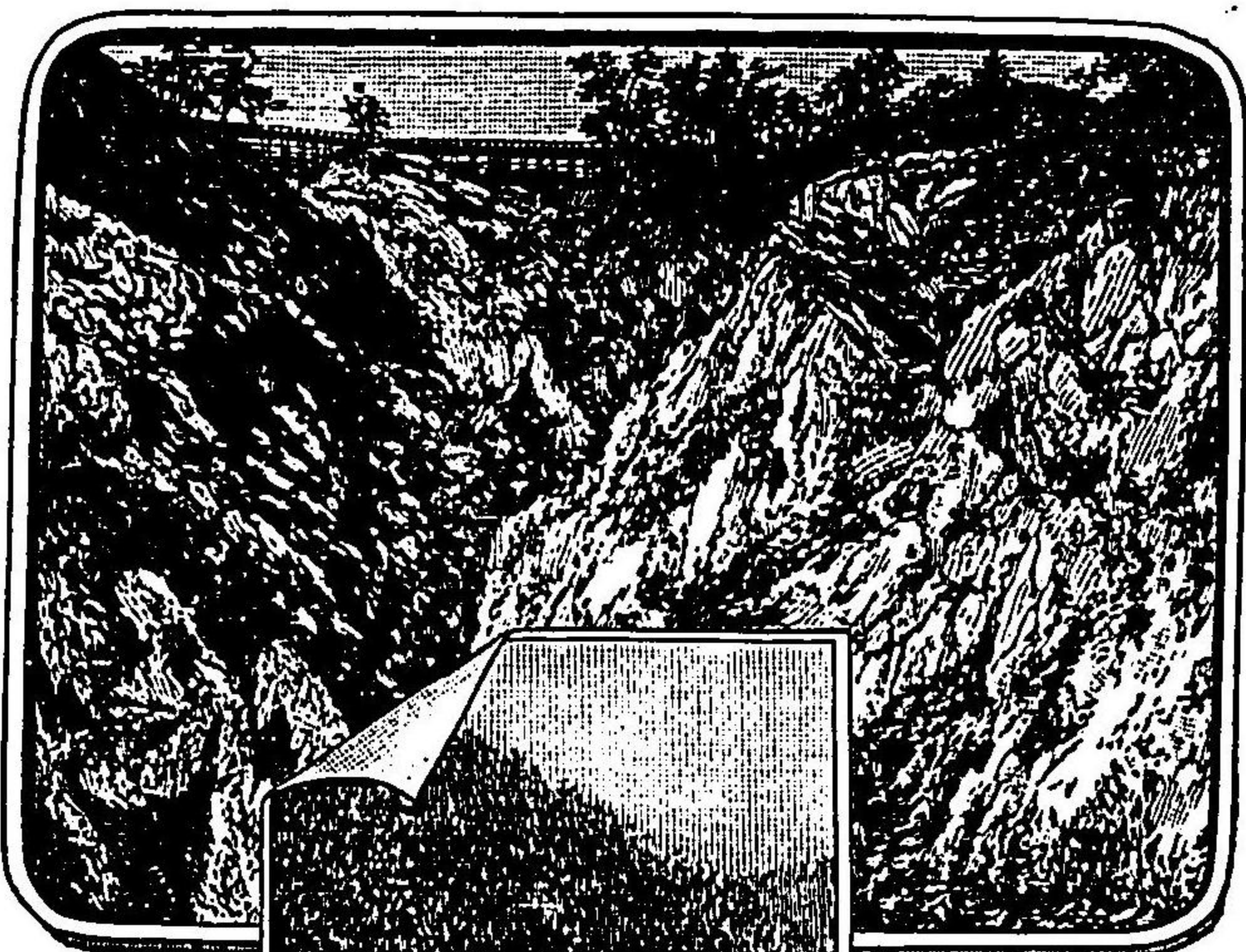
○天龍川は信濃の諏訪湖に發し、赤石、木曾兩山脉の峽間を南流し、遠江に入り、下流は大天龍、小天龍の二派となり、掛塚に至りて遠江灘に注ぐ。長さ五十六里あれども、水淺く舟楫の便を欠く、其の鐵橋は長さ八百余間、東海線路第一の長橋なり。

○大井川は白根山より發し、駿遠兩國の間を流れ、駿河灣に注ぐ。赤石高臺の間を下るを以て、流れ急に水淺く、運漕の便なく、却て

往々水害を蒙る、下流には往時有名の「大井川渡」ありしが、今は鐵橋を架して瀛車を走らし、此川の連臺渡も一場の奇談となれり。

○富士川は甲斐の峽間に於て釜無、笛吹、荒川等の水を集め、白峰山と富士帶の間を走りて、駿河に出で駿河灣に注ぐ、日本三急流の一にして、十八里の水程僅に六時間にして下るべく、兩岸奇景に富めり。此の河岸は甲斐より駿河に出づる唯一の通路なり。

○木曾川は信濃の小木曾山中より發し、乗鞍脈の御岳と木曾脈の駒ヶ岳の峽間を刻み、所謂木曾谷の奇溪を作り、木曾の棧道「寢覺の床」臨川寺等の奇景あり、十數里の間深山幽谷を通じ、日本三奇景の一と稱せらる、下流平原に至れば流れ緩となり、美濃に於て飛驒より來る飛驒川、鵜飼を以て有名なる長良川及揖斐川等水量多き流れを合するを以て、強雨に逢へば流域は氾溢の害を被



木曾鈎橋及

寢覺之床ノ圖

發し、下流は有名なる隅田川にして、本邦の首府たる東京は兩岸に建てり、其の東岸の向島(墨田)には櫻樹を列植し、陽春開花の候は都人蝟集し雜沓極りなし、此の兩岸

る、然れども其の灌域は所謂濃尾沃野にして米穀能く實れり、未遂に伊勢海に入る、以上を太平洋系の五大河とす。

○三河には矢矧川、豊川、大平川の三河あり、是れ國名の起因なり。

○武藏には東に荒川、西に多摩川あり。

荒川は秩父山より

には名所少からず水深く流れ緩に運輸の便あり。多摩川は關東山脉の南側面を下り、武蔵の西部を東南流し、廣き農耕地を開き、又鮎の名産あり、下流は六郷川と稱して、東京灣に入る。

○常陸の那珂川は中央火山脈の東南側の水を集め、阿武隈山脉及筑波山彙の間を過ぎて鹿島洋に入る。其の北の久慈川は阿武隈山脉の東側より發して、同じく鹿島洋に入る。

○相模に馬入、酒匂の兩川あり、馬入川は相模第一の大河にして大川の稱あり、其の灌域は肥沃の農耕地なり。駿河に急流安倍川あり。

○伊勢には雲出川、宮川、五十鈴川等あり。皆鈴鹿山脉に分水せられ、伊勢海に入る。

○日本海系の河流は中央高地の海に迫るを以て、長大の流れを成

す能はず。獨り信濃川は峽間に沿ひ、或は山脉を破るを以て、本州第一の長流なり。其の上流千曲川は甲斐の金峰山に發し、北流して上田を過ぎ、飛驒境より發する犀川を合す、此の合流の間は有名なる川、中島の地なり。尙ほ北流して彌彦脈と鳥海脈との峽間を過ぎ、越後に入る、此の流域は信州第一の農産地なり。

○越中に射水、神通、黒部、常願寺の四大河あり。射水川は飛驒、白川の末にして、西部を貫き、伏木港に注ぐ。神通川は飛驒、宮川の下流なり、國の中央を貫流し、富山市を過ぎ、越中灣に入る。常願寺、黒部の兩河は共に東部を北流せり。以上四大河の灌域は地廣く土肥へ、越中米の産地なり。

○加賀には白山より發する手取川あり。越前の日野川は足羽川及九頭龍川を入れ、坂井港に注ぐ。此の三大河域は重要な農

産地とす。

◎湖沼 霞ヶ浦は本邦第二の大湖にして、周囲三十六里、漁船白帆絶えず湖中を往來す。之に通ずる北浦、印旛沼、手賀沼等あり、共に關東平野窪地の一部なり。富士の裾野を環りて富士八湖あり、甲斐の川口、山中の兩湖を主とし、箱根山中の蘆湖は清麗鏡の如く湖畔に離宮あり、駿河に富士沼あり。遠江の濱名湖は明應年間地震の爲め湖邊決して海と通ずるに至れり、故に「今切れ」と稱す。

○本邦最大の湖水たる琵琶湖は周

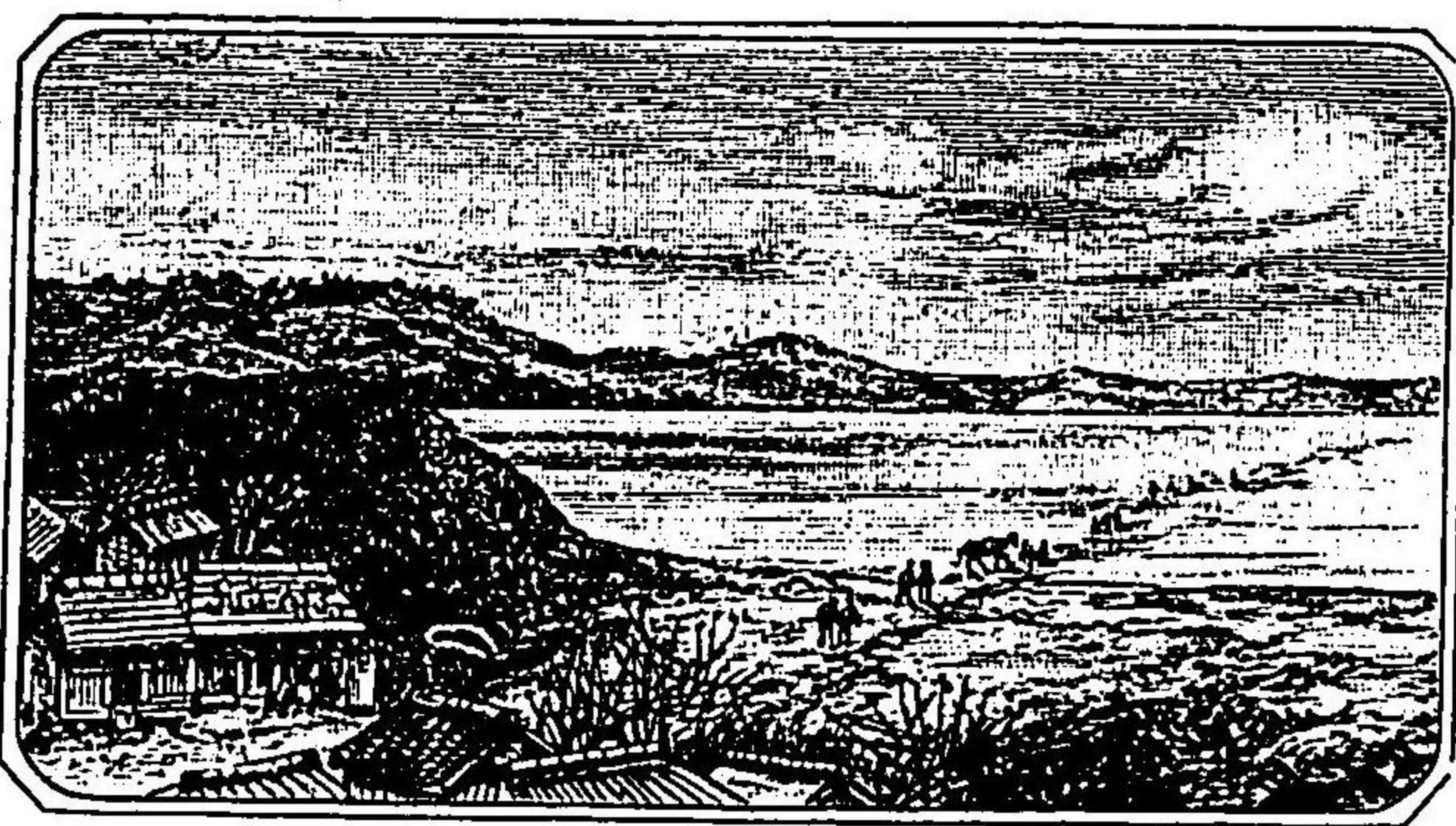
湖 琵琶



近江八景
唐崎夜雨
栗津晴嵐
矢橋歸帆
石山秋月
瀬田夕照
三井晚鐘
比良暮雪
堅田落雁



石山寺



諏訪湖氷結人馬通行之圖

回五十九里餘あり。湖邊は風光清絶にして、幸崎の松、矢橋の歸帆等近江八景の名あり。富士山と並べ稱して、本邦の双美とす。湖上漁船往來し、又灌溉に便なり。其の北に余吾湖あり、兩湖の間は有名なる賤ヶ岳の古戰場なり。信濃の諏訪湖は中央高地の山間にあれば、嚴冬は湖面氷結して、人馬氷上を通行す。日光山中の中禪寺湖は周回八里、風光秀麗なり。

○日本海岸に在る湖沼は多く、潟と稱するものにして、即越前の北潟、加賀の河北潟、柴山潟、能登の邑知潟等ありて、何れも運輸灌溉の便あり。若狭の三方湖は三個の湖より

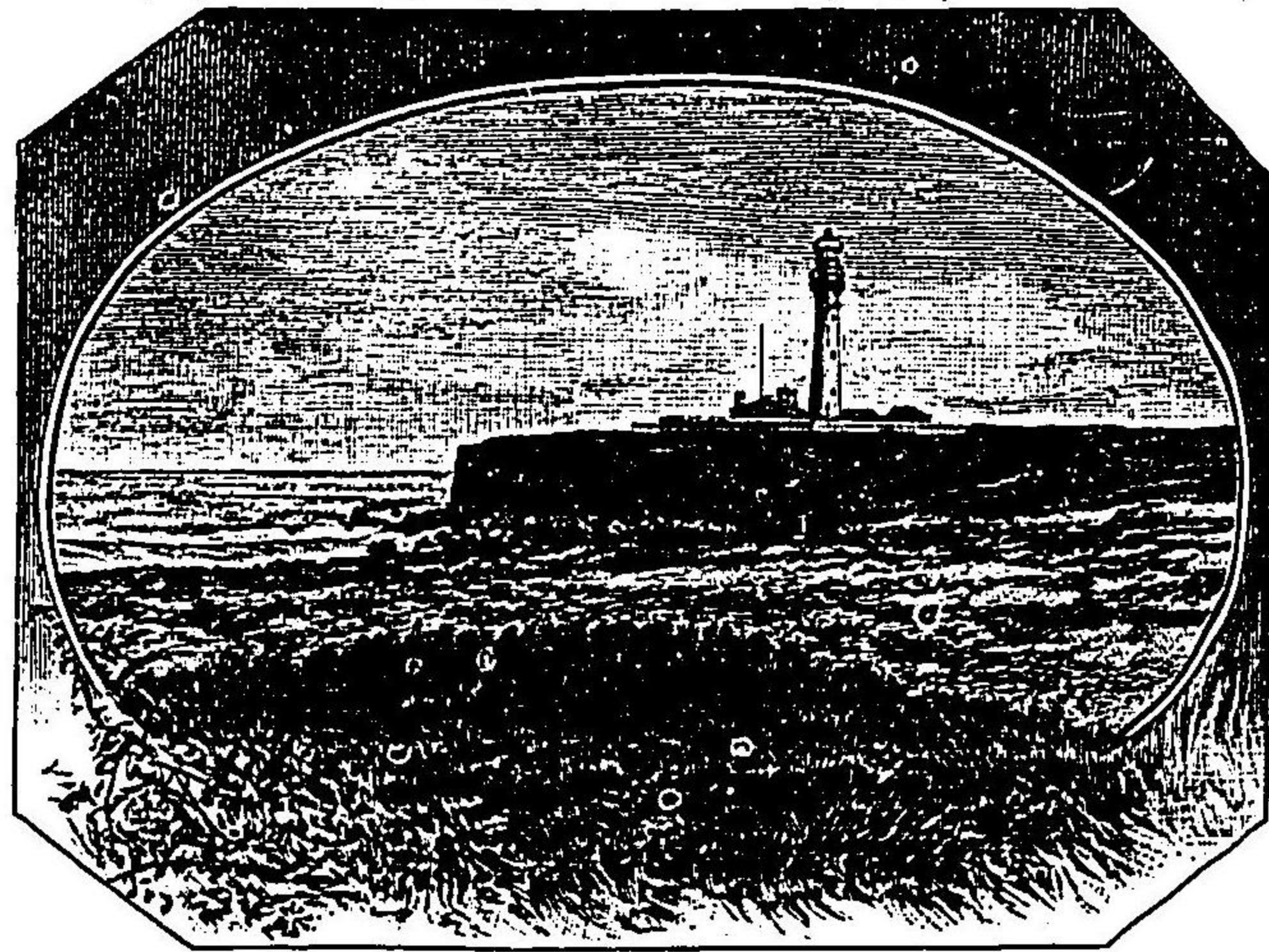
沿海

成り、中央の水月湖最も大なり。

◎沿海 中仙道六國と東海道の伊賀、甲斐二國の外は皆濱海國なり。南方太平洋方面は海岸線の屈曲に富み、良港尠からずと雖も、日本海方面は出入少く港灣に乏し。是れ一は地體の表面に屬し、他は裏面にして、土地發育の相異なるを以てなり。

○太平洋沿岸を記すれば常陸の沖は鹿島灘と稱し。犬吠岬其南に突出して略々暖寒兩海流の境をなす。上總の沿岸は鰯の漁場を以て有名

犬吠岬の燈臺

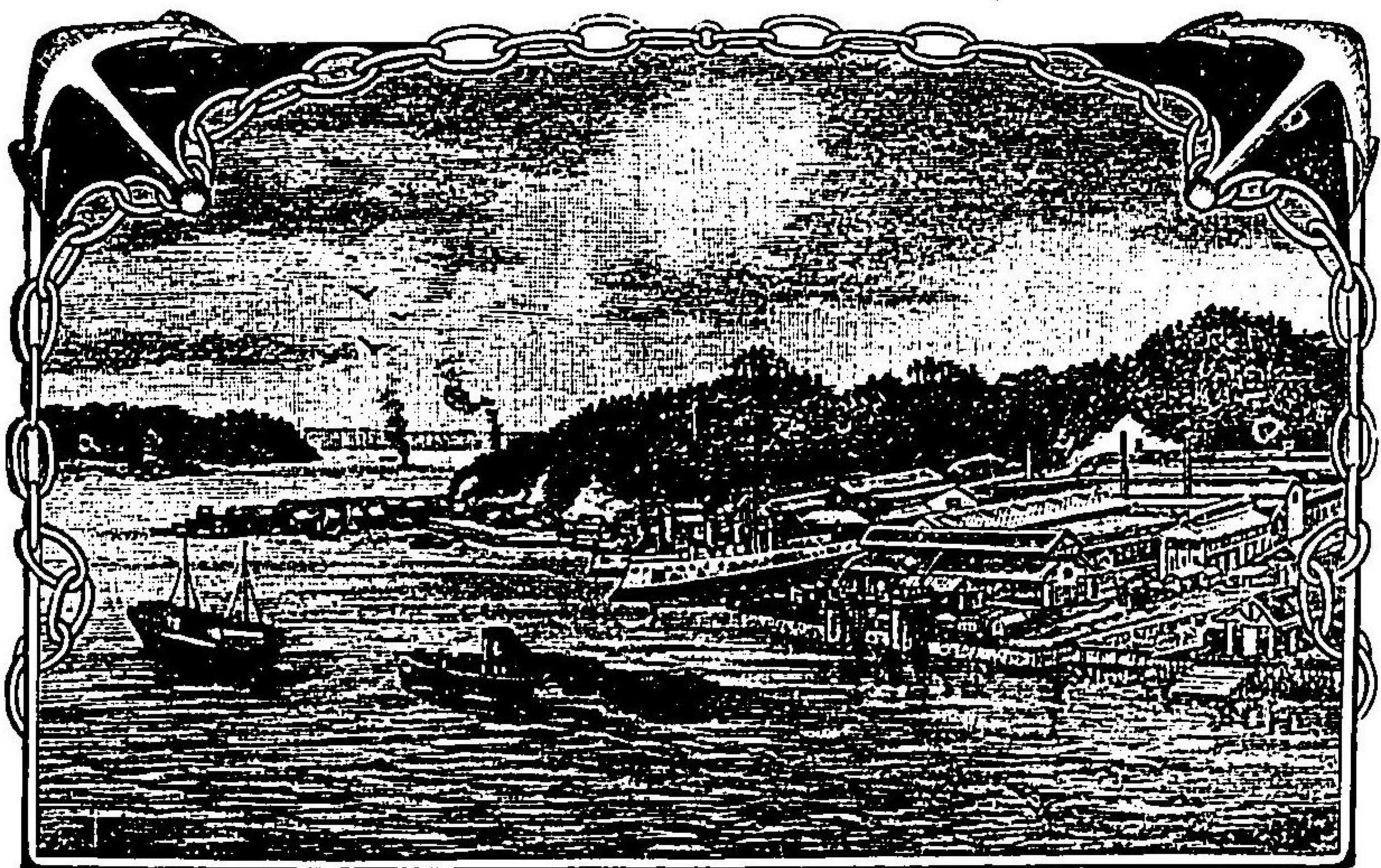


太平洋沿岸

なる九十九里濱にして、房總半島の南海上を房州沖と唱へ、半島の東端を大東岬(總上)とし、南端を野島岬(安房)とす。西に突出して東京灣口を擁するは洲崎なり。

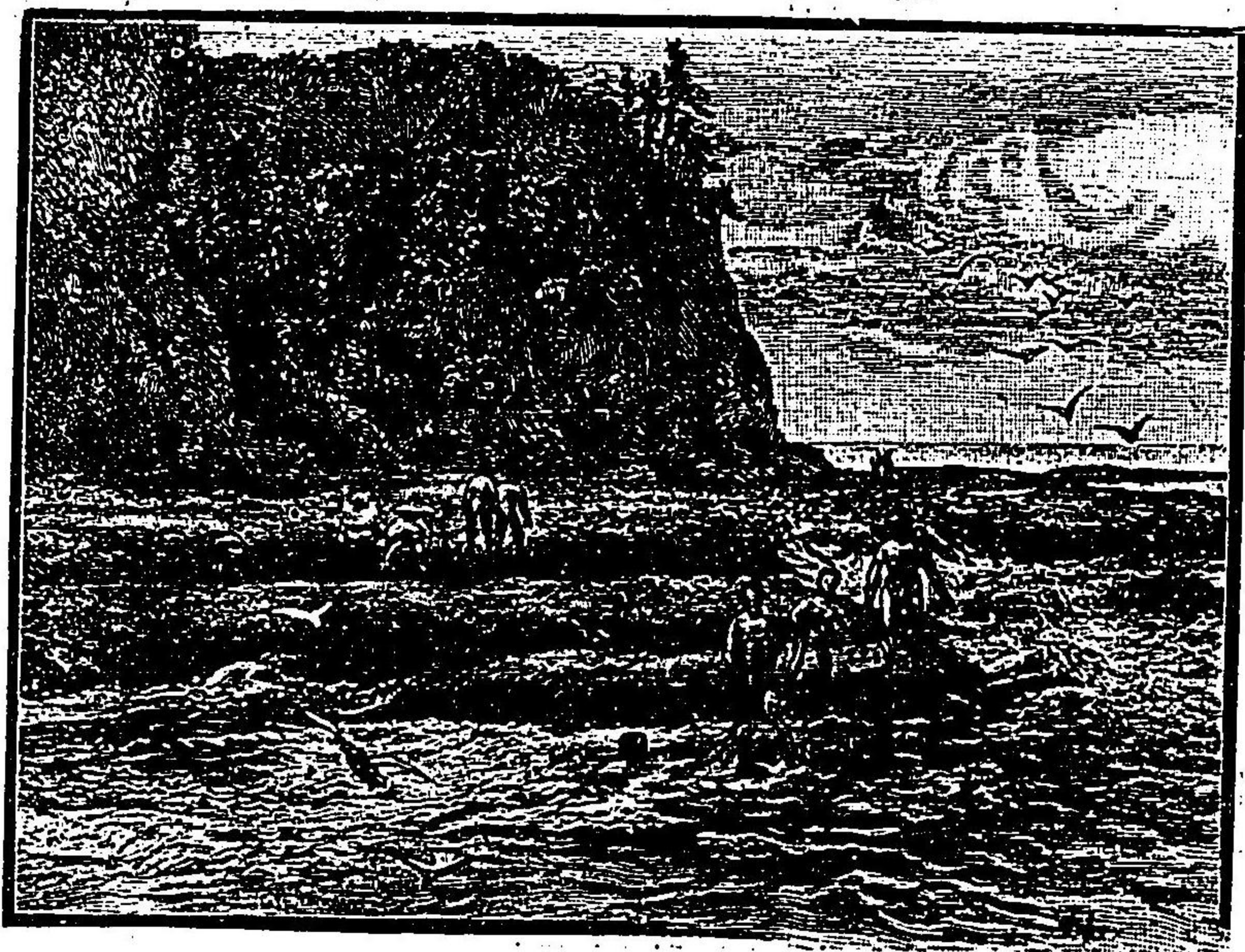
○東京灣ハ房總及三浦の兩半島ニ擁せられ、南北殆ど十三里の大灣入なり。東岸に木更津、北條、館山の諸港あり。西岸の横濱は即五港の一なり。横須賀は軍港にして東洋無二の造船場あり。其の南の觀音崎には砲臺ありて上總

横須賀軍港



の富津砂嘴と共に東京灣の咽喉を扼せり。三浦半島の南端なる三崎には大學の臨海實驗所を設く。其の南の江城ヶ島と駿河の眞鶴崎の間は相模灘にして、其の沿岸には覇府の古趾なる鎌倉、風光の美なる江の島、海浴に名ある大磯等あり。都人士の遊覽常に絶へず。

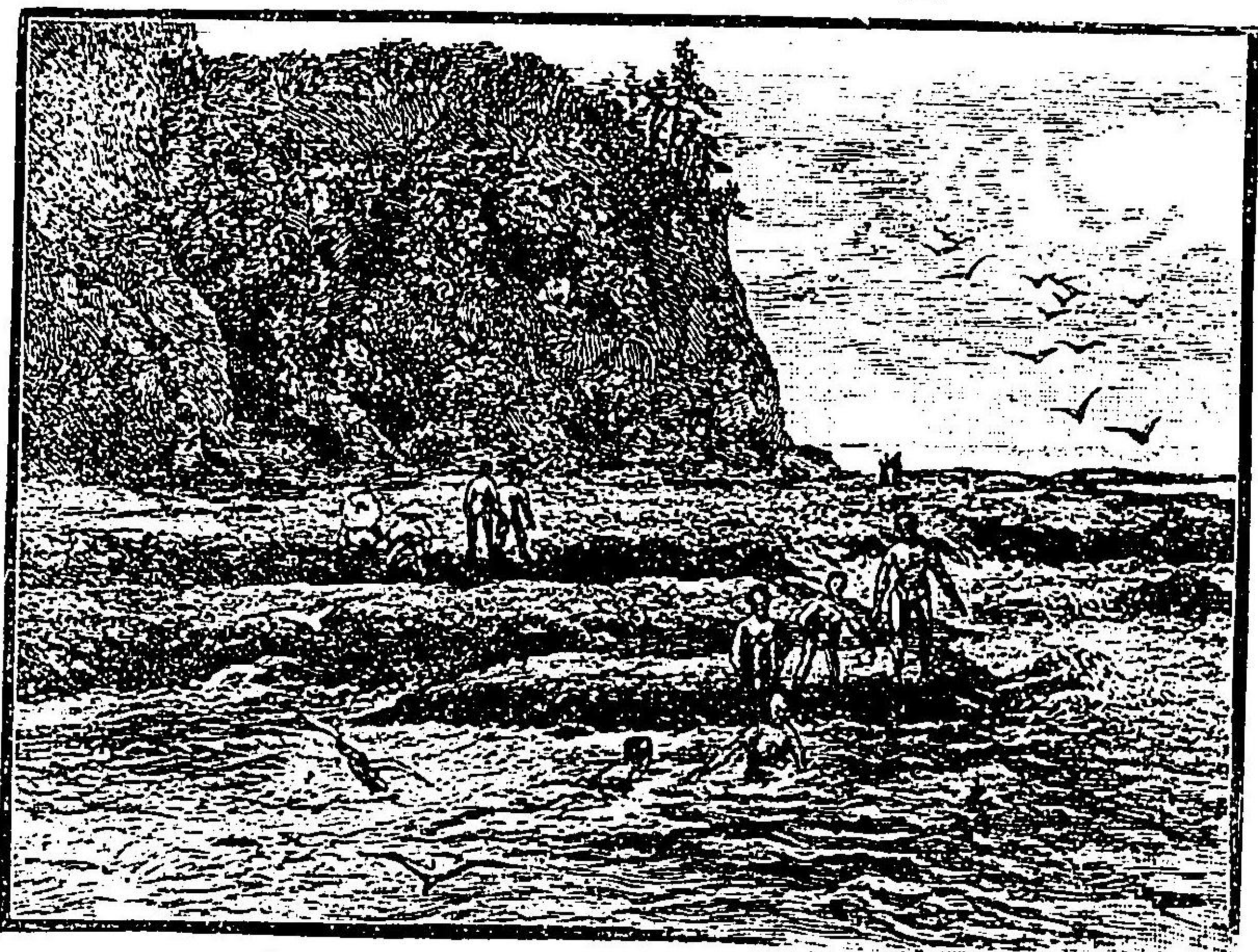
○伊豆半島は南に出で、是より南方に羅列する豆南諸島



を統率せり。半島の南端を石廊崎と云ひ遠江の御前崎と相對し其の間に駿河灣を抱けり。沿岸に興津、蒲原、田子浦等あり。白砂の富士の高峰を後に控へ、早乙女や田子へ植込む富士の影の景實に絶佳なり。清水港は三保の松原に擁せらるゝ佳港なり。○三河の渥美半島は西に挺出し、其の端の伊良湖岬は志摩と相對して一大灣を擁す。灣内に知多山嘴出で、海を東西に別つ。東は衣ヶ浦にして西を伊勢海とす。伊勢の沿岸には阿漕浦及二見浦等の勝地あり。四日市は五港に亞げる要港にして、本洲中部及北陸の貨物は多く此の港によりて集散す。其の他桑名、熱田の良泊あり。志摩には西に御座崎、南に麥崎ありて安乘崎は北に向ふ。中間なる大王崎、以東伊豆の石廊崎に至る海上は遠州灘にして、黒潮暖流は此の海上に於て最も分明に、一時間凡

の富津砂嘴と共に東京灣の咽喉を扼せり。三浦半島の南端なる三崎には大學の臨海實驗所を設く。其の南の城ヶ島と駿河の眞鶴崎の間は相模灘にして、其の沿岸には霸府の古趾なる鎌倉、風光の美なる江の島、海浴に名ある大磯等あり。都人士の遊覽常に絶へず。

○伊豆半島は南に出で、是より南方に羅列する豆南諸島



を統率せり。半島の南端を石廊崎と云ひ遠江の御前崎と相對し其の間に駿河灣を抱けり。沿岸に興津、蒲原、田子浦等あり。白砂の富士の高峰を後に控へ、早乙女や田子へ植込む富士の影の景實に絶佳なり。清水港は三保の松原に擁せらるゝ佳港なり。

○三河の渥美半島は西に挺出し、其の端の伊良湖岬は志摩と相對して一大灣を擁す。灣内に知多山嘴出で、海を東西に別つ。東は衣ヶ浦にして西を伊勢海とす。伊勢の沿岸には阿漕浦及二見浦等の勝地あり。四日市は五港に亞げる要港にして、本洲中部及北陸の貨物は多く此の港によりて集散す。其の他桑名、熱田の良泊あり。志摩には西に御座崎、南に麥崎ありて安乘崎は北に向ふ。中間なる大王崎、以東伊豆の石廊崎に至る海上は遠州灘にして、黒潮暖流は此の海上に於て最も分明に、一時間凡

二、湍の速力を以て東北へ流る。

○日本海沿岸は裏日本の彎曲部に當るを以て陷落の遺跡多く其沿岸は怒濤に嘯まれ奇景に富めり。特に丹後越前間の灣入は最も大なる陷没所にして其の間に岬灣の出入多し。若狹の赤礁岬は西より松ヶ崎は東より出で、小濱灣を抱き内に小濱港あり其の東に常神崎突出せり。越前の立石岬は北に出で、敦賀灣を作り内に敦賀の要港あり此の港は將來西伯利に對して實に有望の港泊とす。越前崎は西に向ひ遙に丹後の與謝半島を雲烟の間に望むべし。安島崎は北部にありて其の南には坂井港(三國)あり。加賀は海岸の出入に乏しく唯一の金石港あるのみなり。

○能登は人掌状をなして北に斗出し將に珠(能登島)を受けんとす

るに似たり。其の掌内は七尾入江にして指頭に當り兩岬あり北を綠剛岬南を珠洲岬と云ふ。此の附近暗礁多く航海甚だ危険なり。掌背には輪島港あり。能登半島の蔭にある越中灣は半圓形をなし内に伏木なる特別輸出港及魚津あり。是れより越後海岸に連れり。

◎處誌 本區は我が國の中央主要部を占め風土習俗自ら本邦の標本たり。中にも東海道は地味肥え産物多く且交通便なる沿海を占め形勢優勝なるを以て民物夙に繁庶し賴朝幕府を鎌倉に開きしより本邦の政權は久しく此の地に集れり。後群雄各地に起り各々一方に雄視せしが家康幕府を江戸に開くに至り再び本邦の中心は此の地に集り人文も亦夙に發達し我國の舊習古格は概ね本道に養成せられ歴史上至大の關係を有せり。

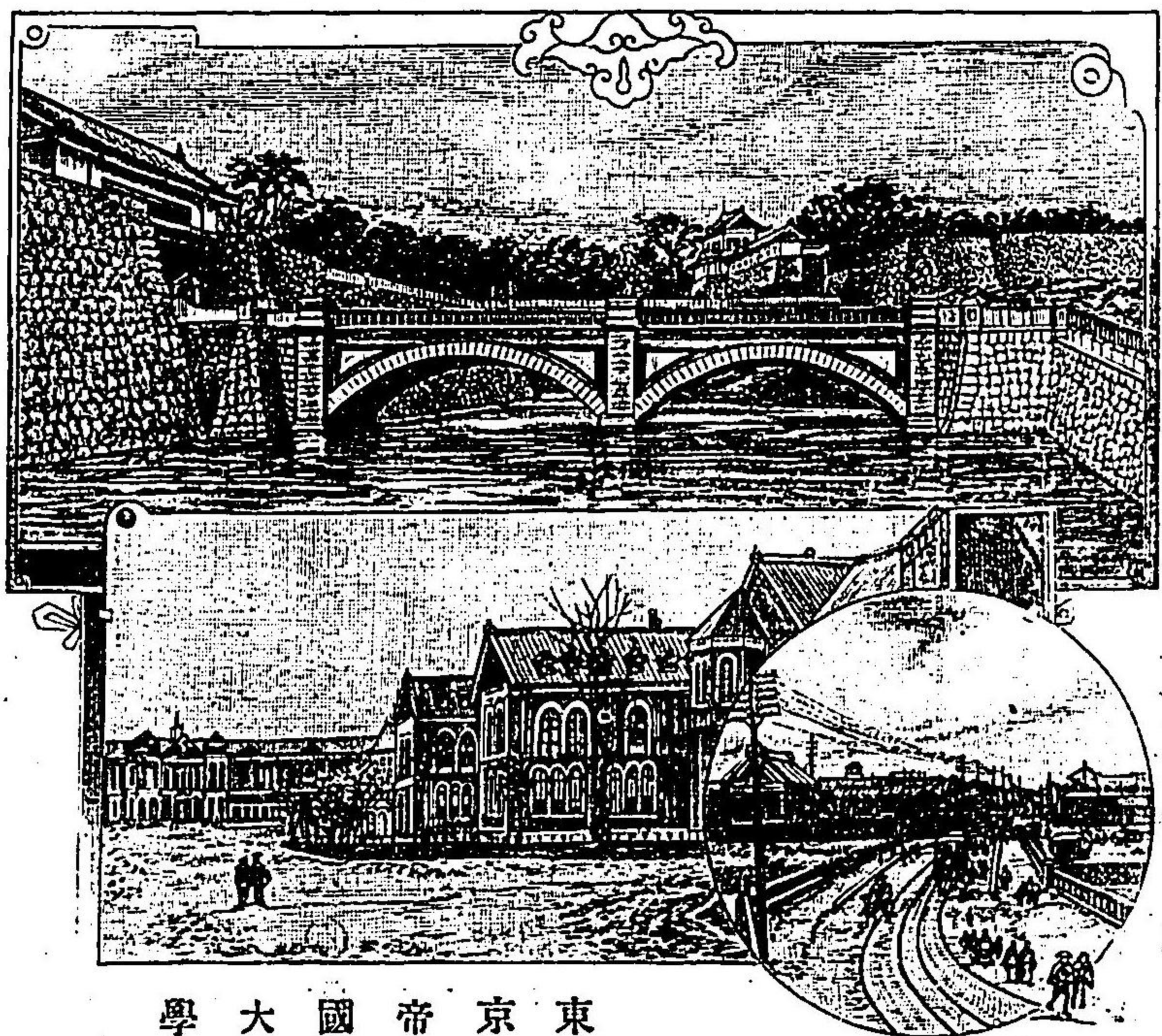
○關東平原の人士は濶達にして任俠を帯び、古來關東武者は驍勇の稱ありき、然れども、近時、都人士は奢侈に流れ、輕佻に趣く傾きあり。關西の人は質は溫和にして、伶俐なり。中仙道は山地なれば、其住民は概して淳樸にして、強毅なれども、平野に住するものは、蠶業盛にして、富を得ること易きにより、柔弱に流れ、驕奢に趨る風あり。西部畿内に近き地方は屢々兵を被り、交通も亦從て繁く、故に智慮に富み、辯舌爽快なり、又一般に峭直にして、犯罪人少く、佛教の信者多し。

東京府

◎東京府 管轄 武藏の一市八郡、伊豆七島、小笠原島、硫黄島。關東平原の南部を占め、南は内海に濱し、北は秩父山彙蟠まり、荒川、多摩川は其の東西に流る。往昔は武藏野と稱し、荒涼の原野なりしが、今は我が國の最も重要なる所となれり。

宮城

千代田の宮城



東京帝國大學

東京日本橋

○東京市は我帝國の首府にして、南は東京灣に臨み、北は關東平原を控へ、中に隅田川を帯べる形勢無雙の地位を占め、世界屈指の大都會にして、東洋第一流の名都たり。市區は東西三里、南北四里に亘る、人口百三十六万八千を有す。市の西北部は低き丘陵に據り、其の東南一面は海

及河に沿へる平地なり。故に「山ノ手」「下々町」の稱あり。市は之を十五區に分つ即麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川、是れなり。

○麴町區は市の中心にして、殊に丸の内と稱する外濠内には宮城あり、宮城の周圍には二重若くは三重の湟渠を繞らし、老松鬱蒼として長へに千代田の宮闕を護れり。諸官省、國會議事堂、兵營等は多く此區内にあり。日本橋、京橋、神田の三區は、商業の最も繁盛なる所にして、豪商巨賈多し。芝區は西端に在りて芝公園を有し、麻布、赤坂、四谷、牛込は市の西部を占め麻布に第一師團、赤坂に離宮等あり。小石川、本郷は市の北部にして小石川に植物園、本郷に東京大學、高等師範學校、第一高等學校を始め各種の學校多し。下谷、淺草の兩區は市の東北部に當り、商賣又繁昌し、下谷

に上野公園、淺草に淺草公園あり。本所、深川の兩區は隅田川の東岸にあるを以て江東の稱あり。市中到る所股賑にして、文明の事業概ね具備せざるはなし。

○市民は古より蒔繪、細工、鼈甲、細工、錦繪、裝飾品等製造の技に長じ、近來、書籍出版、印刷事業、學術器械、及歐米模造品等の製作盛なるは他に及ぶ所なし。

○東京は舊名を江戸と稱し、三百年前、太田道灌初めて武藏野の一部に一小城を築けるを基源とし、後家康大に之を改築し、幕府の治所と定め、天下の諸侯伯をして邸宅を營み參勤交代せしめしより、其の繁華全國に比類なきに至れり。明治二年遷都以來、東京と改め中央政府を置かれたるを以て、現今は實に本邦の政治、經濟、學問の中心となれり。

○陸路は東海道、甲州街道、中仙道、奥羽街道等大幹線の起點となり。鐵道は東海道へ新橋より、東北、北陸及常磐へ上野より、甲武へ飯田町より、總武へ本所より四通せり。海路は東京灣及横濱より各所に通せり。

○八王子町は甲州街道に當る一都會にして、人口二万六千を有し、生糸絹布を以て著名なり。青梅は綿を産し、大森は海苔の産あり。

○豆南諸島は本縣の管轄に屬し、伊豆の南海上に羅列する島嶼なるを以て此の稱あり。伊豆七島、小笠原群島、硫黄島の三島彙に分る。皆富士帶火山脈の噴出に係る火山島なり。

○伊豆七島とは大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島を謂ふ。其内、大島(周回十里)を最大とす、中央に三原山(活火山)あり。八丈島は下田港を距る四十七里にあり、八丈絹を産す。其の北御倉島との

間に有名なる黒瀬川あり、黒潮の流勢急なる所なり。

○小笠原群島は下田港の南二百餘里にあり。文祿二年小笠原貞頼始めて發見せしを以て此名あり。古は無人島と稱せしが、今は住民二千二百人あり。

父島、母島、聳島の三群島に分ち、父島は島廳所在地なり。此の諸島には鳳梨、珈琲、香蕉、椰子、信天翁、大蝙蝠等熱帶的産物あり。

○小笠原島の南(北緯二十四度、南緯五度)に硫黄、南硫黄、北硫黄の三島あり。何れも無人島にして、火山列島と稱せしが、明

小笠原島の産物



治二十四年我が版圖に入れ、今の名に改められたり。

◎神奈川県 管轄 武蔵三郡相模全

○本縣に屬する武蔵の一部は、東京灣に濱する景勝の地なり。

○横濱市(武蔵)は東京灣に臨み本邦最盛の開港場にして内外の船舶常に輻湊す。其の輸出品の重なるものは蠶絲、茶、絹手巾、絹二重、銅等にして、輸入品は綿花、砂糖、羅紗、石油等なり。此の地今より三十年前は葦蘆深き一漁村なりしかども安政六年互市

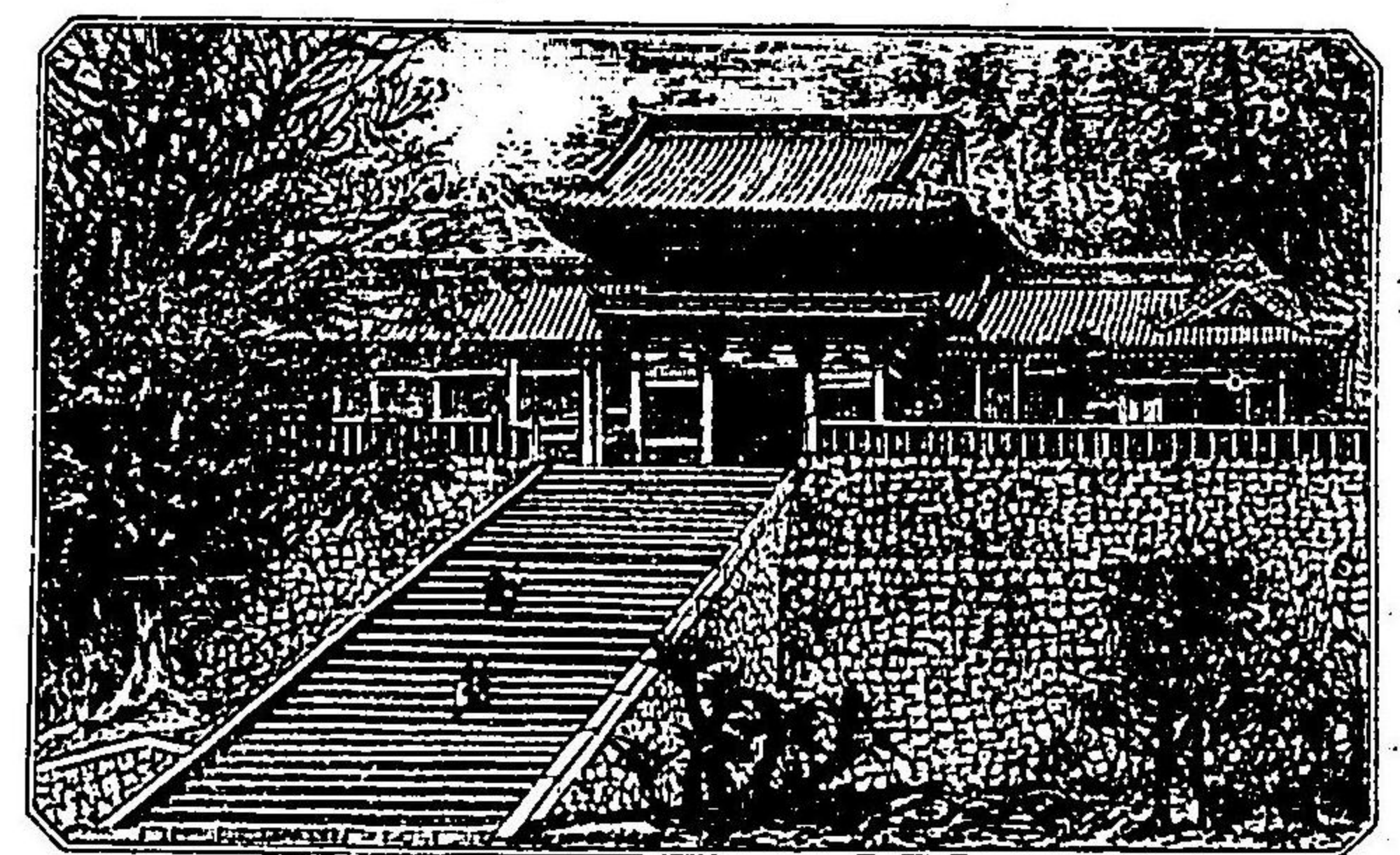
横濱税関 横濱港



場となりし以來俄に繁盛に趣き今や十八万の人口を有し、東海道線路に當り(東京との間僅に二十八哩)瀛車の往復甚だ頻繁なり。此の港は内國は勿論、海外各國と通じ、東洋稀有の要港となり。市に神奈川県廳在り。神奈川(武蔵)は横濱市に近く人口一万七千稍々繁盛なり。

○相模は山を負ひ海に臨み、東は關八州の平野に接し、西に函嶺の嶮を控へ形勢頗る佳なり、古昔本邦の首權を鎌倉に集めたるは偶然にあらざるなり。小田原町は箱根の東麓にあり、昔北條氏數世據りし地なり、後大久保氏此の地に封ぜらる。相模洋の濱三方屏風の如き丘を以て圍まるゝ内に鎌倉あり、是れ源頼朝の霸府を定めし地なるを以て舊跡多く、頼朝を始め源家及北條數代の英主謀臣の苔下に眠れる墳墓あり。又鶴岡八幡、鎌倉五山

埼玉縣



宮 橋 八 岡 鶴

(建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨知寺、淨明寺) 大佛及大塔宮の土窟、鎌倉神社あり。其の他七里ヶ濱の潮聲、由井ヶ濱の沙場等皆な懐古の料ならざるはなく。都人士の訪ふ者多く、今は鐵道の便あり。三浦半島に在る横須賀は我が軍港にして第一海軍區の要鎮なれば、海兵團あり、要塞砲兵あり、又堅固の船渠あり。同半島に在る浦賀、逗子、葉山、三崎等は海濱療養の爲め都人の來遊多き所なり。

◎埼玉縣 管轄 武藏の九郡
○本縣は武藏の北半部の平原地方を管す。縣廳所在地なる浦和

千葉縣

町は其の南部に在り、東京を距ること僅に十三哩、日本鐵道の線路に當り、交通便利にして、木綿織物を以て名あり。其の外、川越は甘薯の産地にして、熊谷は鐵道線路に當る名邑なり。

◎千葉縣 管轄 上總、安房の二國、及下總の六郡

○本縣に屬する下總は關東平原の最も低平の部を占め、小都會多し。千葉町は東京灣に臨み、人口二万六千、總武鐵道線路に當り、東京へ二十一哩あり、第一高等學校醫學部を置く。佐倉町は印旛沼に瀕し、第二旅團所在地にして、佐倉炭の名産あり。其東部の成田町には有名なる新勝寺(成田不動)あり、尙ほ東すれば、佐原あり、本邦地學の祖、伊能忠敬翁の郷土たるを記すべし。此れ等の各所は、皆鐵道連絡せり。上總は房總半島の地なり、東京灣に臨みて、木更津あり、外洋の濱は、九十九里濱にして、一の宮、勝浦の小都

茨城縣

會あり。安房は房總半島の南部を占め、高僧日蓮出身の地として著名なり。東京灣口に北條館山の小都會あり。

○茨城縣 管轄 常陸一圓及下總の三郡

○常陸は關八州の東端にして、又東海道の東端なり。水戸市は縣

廳所在地にして、那珂川の流域を占め、人口三万一千、鐵道各地に通じ、關東々端の貨物集散地なり。維新前には弘道館と稱する

有名の學舎ありて、水戸學派及徳川光圀卿の名は大日本史の撰

と共に著名なり、近世の偉人藤田東湖の出身地なり。霞浦の北

岸に土浦石岡の兩町あり。下総には利根河畔に古河あり。結城

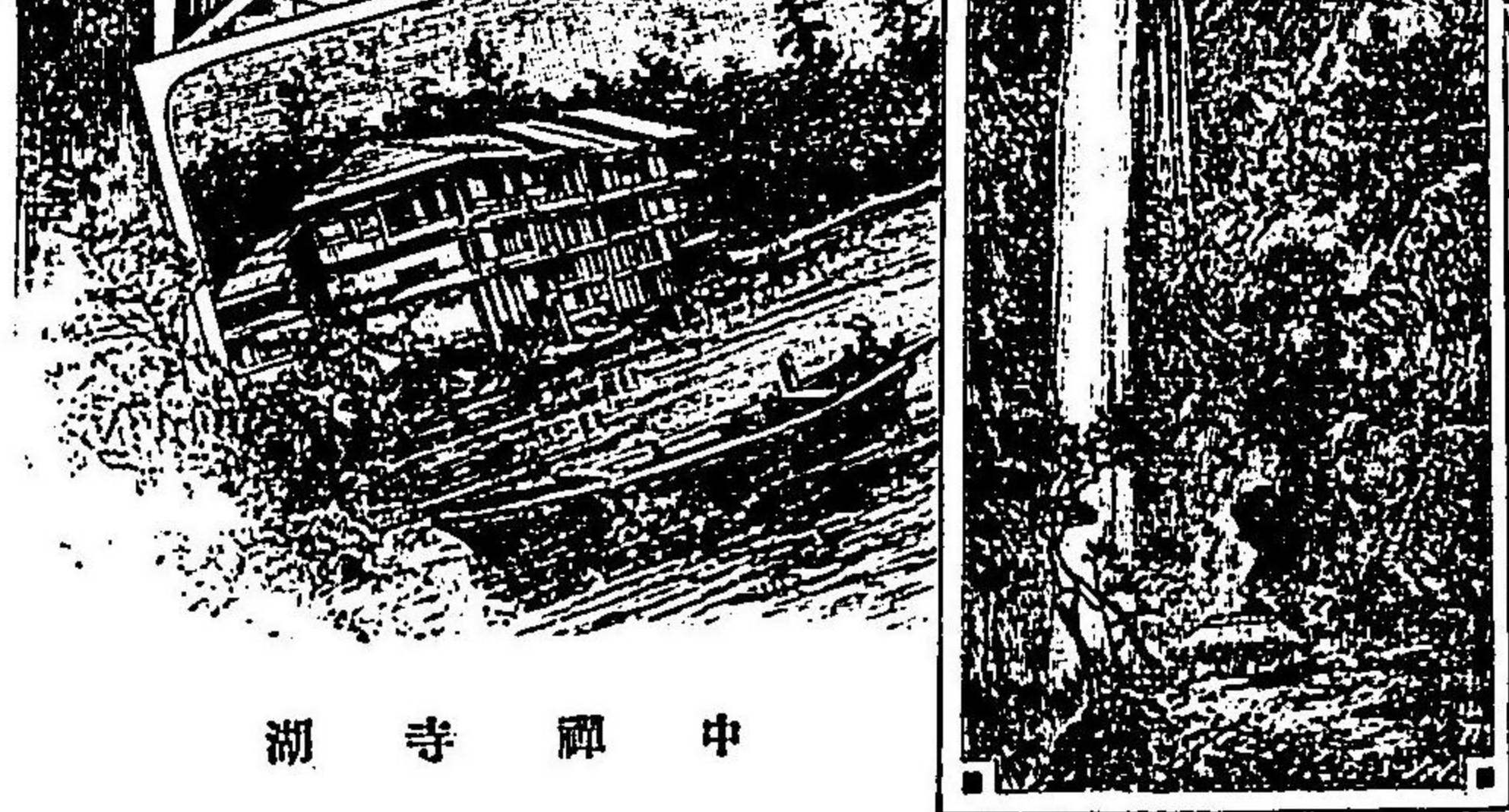
は其の東北にありて紬を産す。

栃木縣

○栃木縣 管轄 下野一圓

○下野は關八州の一部を占め、上野と共に源家の根據地にして、新

日光の陽明門



中禪寺湖

田足利兩氏の起

りたる所なり。其の南半は關東平野の一部に屬

し平坦なれども

北半は山嶺甚だ重

疊せり。此の國は

上野と共に兩毛の

稱あり。宇都宮市

は縣廳の在る所、東

北日光、兩鐵路の要

衝に當り、人口三万五千、市街繁盛な

り、蒲生君平は此の地に生る。足利町は絹織の産地として著名なり。栃木町は宇都宮に次げる都會なり。足尾町は本邦第一の銅山あり。日光町は結構壯麗なる東照廟あり、男躰山高く後に聳えて、山間に中禪寺の湖を湛へ、其の水灑て華嚴の瀑布となる、其附近風景秀美の地多し。小山は奥州、水戸兩鐵道の分岐する所、鹿沼は麻を産し、真岡は木綿の産地なり。

◎群馬縣 管轄 上野全國

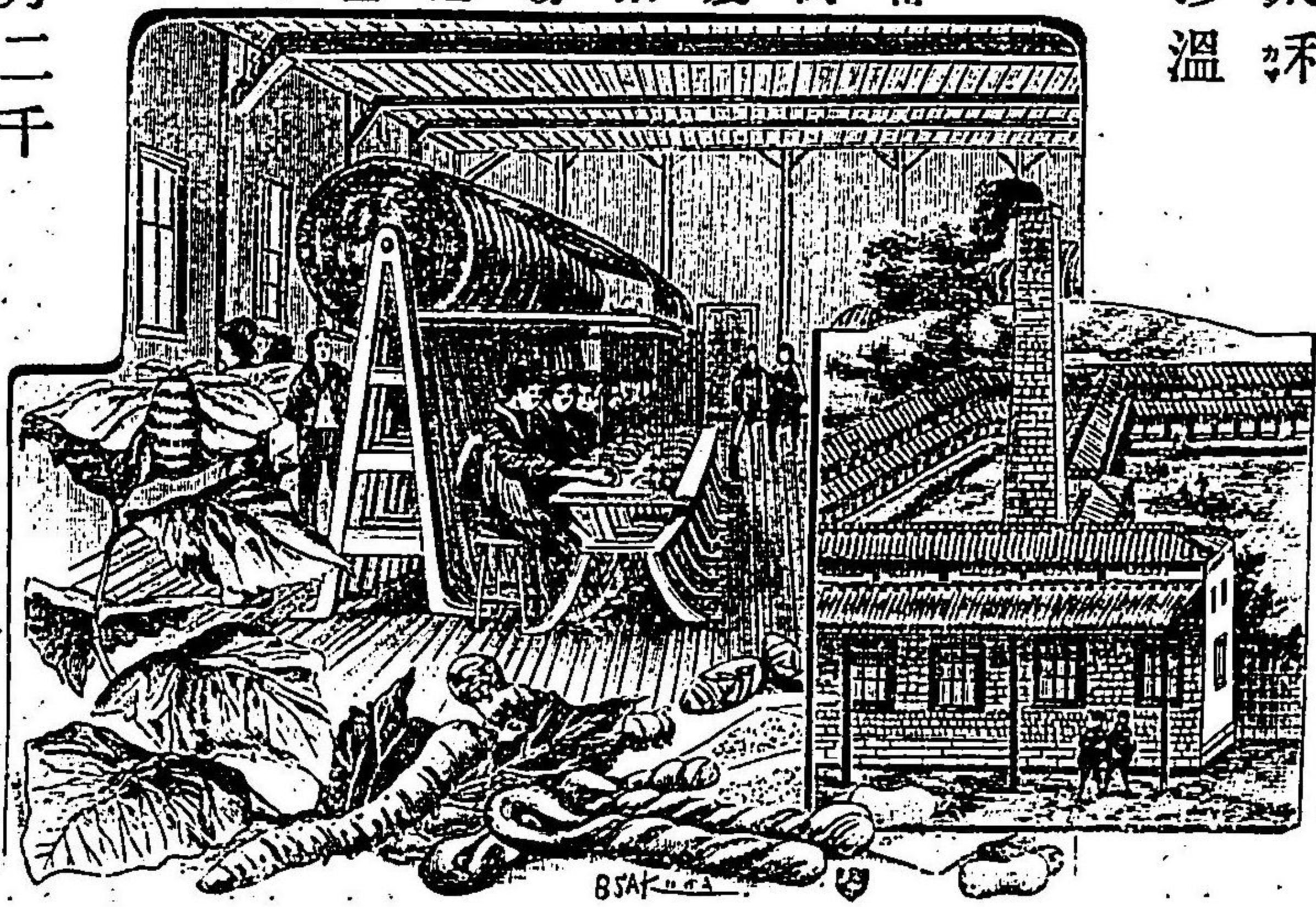
○本縣の南は關東平野の一部を占め、繁盛なれども、北部は山岳起伏して、中央高地の一部に屬せり。平野の中央に前橋市あり、縣廳所在の地にして、人口二万九千餘市街繁盛なり、殊に蠶糸の賣買を以て著名なり、中仙道の要路に當り、鐵道交通の便を占めたり。其の西南六哩に高崎町あり、機業地にして歩兵第三聯隊を

置く。桐生町は絹布の産、下野の足利と並び稱せらる。其の他伊香保の温泉、富岡の製糸場、伊勢崎の織物等は本縣の名物なり。

◎長野縣 管轄 信濃全國

○信濃は日本中央の大國にして、其の境十州に連り、地質上本邦山脉の集合點なり。故に地勢一般に高隆なるを以て、都會は所々の山間に在り。長野市は千曲川に臨み、有名なる善光寺あり、直江津鐵道線路に當り、(東京へ瀟車) 程九時間) 人口三万二千

富岡製糸場之圖



を有し、漸次繁盛に趣かんとす。縣の中央にある松本町は長野に次で繁盛なる都會にして、蠶業盛なり。步兵第十五聯隊を置く。上田町は千曲川の上流に臨み、養蠶及紡績業盛なり。飯田町は天龍河畔の名區にして、諏訪湖畔に上、下諏訪あり、松代は千曲川畔の小都會なり。

山梨縣

◎山梨縣 管轄 甲斐全國

○本縣は圍境、富士山の陰にあり、且關東、赤石の兩山脉東西より迫るを以て、四面皆山を繞らし、甲斐の名は岐(山の)より出でたりとぞ。甲府市は其の中央の窪地に位し、人口三万五千、縣廳ありて市況繁盛なり、此の地は曾て武田氏の割據せし所なり。其の東にある勝沼町は葡萄の産を以て名あり。郡内(國の)は甲斐絹、郡内織の産地にして、奇工を以て名ある猿橋あり。秋ヶ澤は駿河に

静岡縣

下る富士川の渡場なり。

◎静岡縣 管轄 駿河、伊豆、遠江の三國

○駿河は南、駿河灣に臨み、北に富士山を負ひ、頗る風景に富めり。静岡市は安倍川の灌域に在り、人口三万九千、元と徳川氏の別封地にして、駿府と稱したり、東海道鐵道の要路に當り、東京と名古屋の中間を占め(東京へ百三十哩、名古屋へ百十五哩)市街繁盛にして、漆器、竹器等の産あり、步兵第三十四聯隊屯在す。沼津町は氣候溫和に、風光佳なるを以て、御用邸を始め都人士の別邸多し。清水、田子浦等も濱海の名區なり。

○伊豆は海中に突出せる半島國にして、即ち「出」なり。三島町は豆州第一の都會にして、箱根峠の西麓にあり、昔は東海道の要驛なりき、三島神社は有名の古社なり。下田港は嘉永年間、米艦來着

愛知縣

を以て名あり。熱海は有名なる間歇温泉あるを以て繁昌せり。葦山アサヤマ北條修善寺等は名邑にして、葦山の近傍の蛭小島ヒルコノシマは頼朝の配流せられたる所なり。

○遠江は濱名湖あるを以て、近江に對して此の名あり。濱松町は濱名湖東に在り、人口一万九千、東西兩京の中央東京へ二六七哩、京都へ二六二哩に位し、瀛車旅客の宿泊する者多く、市街繁盛なり。其の北に三方ヶ原の古戰場あり。

◎愛知縣 管轄 尾張、三河の二國

○東海道の間、豊富の要地にして、其の尾張は濃尾平野の南部を占め、全國無比の沃野なり。故に古來、此の沃野間に身を起したる偉人多く、中古の頃は英雄の争地となれり。沃野の中央に建てるは即名古屋市にして、東西兩京の要路東京へ二三五哩、京都へ九四哩に位し、瀛



名城古屋古名

車の往復繁く、水運には熱田、半田、武豊の諸港を控へ、交通甚だ便に、諸方の貨物輻湊せり、人口已に二十三万五千に達し、帝國第四の大都なり。元徳川三家の一なる尾州侯六十二万石の城市にして、其の城、天守閣頂に金鯨を装へるを以て金城の稱あり。今は第三師團司令部を置く、市には愛知縣廳、控訴院等あり。漆器、七寶焼を始め諸種の手工品を産す。熱田は熱田神社あるを以て宮とも稱し、社には草薙の劍を奉祀す、此の地伊勢路を往復する船舶の發着繁し。又小牧、長湫、及桶狭間は有名の古戰場にして、國の東部に

あり。

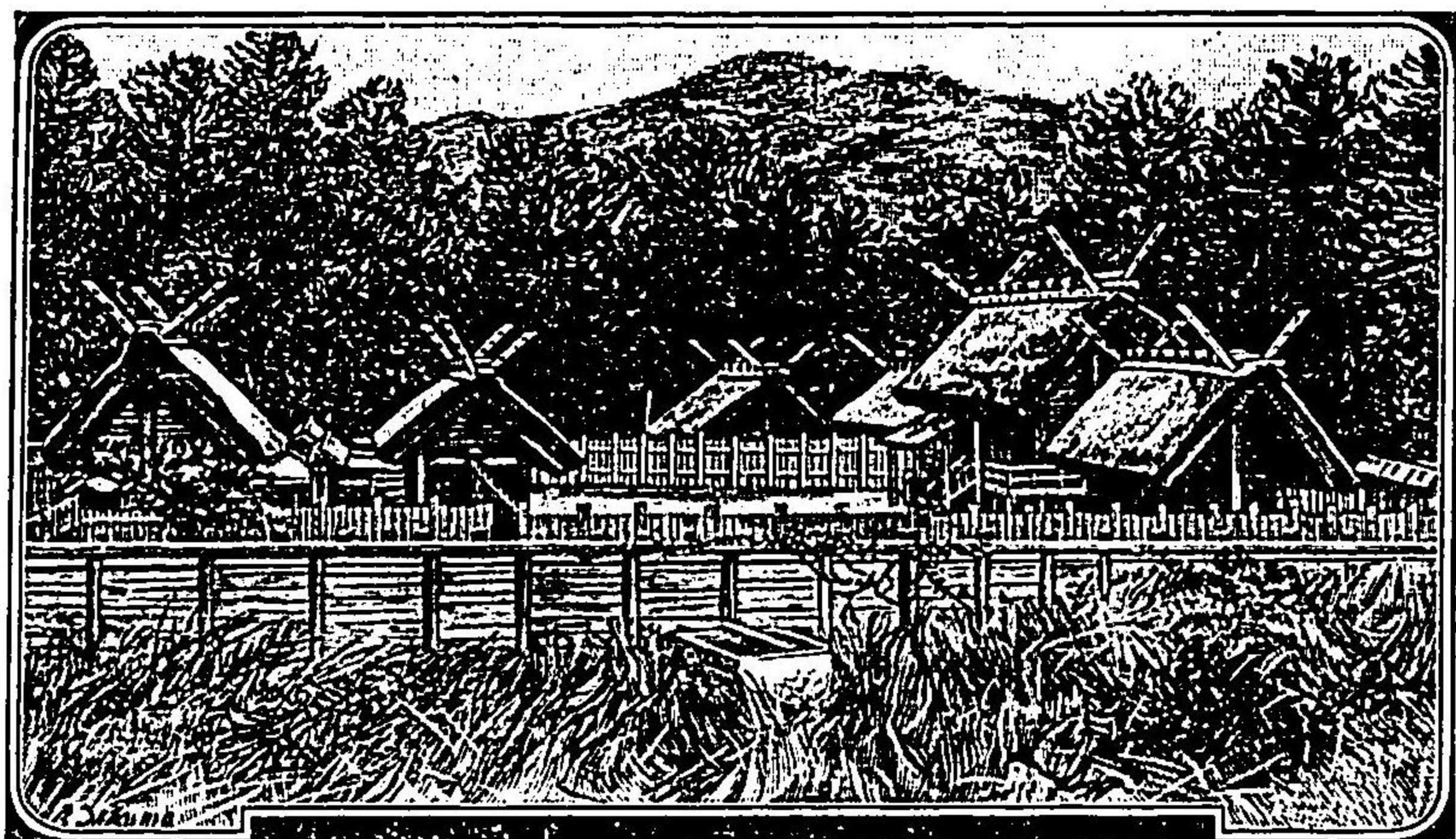
○三河は矢矧、大平、豊河、三河の灌域なり、徳川家康は此の間より起りしことを忘るべからず。岡崎町は始め徳川氏の治所にして、後、本多氏の封土たり、綿の賣買行れ、鐵道の便あり。豊橋町は舊名を吉田と稱せり、豊川に瀕し、廿七八年の役に驍名を擧げし、歩兵第十八聯隊の營所あり。豊川の上流には長篠の古戰場あり。

三重縣

◎三重縣 管轄 伊賀、伊勢、志摩、三國及紀伊の二郡

○伊勢の津市は伊勢海に臨み、一名安濃津と云ふ、藤堂氏(三十二万石)の舊治所にして、人口三万、三重縣聽あり、關西鐵道通じて、海陸の交通便なり、縞木綿、緞子織、阿漕燒等を産す。宇治山田町は皇太神宮(内宮)、豊受大神宮(外宮)の所在地なるを以て、參宮者絶へず頗る殷賑なり、即參宮鐵道の終點なり。桑名、四日市は共に北部

岐阜縣



伊勢大勢神宮

沿海の要津にして殊に四日市は特別輸出港として、盛に米穀を輸出す、横濱と定期航海あり、陸には鐵道の便あり。松坂町は木綿織を産し、國學の大家、本居宣長翁の生地とす。○伊賀は山間の小國にして上野は中央の小都會なり、其の南に名張あり。○志摩は三面環海の小國にして鳥羽、的矢の兩港あり。◎岐阜縣 管轄 美濃、飛騨二國 ○美濃の南部は濃尾平野にして、地肥は、美濃米の産地なり、然れども北部

は山頗る深し。岐阜市は米産地の中央に建ち、東海鐵道線の一要驛(名古屋へ一哩)なり、明治二十四年の震災に非常の損害を被りしかども今は再繁盛し、人口三万、縮緬、提燈、團扇の産あり。大垣町は揖斐川の流域を占め、霖雨の際は概ね水害を被る。關ヶ原は其の西に在り、不破の關趾にして『原草爲に赤し』と稱せられたる血戰場なり。

○飛驒は關境地勢高隆にして、所謂中央高地の中部を占めたり。

高山町は山秀で水清く、小京師の名を博せる山間の一都會なり。

滋賀縣

○滋賀縣 管轄 近江全國

○近江は帝都の咽喉を扼せしを以て兵を被りしこと少からず。

全縣琵琶湖を環り、湖畔勝景の地を領し、到る所風光清絶にして近江八景の名高し。歌仙猿丸太夫、近江聖人、中江藤樹、俳人其角

福井縣

皆此の地の出身なり。人質商賣に機敏にして、近江商人の稱あり。大津町は湖南に建ち、三井寺其の西丘にあり、關西、東海、兩鐵道の線路に當り、市街繁盛にして人口三万二千を有す、縣廳及第九聯隊の營所あり、湖水を京都に引ける疏水工事の大溝渠あり。膳所の城跡は其の南に在り。彦根は湖東にあり、元井伊氏二十万石の城邑なり。長濱も湖水に臨み、縮緬の本場と稱せられ。米原驛は鐵道の東海線と北陸線との分岐點なり。

○福井縣 管轄 若狹、越前二國

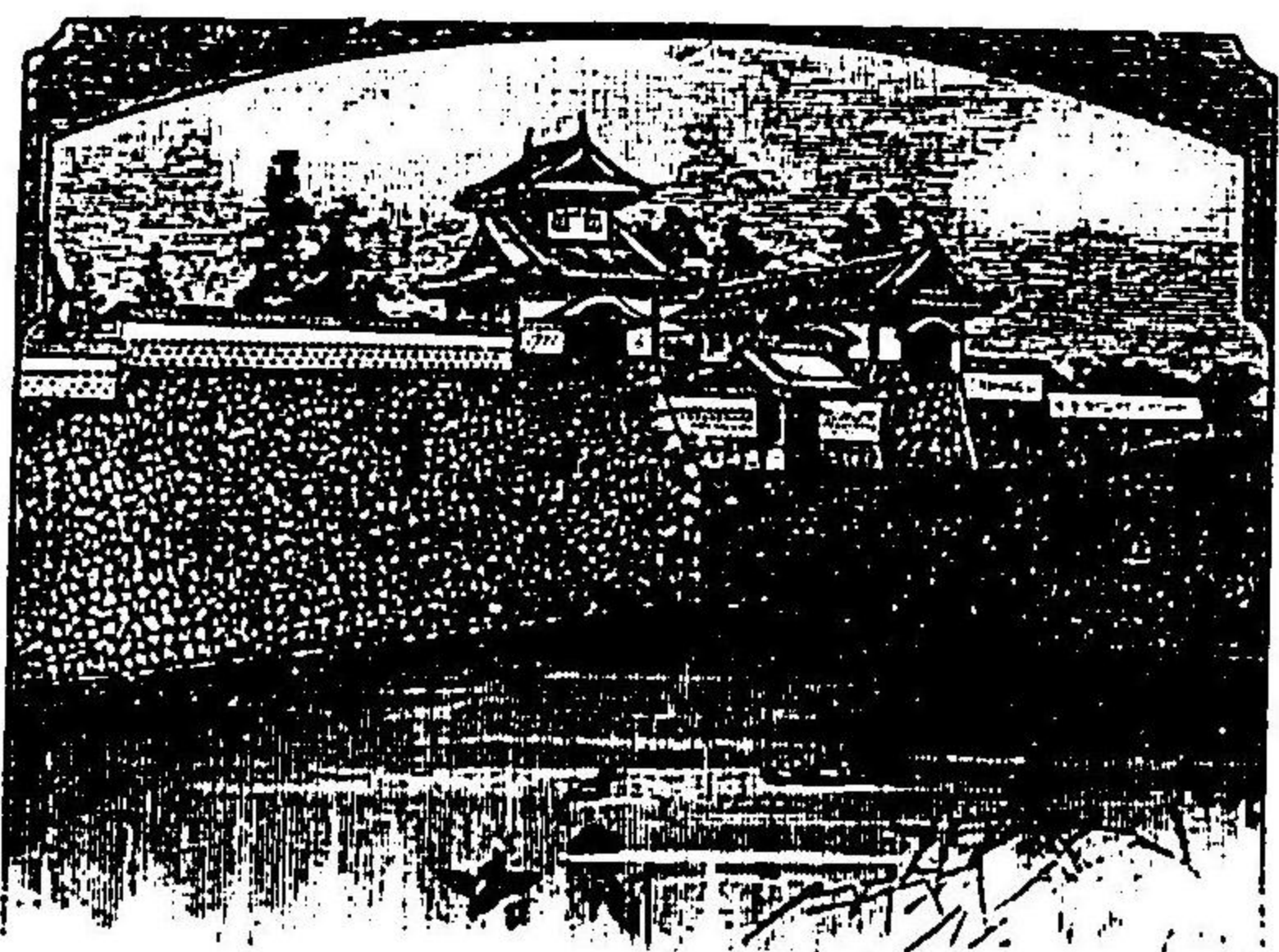
○越前は越路の入り口にして、近江の境なる木芽嶺は古、京畿の關門なりき、越の名是れに基せり。國內に、杣山、足羽、金崎等、南朝忠臣の遺跡多し。福井市は足羽川に跨り、古北の庄と稱し、柴田勝家茲に居城を築き、後、松平氏封を受くるに及び福井と改む、近來

絹手巾機業盛に行はれ、外國に輸出す、人口四万四千餘、北陸鐵道線路に當り敦賀との間三十九哩あり、西郊に新田義貞を祀る藤島神社あり。敦賀港は北陸第一の要港にして、陸路亦北陸道の咽喉に當り、鐵道によりて六時間を費し京都に達すべく、運輸交通の便を占め、市街繁榮なり、歩兵第十九聯隊此の地にあり。武生町は元府中と稱し、鐵器製造盛なり。其の北の鯖江町には歩兵第三十六聯隊を置く。三國町(坂井港)は日野河口の要津なり。

○若狹は岬灣海角多く風色に富めり、小濱港は小濱灣内の要港にして、酒井氏の舊封地なり、其の城は雲濱城と稱す、若狹塗の名産あり。

石川縣

◎石川縣 管轄 加賀能登二國



金澤城

○加賀の東南は山地なれども、沿海の地は平坦にして、河流灌漑の利に富めり。金澤市は北陸第一の大都會なり、人口八万三千を有し、石川縣廳、第六旅團司令部、第四高等學校等あり、舊名を尾山と稱し、前田侯茲に封せられ、金澤と改む、百万石の城市たりしを以て其の繁華三都に次ぎしかども、現今は稍々衰微の色あり、近時市民産業に意を用ゐる市勢を挽回せんとす、市内に兼六公園あり、本邦三公園の一と稱せらる。大聖寺町は越前の境に近く、絹布の産あり、丸谷焼は此の附近より産す。金石は金澤を控へたる要港にして、小松は越前路の名邑なり。能登の七尾町は七尾灣

内にあり、北海航行船の碇泊地なり。輪島町は日本海に瀕し輪島塗の産あり。

富山縣

◎富山縣 管轄 越中全國

○北に越中灣を擁せる肥沃の平野にして、河流灌漑の利あり。富山市は神通川に跨り、米穀産地の中央を占め、市街繁盛『小江戸』の稱ありき、人口五万八千、北陸の名都たり、此地の賣藥は全國に播布せり。高岡市は射水、小矢部、兩河の灌域に在り、人口三万、銅器、漆器の名産あり。伏木は特別輸出港なり。

交通

◎交通 東海道は徳川氏の盛時、關西諸侯參勤の街道に當り、京都、江戸の百三十里の間に五十三驛ありて、宿驛頗る繁昌せしかども、其の途中、大井川の渡には霖雨に阻まれ、箱根の嶮には輿丁に要せられ、行旅頗る困難なりしが、鐵道開通以來、兩京の間歴に十

七八時間にして達すべく、車窓に凭りて行々山海の景を賞し、夢を搖かして、大井川を過ぐるに至れり。

○中仙道は近江より山深き木曾路を経て、信州の御代田驛まで達すれば、是れより鐵道の便ありて、碓氷の嶮坂さへ困難もなく七時間の後は東京に入るを得べし。又此鐵道の北に赴くものは長野を経て越後、直江津に達する直江津線にして、北國街道に沿へり。奥州街道は下總、下野を経て遂に陸奥に達せり、是れ又鐵道の便あり。陸前濱街道は水戸より海濱に沿ひて東に通じ、今は水戸を経て磐城の久の濱まで鐵道を利用すべし。北陸街道は越後より丹後に通じ、昔は親不知の嶮道ありしかども、今は其の嶮崖を鑿りて道を通じ、且金澤、敦賀の間は鐵道の便によるべし。其の外東京を中心とする鐵道は甲州街道の八王子線、及銚

子線等あり。

○海路は横濱を起點とし、北は奥羽、北海道、千島に通じ、西は中國、四國、九州及臺灣に至り、南、小笠原諸島に航せり。日本海は各要港の間、漁船の交通あるも、冬期は航海少し。又横濱は諸外國航路の起點として、何れの國々へも通ずべし。

◎氣候 東海道は海洋的氣候にして、概ね溫和なれども、中仙道は全く内地性氣候を顯し、寒暑共に強し。日本海岸は對馬海流の感化を受くれども、亞細亞大陸より吹き來る寒風を被るを以て、寒暑の差大なり、要するに本區は我が國の中央部を占め、氣候中和なる地球上の最好地なり。全年の平均溫度は十一度(野長)乃至十五度(銚子)の間に在り、冬の最も寒きは長野(零下二度二)にして、時に零下十二三度に降ることあり、總て信州を中心とする中央

氣候

雨量

高地は寒冷なり。木曾山中の如きは春の到ること遅く、五月花咲き九月麥熟する程なり。夏は名古屋、岐阜邊を最高(平均二十六七度)とし、時としては三十五六度に昇ることあり。太平洋岸各地は寒暑共に和順なり。

○雨量は日本海岸なる加賀、能登地方を最多(二千乃至二千五百糎)とし。中央高地は總て雨寡く、信濃は僅に八百糎内外に過ぎず。太平洋岸は其の中數にして、一千五百乃至二千糎あり、十一月より翌三月までは雨雪寡し。日本海岸は之に反して、十一、十二、一月の三ヶ月間は雨雪甚だ多く、殊に十二月の多量なること全國中、其比なし、是れ此の地方深雪の原因となるなり、若し北國地方冬季の降水量を雪に算せば、二丈内外に上るべし。加賀、越前の境なる牛首村の如きは最も雪深き地にして、冬間は積雪の爲め

住居に堪えず全村相携へて他に避くるに至る。

◎産業 本區の南面は氣候溫暖にして平野多く生産地域廣きを以て、農産饒に人民集居し商業も亦盛なり。中央高地は氣候寒冷にして、人口稀に土質礫礫なるを以て、農耕發達せず、従ひて農産多からざれども是れに代るべき蠶業の富源あり。北面は土地肥沃にして、日本海岸所々に農産地あり。本區中耕地の拓けたるは尾張にして全國第一とし、次ぎは武、兩總、常、相の諸國なり。米は愛知縣の産を最良とし、千葉、茨城、長野、静岡、三重、富山の諸縣之に次ぐ何れも百万石以上の産あり。本區より産する米の總額は一千二百万石なれば殆んど全國の三分の一に及ぶ。尾張、武藏の麥は産額の多き全國第一なり、次ぎは下總、安房とす。神奈川縣の粟、埼玉縣（越川）の甘藷も有名なり。駿河、遠江の茶は本邦

中其の産額最も多く之に亞ぐを伊勢、近江、美濃とし、多く海外に輸出す。常陸の水戸烟草、下野の麻は共に世に知られ、越前、加賀も亦多く麻を産す。尾張の藍は阿波に亞ぎ、武藏、三河亦之に次ぐ。

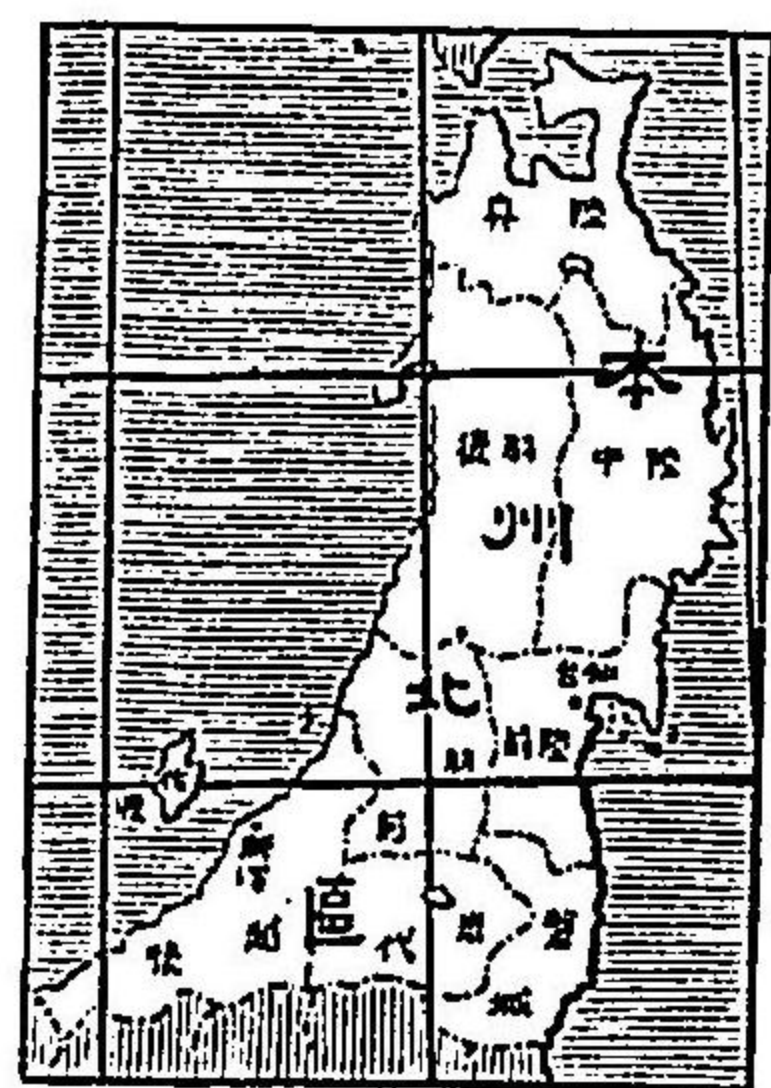
○蠶業の盛なるは上野を以て全國第一とし、信濃之に亞ぎ、近江、武藏、加賀等も亦盛なり。故に絹織業も亦旺盛に、下野の足利、上野の桐生、の如きは其の最も有名なるものなり。信濃の上田紬、越前の羽二重、奉書紬、及海外輸出の手巾、加賀絹、近江の濱縮緬、甲斐の郡内織、甲斐絹、武藏の八王子織、秩父絹、等産額甚だ多く、全國絹物の供給は過半本區に仰げり。木綿の産出も亦多く、尾張の愛知、雙子織、鳴海絞（有松より出す多きを以て有松絞の名あり）、三河の木綿織、下總の銚子縮、下野の眞岡木綿、等は全國に販賣す。

風土比較

◎風土比較 以上各條の下に於て述べ來りたる事項に就き、本區を北、中、南の三部に分ち、地形風土を比較すれば左の如し。(越後は本區に入らざれども古來古志の國と稱し、他の北陸道諸國と同一の政治區劃に入りし事等あり、本區に合せて之を見るべし。)

北部(北陸道)	中部(中仙道)	南部(東海道)
<ul style="list-style-type: none"> ○南ニ山ヲ負ヒ北ハ海ニ瀕シ、河流多ク北流ス。 ○海岸屈曲少ク、港灣半島ニ乏シ。 ○降水量冬日に多く、夏日に少シ、故に積雪深シ。 ○農産物及工業には銅鉄器、漆器の製造並に織物盛なり。 ○交通頻繁ならんとす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○山岳中央ニ蟠マル中央高地ニシテ、河流多ク南北ニ分流ス。 ○南北兩部ノ中間ニ位して海岸を有せず。 ○降雨四時共に少シ、故に多くは乾燥なり。 ○養蠶及ひ機業盛に、鑛業亦行はる。 ○交通稍不便なり。 	<ul style="list-style-type: none"> ○北ニ山ヲ負ヒ南ハ海ニ瀕シ、河流多ク南流ス。 ○海岸屈曲ニ富ミ、港灣半島多シ。 ○降雨冬日に少くして、夏日に多シ、故に植物に適す。 ○農産物(殊に米、麥及茶、藍)製造業盛に海産物も亦豊なり。 ○交通甚だ頻繁なり。

地形



本州北區圖

本州北區誌

◎本區は本州中區以北即舊奥羽の地及北陸道の越後、佐渡の八國を包括し、東は太平洋、西は日本海に瀕し、北は津輕海峽によりて北海道と相對す。面積五千〇七十二方里、人口六百四十万あり。

内に左の七縣を置く。

- 本州 新瀉縣 福島縣 宮城縣 巖手縣
- 北區 山形縣 秋田縣 青森縣

◎地形 本區の中央には、地勢に沿ひて南北

○從來歴史上重要な事件に乏し。

○西に向ひ露國及朝鮮との關係密ならんとす。

○西部畿内に近き地は屢々兵亂の巷となりき。

○内地に在りて外國との直接交渉少かるべし。

○從來歴史上重要な事件甚だ多く、歴世の興亡少からず。

○東に向ひ米國及南洋との關係深かるべし。

に走る、高峻なる中央火山脈あるを以て、地域自ら兩分す、山脉の東際は元の奥州にして西際は元の出羽及越後なり。此の山脉は本區の他區に異る著るしきものにして、北端は斗南半島の恐山より起り、八甲田山を経て、略々奥羽の境となり、七時雨山、森吉山、及南部富士の稱ある岩手山となり、是より駒岳、栗駒岳、藏王山等の高峰を噴起し、岩代に入りて數多の高火山あり。中にも磐梯、吾妻の兩山は近年爆裂したるを以て其の名特に著る、是より中區境の那須火山に連れり。此の脈あるが爲めに奥羽東西の交通は甚だ困難なり。(中央火山脈は單に中央山脉と稱し、又は奥羽山脉或は分水山脉と云ふ)

○中央山脉の東際は奥州には北上、阿武隈、兩山脉ありて太平洋との間に立てり、北上山脉は陸奥の南境、種市山より起り、南するに隨ひ廣大の高臺狀をなし、仙臺灣に至り、陷没せり。早池峰(六千

(三百尺)は脈中の高峰にして、仙人峠には夥しき鐵鑛を藏せり。北上山脉の陷没の後を受けて再ひ磐城の北境より起るを阿武隈山脉とす、南走して日山、矢大臣山、八溝山等を高頂として、廣き高臺をなし、關東平原に出で、筑波山彙に連る。此の脈所々に石炭を藏す、白水炭の如きは是れなり。

○奥州は以上兩脈の爲め海岸との交通を閉塞せられ、平地は匪に此の兩山脉と中央山脉との峽間に在り。此の峽間は奥州の主要地にして、河水爰に流れ、國道爰に通じ、鐵道亦爰を走り、住民多く生産饒なり。此の峽間の平地にも處々に横嶺支出するを以て、平地は自ら盛岡平原、仙臺平原、會津平原に區分せられ、各平原に於て各々發達を爲せり。

○中央山脉の西際は羽州(出)にも、其の沿岸に鳥海火山脈並趨せ

り、起點を陸奥の岩木山とし、羽後には本脈の主山、鳥海山八千餘尺に聳え、羽前に入りて羽黒、湯殿、月山の三峰あり、岩越の境に飯豊御神樂の高峰峙ち、三國山脉に連る。八十里越、六十里越は此の脈を踰ゆる峠なり、越後沿岸にも彌彦火山脈あり、越後を斜に横斷して信濃に入る。山脉の斯の如くなるを以て其の地形は奥州と全じく、平地は兩側山脉の峽間に存し、所々又支脈の爲め横ぎられ、能代、御物、鶴岡(内庄)米澤、及越後の五平原に分れ、重要な生産地となり、住民少からず。

水系

◎水系 區内の河系は中央火山脈に分水せられ、東は太平洋西は日本海に注ぐ、故に太平洋系及日本海系に分つ。

太平洋系

○太平洋系の北上川は北上山脉と中央火山脈の峽間を南流し、數多の水を集め、河口近き所に於て二派に分れ、本流は石巻港に注

日本海系

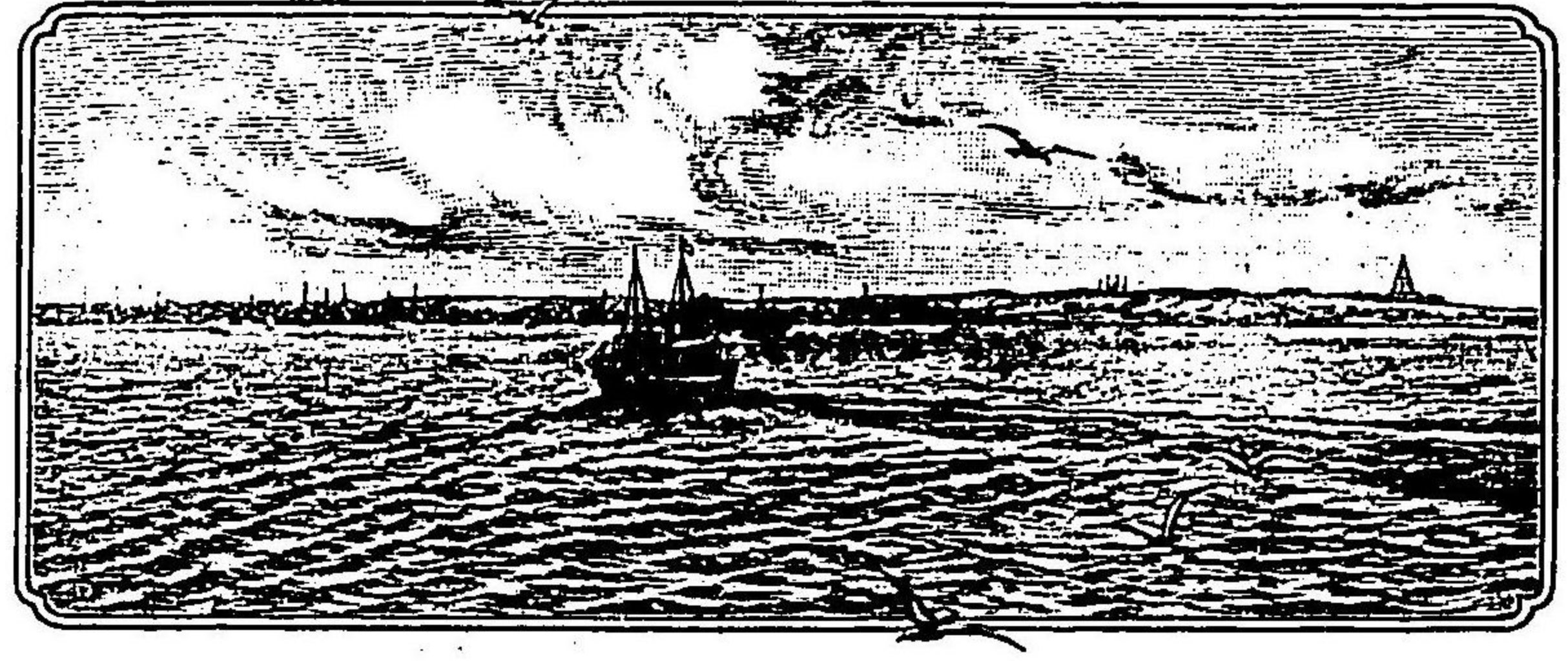
ぐ、長さ七十六里あり、舟楫の便ある支流を合すれば百七十余里に達す、此の灌域は北奥の生産地にして、此の河を上下する物貨多し、盛岡、黒澤尻、一の關等は灌域の集合點なり、阿武隈川は阿武隈山脉と中央火山脈との峽間を北流すること五十里、仙臺灣に注ぐ、郡山、福島、二本松の都邑灌域に建てり。以上は奥州の二大河にして、又奥州の動脈とも謂ふべく、奥州街道及鐵道線は其兩岸に沿ひて通ぜり。

○日本海系の信濃川は信濃より來り、越後の中央を貫き、北流して日本海に入る、支流甚だ多きを以て世に八千八水河の稱あり、源より河口まで百〇五里、幅廣き所は八町に及び、運輸頗る便にして、灌域は農産饒に、小千谷、長岡、三條等繁昌の都邑あり。日橋川は岩代の猪苗代湖より發し、大川、只見川を合せ、越後に入りて、阿

賀川となり、五泉、龜田を過ぎて海に注ぐ、流域は著名の農産地なり。最上川は岩代の境に發し、米澤平原を北流し、中流より一轉して西流し、鶴岡平原を貫き、酒田港より海に注ぐ、水清く流れ急に兩岸には四十八瀧懸りて風景佳なり。本邦三急流の一とす、米澤、山形は此の灌域の貨物集散所なり。

○御物川は羽後の南部を流れて、御物平原を潤し、秋田を過ぎ海に入る。能代川は羽後の北部、能代平原を流るゝ大河にして、能代港に至り海に注ぐ。以上最上、御物、能代の三大河は羽州の生命とも謂ふべく、羽州の

信濃川河口之景



沿海

財源及通路は皆此の三河域に在り。陸奥の岩木川は羽後の境より發し、北流して十三瀧に入る、流域は津輕の地なり。

○猪苗代湖は會津平野の中央に湛へ、周回十三里あり、湖上には漁船の往來頻繁なり。羽後の八郎瀧は一に琴湖と稱し、男鹿半島及沙嘴一條を以て日本海と限られ、山光水色畫くか如く、風景秀美なり。十和田湖は陸奥、陸中の山間に湛え、周回十里、湖中に鱒を産す。

○沿海 陸奥と北海道との海峡を津輕海峡と稱し、内に一大灣入あり。東は斗南半島、西は津輕山嘴に擁せらる、陸奥灣是れなり。灣内に一半島出で、青森野邊地の兩灣に分つ。大湊は灣の北隅に在りて、大平洋と日本海の航路を連ぬべき將來有望の良港なり。津輕山嘴の端を龍飛岬と云ひ、渡島の白神崎との間は僅

日本沿岸

に七八里を隔つ。

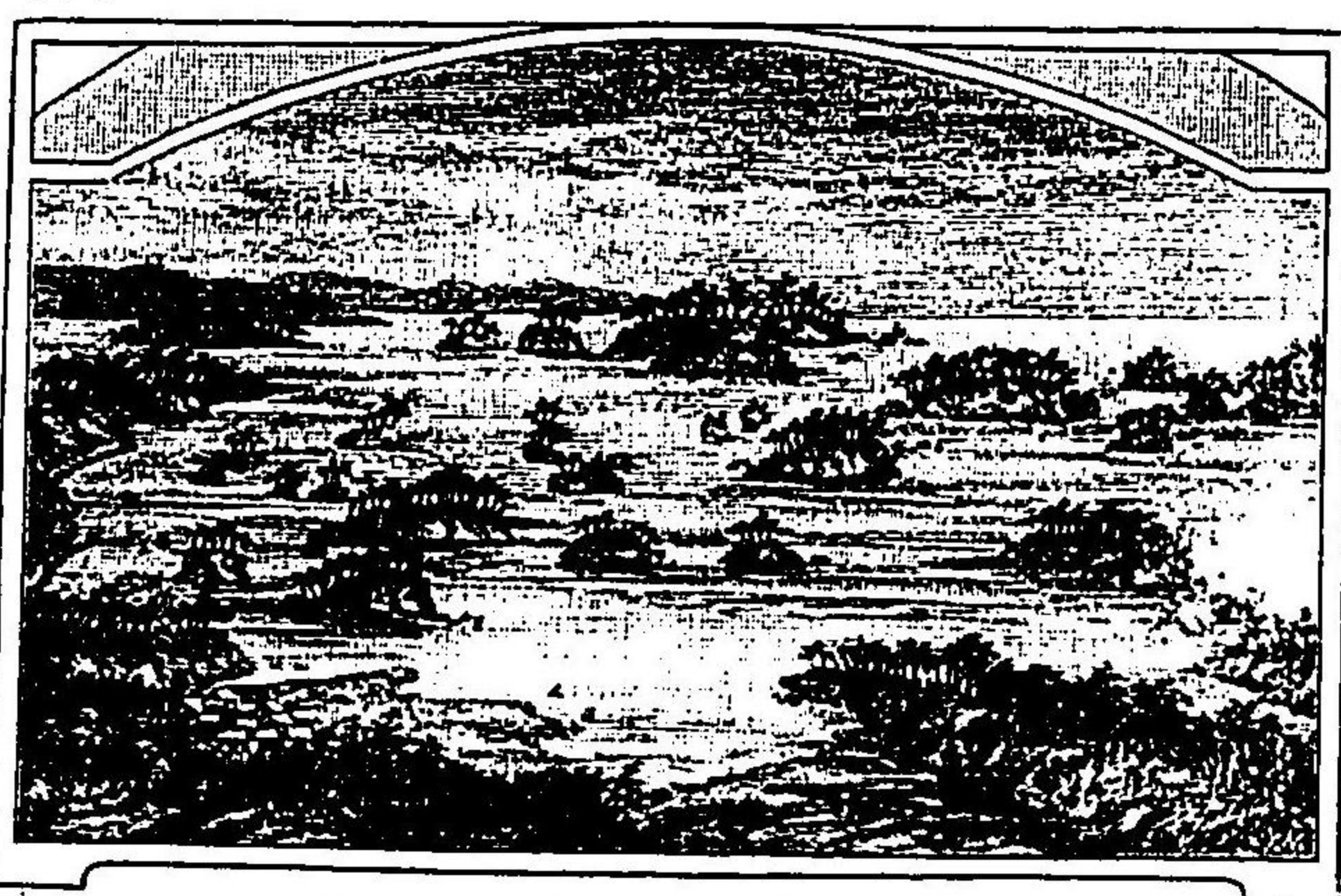
○日本海岸は屈曲少し、男鹿半島及附近は彌彦火山脈に當る海底山脉の爲め、奇崖怪岩、波間に突兀として頗る奇景なり。其の北に能代港、南に土崎港、及羽前の境に酒田港あり。海上の飛島(羽前)粟生島(羽後)は彌彦火山脈に當る火山島なり。越後の新潟港は五港の一にして、其の西南の直江津港は内地の貨物を鐵道によりて日本海岸に出す唯一の港なり。越後、越中の海岸は日本を横斷する高臺の海に急迫する所にして、元有名なる親不知の嶮ありしも、今は新道を開通せり。

佐渡島

○佐渡島は其の形胡蝶の舞ふが如く、翼間には西より眞野、入江、東より加茂湖灣入し、兩翼の端に矢崎(東北)龍王岩(東南)城ヶ鼻(西北)澤崎(西南)の四岬あり。

太平洋岸

○太平洋沿岸には陸奥の北端に尻矢岬あり、其の以南には著しき出入なく、陸中海岸は犬牙の如く交れども、懸崖にして良港に乏しく、僅に宮古山田釜石あり。陸前沿岸は出入多く、牡鹿半島南に突出して、仙臺灣を擁し、『山雉の渡』を隔て、金華山屹立す。仙臺灣は地舛陥落の遺跡にして、灣内には有名なる松島群島散點し、島上悉く翠松を戴き、海波と相映じ、風景の佳なる日本三景の一たるに背かず。灣頭の石巻港は北上川を下る貨物を集め、荻濱は横濱以北の佳港にして、北航船碇泊地なり。又鹽釜には鐵道通じ北部地方よ



松島之景

新編中學地理 日本誌 本州北區誌 沿海

り來りし海産及貨物を漁車に移すべき港なり。

◎處誌 本區(越後を除く)は天然の限界によりて、東岸を奥州、西岸を出羽と稱し、奥羽と總稱したり、又方位によりて東北地方と呼ぶる、久しく化外の姿に居り、地廣く人少かりしが、明治二年今の七州に分たれたり。太古は専ら「アイヌ」種の住せし所にして、後、安倍、清原等の豪族此の地に崛起して常に上國を睥睨せり。近古に至り奥州には伊達、南部、會津の諸侯、出羽には最上、佐竹、上杉の諸雄封せられ、各平原を根據として各々其武を振へり。地氣高寒にして人質亦自ら驍果の風あり。山地は人烟未だ稀少にして氣質朴直なれども粗野たるを免れず。越後は上杉氏割據の地にして此の國の人は彼の霜月横槊の猛將に隨ひ、武を世に轟せしが、今や人口繁殖し、生産の餘裕なると共に柔弱に流れんとす。

る憾なき能はず。

◎新潟縣 管轄 越後、佐渡二國

○越後は一に北越と稱し、北海岸の大國、沿岸七十里に及ぶ、國を上中、下に三別し、米山以南を上越後とし、彌彦山以北を下越後とし、其の中間を中越後とす。國の中央市なる新潟は信濃川の吐口に位し、人口五万あり、埠頭は信濃川口とす、故に年々泥沙河口に堆積し、且北風に堪へざるを以て碇泊に便ならず、此の市は天保年中新潟奉行を置かれしに始まり、尋て外國貿易港となりしかども互市は未だ盛ならず。高田町は鐵道線路に沿ひ石油の産を以て知られ、此下に高田在り』とは此の地深雪の奇談なり。新發田町は下越後の都會にして、溝口氏の舊城市なり、歩兵第十六聯隊駐在す。其の南、阿賀川畔に五泉平織を出す五泉あり。

又其の南の村松には歩兵第三十聯隊を置く。長岡町は信濃川に臨み、新潟と漁船の往來頻し、其の下流七里に三條町あり、河運の利を占めたり。又長岡の上流に越後上布の産地たる小千谷あり。長岡の東に浦瀨あり、北越第一の石油産地とす。沿岸の柏崎、出雲崎は碇泊所なる小都會なり。

○佐渡は新潟より三十二哩(夷町)の海上にあり。島の北端に有名なる金北山あり。相川町は島の西北端にあり、島中第一の都會にして、人口一万五千あり。近傍の眞野には順徳天皇の蒙塵し給ひし、黒木御所の趾あり。夷町及西南端の小木は共に要津なり。

福島縣

◎福島縣 管轄 岩代國及磐城七郡

○岩代の福島町は阿武隈河畔、蠶業地の輻湊點にして、又東北鐵道

線中途の要驛(東京へ一六八哩、青森へ二八九哩)なり、人口一万八千を有し、生糸の賣買盛なり。其の南の二本松町も蠶業地なり。若松町は會津平野にあり、松平氏の舊城市にして、戊辰の役、籠城を以て名あり、會津塗、紋蠟の名産あり。

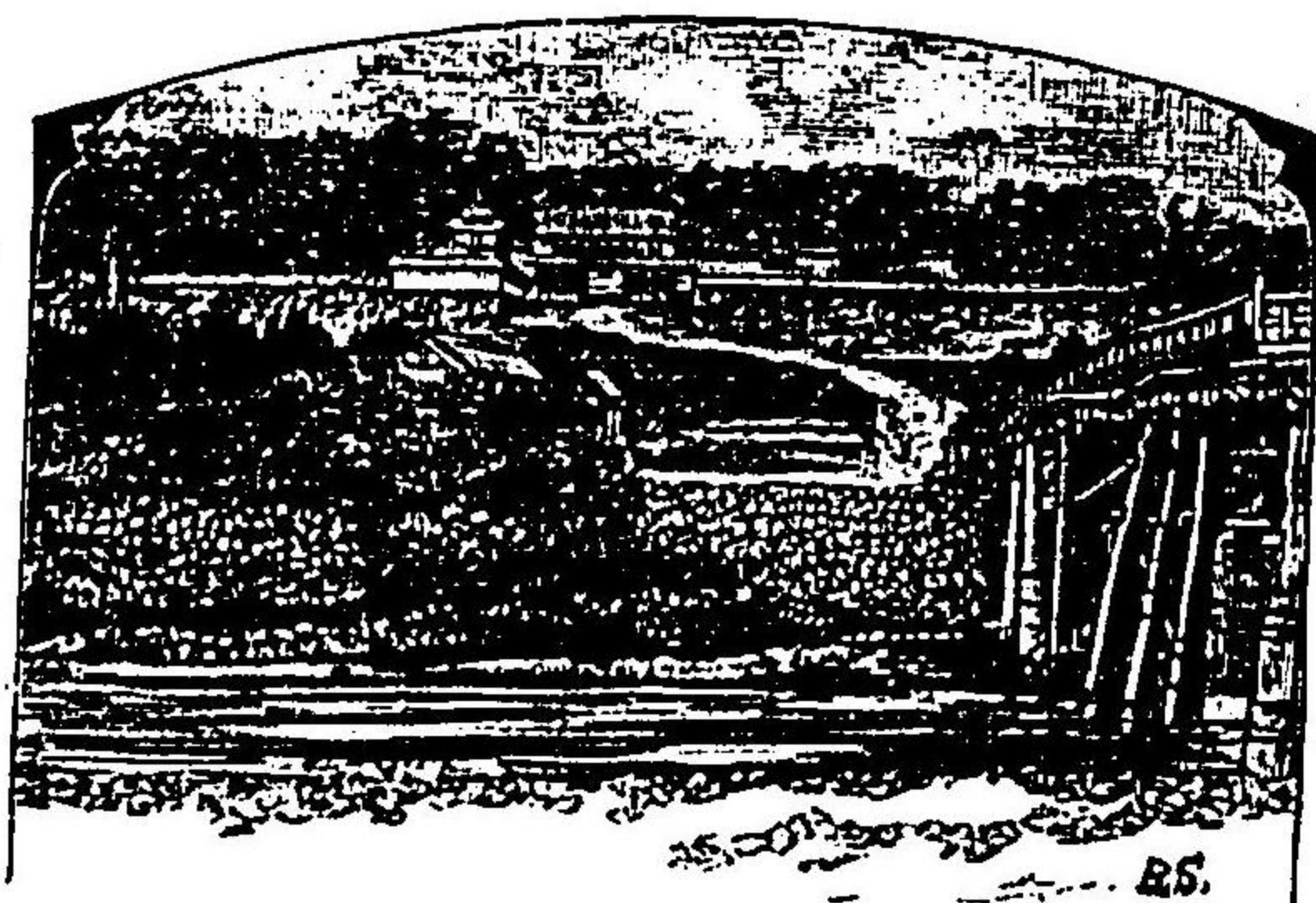
○磐城の白河町は昔奥州の關門にして、白河の關趾町の傍にあり、其の東北の三春は馬を産し、海濱の平は石炭を産す、其の南の濱街道に沿ひて勿來關趾あり、源義家の『吹く風を勿來の關と思えども道もせにちる山櫻かな』の國風を詠せし地なり。

宮城縣

◎宮城縣 管轄 陸前(一郡を除く)及磐城の三郡

○陸前は獨眼龍(政宗)の驍名を轟したる以來、世々伊達伯(六十二万石)の封地にして、東北の雄藩なりき。仙臺市は廣瀨川に跨り、東北鐵道の要衝(東京へ二一五哩、瀨車十三時間)に當り、人口七万を有す、昔時に比すれ

巖手縣



青葉城

ば稍、衰微の色あれども宮城縣廳、第二高等學校、控訴院等ありて東北地方の中心となり、今尙奥羽第一の都會たるを失はず。第二師團司令部は青葉城内にあり、市内の躰躰、岡は櫻花を以て名あり、奇傑林子平は此の地に生る、仙臺平、八ッ橋織、及銅器の名産あり。磐城の白石町は片倉氏の舊城地にして、蠶業行はれ、又絹布を産す。

◎巖手縣 管轄 陸中(一郡を除く)及陸前一郡

陸奥一郡

○陸中。は地氣高寒にして人口多からず、安倍氏世々此の地に據りて附近を押收せしを以て、前九年、後三年の役に關し舊跡多し。

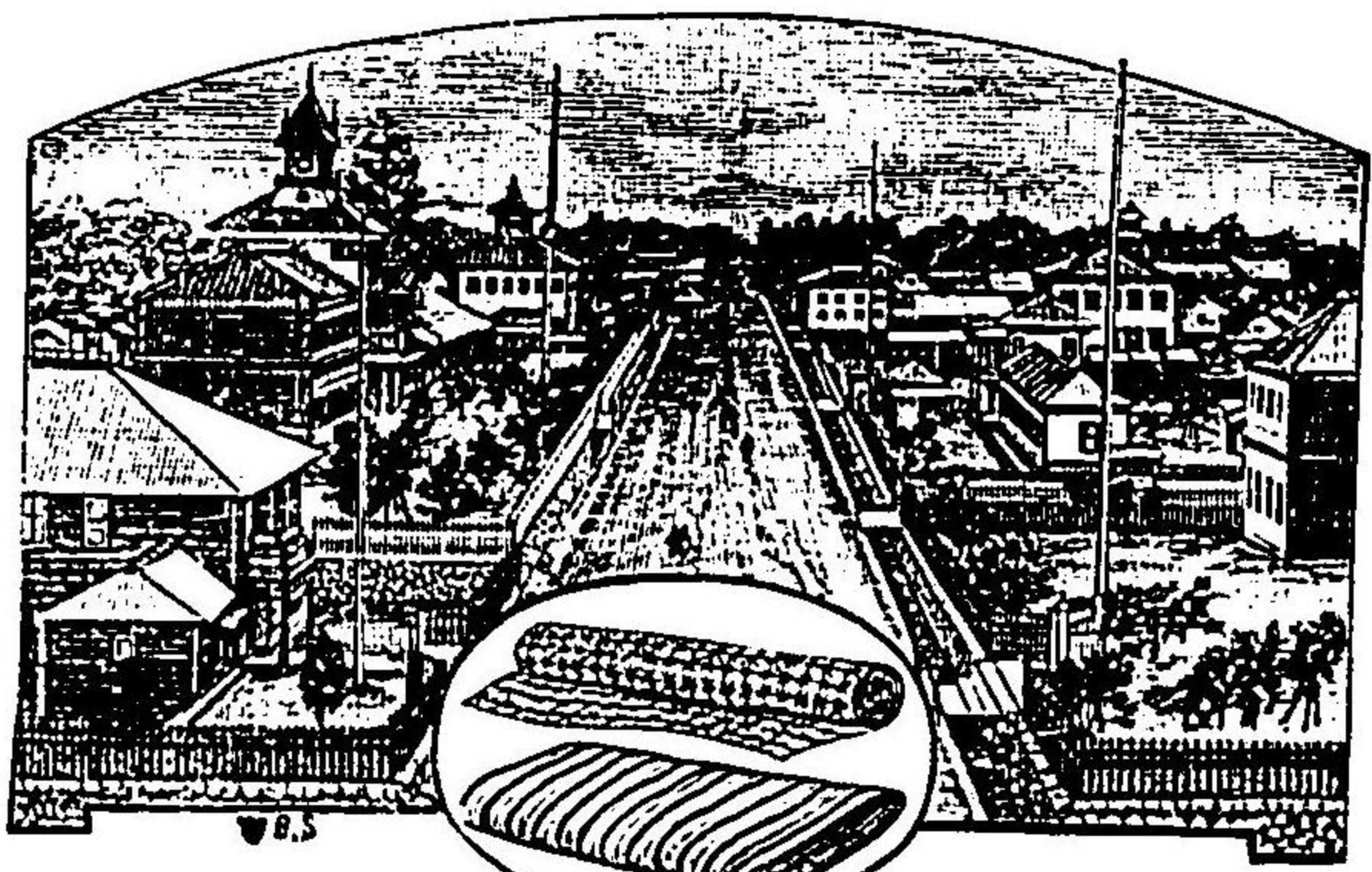
山形縣

北上川は此の國生産交通の母なり。盛岡市は其の流域を占め南部伯の舊城市なれば南部と稱せり、岩手縣廳あり、人口三万二千、奥羽第二の都會なり。縮緬、鐵瓶及下駄の表は南部物を以て稱せらる。厨川の遺趾は其の附近にあり。釜石町は其西の仙人峠に鐵鑛を藏むるを以て知られ、一の關は阿武隈河畔の名邑にして、其の西北に衣川の柵趾あり、蓬草深く俊傑の跡を没せり、(年を経し糸の亂の苦しさに衣のたてはほころびにけり)

◎山形縣 管轄 羽前、及羽後一郡

○本管下は概ね最上川の流域を領し、運輸、灌溉皆其の澤を被り、都邑多く河畔に建てり。河域の上流に米澤市あり、上杉伯(十七万石)の舊城地にして、人口二万九千を有し、絹布を産す、其の下流域に本縣の中心市たる山形市あり、元最上と稱し、最上氏世々の居城

秋田縣



山形市

たりし霞城墟は市の西隅にあり、人口三万一千市街繁盛なり、歩兵第三十二聯隊を置く。最上川の吐口に酒田港(後羽)あり、日本海の要港にして船舶輻湊す。鶴岡は即庄内シキナヘにして、羽前西部の一都會なり。新莊町は北部の小都會なり。

◎秋田縣 管轄 羽後(一郡を)及陸中の

一郡

○秋田市は御物川下流の農産地域を控へ、土崎港に近く頗る要所を占む、人口二万六千、秋田畝織アキタウヂオリ、其の他の絹織を産す。此の市は佐竹氏の舊城市にして、今は第十七聯隊の營所あり。國學者平田篤胤は此の地の人なり。能代町は

青森縣

能代河口の良港にして、春慶塗を産す。

◎青森縣 管轄 陸奥國(一郡を)

○本縣は本州の極北に位し、所謂「陸の奥」なり。縣廳所在地なる青森市は青森灣に臨み人口二万四千、本州最北の都會なり、東北鐵道の終點に當り箱館へ定期汽船あり、第四旅團司令部を置き、北邊の要鎮とす。

○弘前市は岩木川に臨める津輕伯の舊城邑にして人口三万一千、其の繁華青森に過ぐ、歩兵第三十一聯隊を置く、殼塗漆器カキヌリの産あり、青森より鐵道通じ羽州へ延長せんとす。八戸町は東岸の一都會にして、野邊地は野邊地灣の港津なり。

◎交通 域内には中央に山脉連亘して自ら奥羽を分ち、爲めに東岸と西岸と交通せんには皆峻坂を踰へざるを得ず。盛岡より

交通

秋田に出づる仙岩峠、羽前より仙臺に出づるに關山、二口、笹谷等の峠あり。米澤、福島の間板谷峠あり、又越後の境を踰ゆるに六十里越、及清水越あり。奥州には既に鐵道全通して交通自在なれども、羽州には未だ鐵道なく、且海路も冬期危険にして交通不便なるを以て、東岸と西岸とは其の發達の程度頗る差あり。

○主要なる道路二條あり。一、奥州街道は東京に發し下野より區内の磐城の白河に入り福島より仙臺に達し是より盛岡を過ぎ青森に達す。二、羽州街道は奥州街道の福島より分岐し米澤に出で山形より秋田、弘前を経て青森に達す(五十三里) 又陸奥の五戸より先年海嘯の被害地なる三陸の海岸を過ぎ仙臺に會する東沿海道、及青森より兩羽の海岸に沿ひ、新潟に達する西沿海道あり。其他北國街道(信州進分に分れ越後に入る)、三國街道(上野の高崎より清水を越え越後に入る)、濱街

道(常磐の沿海道)等あり。鐵道は日本鐵道會社の東北線は下野より區内の白河に入り、仙臺、盛岡を過ぎ青森迄東京より四百五十七哩あり、青森よりは官線にして、弘前を過ぎ碓ヶ關に達するものと連絡せり。此の線路は實に域内交通の動脈にして、其の便益を受け、其の風化開發を享ること小少ならず。又直江津線は日本海と太平洋との交通を連絡する唯一の線なり(東京、直江津間百十八哩)、尙ほ直江津より鉢崎迄(十四哩)通ぜり。水戸線は當時水戸より平(磐城)を経て、久の濱に至る(六十哩)、其他工事中の陸羽線は福島より山形、秋田を経て弘前に至るあり。竣工の曉には大に運輸交通の便を増し、域内をして愈々發達の運に向はしむべし。

○航路は太平洋岸には横濱より荻ノ濱、函館間は郵船常に往復し、其外石ノ巻、荻ノ濱、釜石、青森、大港等に汽船往復す。日本海は直

氣候

江津、新潟、酒田、土崎及函館の間(冬期の外)に漁船來往あり。

◎氣候 域内は本州の地形の頓に折れて北上する部を占むるを以て、氣候一般に寒冷なれども、日本海岸と太平洋とは稍々相違あり。即東海岸は親潮寒流の洗ふが爲め中區に比すれば著しく寒冷なり。又日本海には對馬海流あるを以て海岸は稍々溫和なり。新潟は平均十二三度、山形、秋田は十度半なれども、東海岸は九度十度の間にあり。夏は概して清凉なれども新潟附近は頗る高温に達することあり。冬は零下二三度を平均とす、冬期甚だ長く五月に至らざれば櫻花開かず、而して百花概ね一時に開く。雨量は西岸に多く東岸には頗る寡し。風向は概して西北風多し。

産業

◎産業 本區は火山岩に富み、平野少く、從て農産豊ならず、然れど

も是れに代はる富源あり、鑛物の夥しきと是れなり。金は佐渡を第一とし其の産の多きこと日本全額の三分の一に當る、次に羽後にも産す。銀は羽後を以て本邦の最とし、阿仁、院内の兩银山より産する額は全國の過半を占む、其の他佐渡及陸中の小坂尾去澤、岩代の半田の諸銀山何れも著名なり。羽後の銅は産額の多きこと足尾に亞ぐ、陸中の釜石鐵鑛、越後の石油等は其の夥しきこと海内稀有なり。要するに我が邦金屬供給の多分は本區内に在りと謂ふべし。

○越後は肥沃の田圃多く農産豊なり。米は年々二百万石を産す。一縣にして産額多きと全國第一なり、次に福島、宮城、山形、秋田の各縣も年額百万石以上を産し、其の他の農産も亦少からず、蠶業の最も盛なるは岩代、磐城にして、其の他の地方にも行はる。

織物の名あるは越後縮、上布、廣瀬紬、五泉平(以上越後)、陸中の南部縮、緬及木綿織、陸前の仙臺平、八ッ橋織、岩代の二本松紬、羽前の米澤織、羽後の秋田畝織等あり。本區は漆の産地なるを以て、所々より漆器を産す、越後塗、會津塗、春慶塗(羽後)、陸奥の殻塗、漆器等は何れも世に知らる。其の外、佐渡焼、會津焼、及紋蠟、陸前の埋木細工、氣仙行李、羽前の紅花、秋田露等も本區の産なり。磐城、陸中、陸奥地方には廣大なる牧場あり、有名なる馬の産地にして多く軍用に出す。

牧場之景



風土比較

○奥羽は水産に富み諸川には鮭、鱒を産し、海には磐城の鱈、鰹、陸奥の海參、牡鹿半島の電氣魚等は著名にして、日本海は鱈、鮭、等最も多し。

◎風土比較 以上叙し來りたる各事項を簡明ならしめんが爲め、本區を東部(奥州)と西部(出羽)とに分ちて其の風土を比較すれば左の如し。

東部(奥州)

○西に中央火山脈を負ひ、東太平洋に瀕し、河流多く東海に注ぐ(唯北上阿武隈の二川は同名の山脈に遮きられ南流又は北流す)
○海岸線は鋸齒状をなして、斷崖多く、二三の良港あるに過ぎず。

○親潮、其の海岸を洗ひ、氣候稍々寒冷にして、

西部(出羽或は越後)

○東に中央火山脈を負ひ、西は日本海に瀕し、河流多く西流す。

○海岸線は弧線状をなして、砂丘多く、岬灣島嶼に乏しく、一の男鹿半島あるのみなり。

○暖流、其の沿岸を洗ひ、氣候稍々温和にして、降

降雨少く、氣象は總て東南方の感化を受く。

○交通は海陸共に利便に、來往又頻繁にして、現今發達しつゝあり。

○太平洋を隔て、北亞米利加に對す、將來北米と關係深かるべし。

○古來諸豪族割據し、兵亂を歴たると多し。

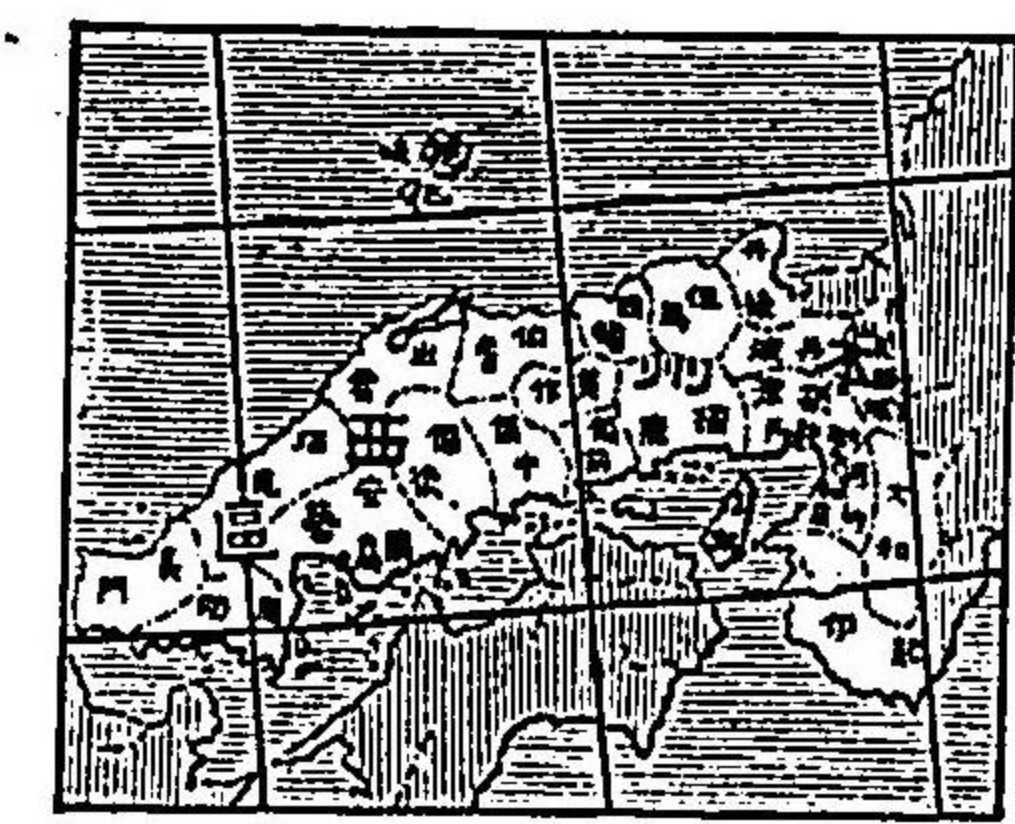
雨多く、氣象は總て西北方の感化を受く。

○交通は海陸共に未だ不便なれば發達は將來に屬すべし。(越後の外)

○日本海を隔て、露領西伯利に對す、將來露國と關係密なるべし。

○古來諸豪族割據し、兵亂亦少からず。

本州西區誌



本州西區

○本區は本州の西半部を占め、北は一帶日本海に瀕し、南は瀬戸内海に臨み、其東部は外洋に突出せり、西端は早稲海峽によりて九州と相隔つ。畿内、山陰、山陽の三道及紀伊、淡路の二十三國を含み、面積三千四百七十二方里、人口九百六十七万あり。左の二府八縣を置く。

地勢

東部地勢

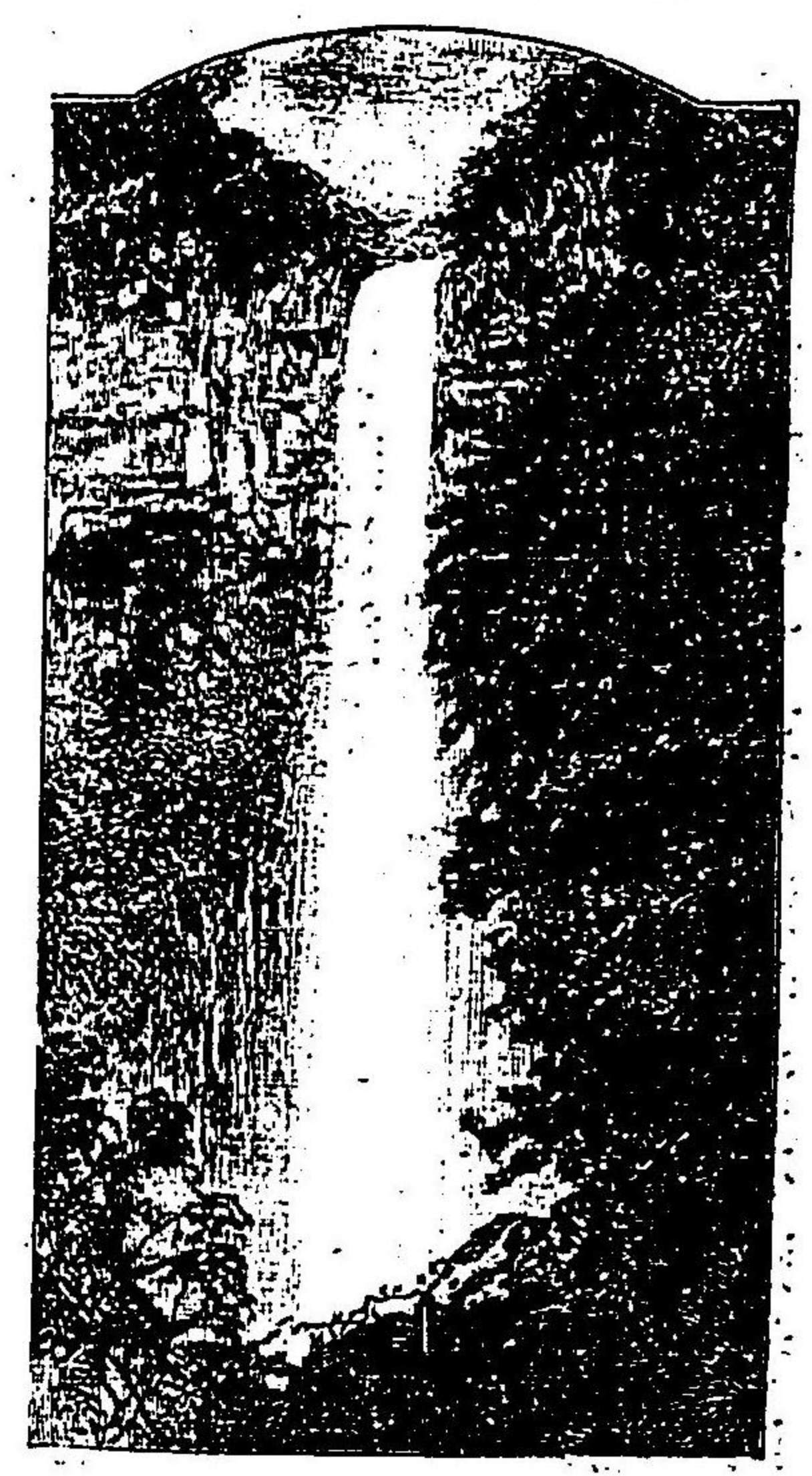
○地勢 區内は地勢自ら東西の兩部に分る近畿(東部)及中國(西部)是れなり。故に便宜上、東西兩部に分ち、之を説くべし。

○東部地勢 畿内の地は三面、中國山脉の餘派を以て圍まれ、只西南の一方のみ内海に濱せり。比叡、愛宕、鞍馬の諸山は北境をなし、其の山脚京都に迫りて東山、西山等の稱ありて、名所舊蹟少からず。攝津の西境には鐵柵、岳鵜越等あり源平の戰に名ある一ハ谷、其の間にありて武庫、摩耶の山彙に連る。

○畿内の南方なる紀伊半島は太平洋に突出し、内に四國より連る紀伊山脉、蟠まりて、大和の南半を掩へり。紀伊には白馬山、大塔峰、大雲取、那智の諸山重疊せり。直下七十丈の那智瀑布、那智山

中にあり。高野山は北部に在りて、有名な巨剎あり。大和には吉野山彙あり、芳野十二峰と稱し、一目千本の名ある櫻林、南朝

那智之瀑布



の遺跡、鎌足を祭る談山神社等あり、本脈は大臺原山より東に走れり。大和、河内の境には生駒山及正成の城趾たる金剛山あり。以上の山地を以て圍まる、中央は所謂畿内平原にして、地味豊饒に、人烟最も繁盛に、我が邦の主權は久しく茲に集まり、英雄此の平野を争ひし、攻城野戰の古跡尠からず。西南に抱ける大坂灣は西方に向ひて開きたる門戸にして、此の地の發達は此の門

西部地勢

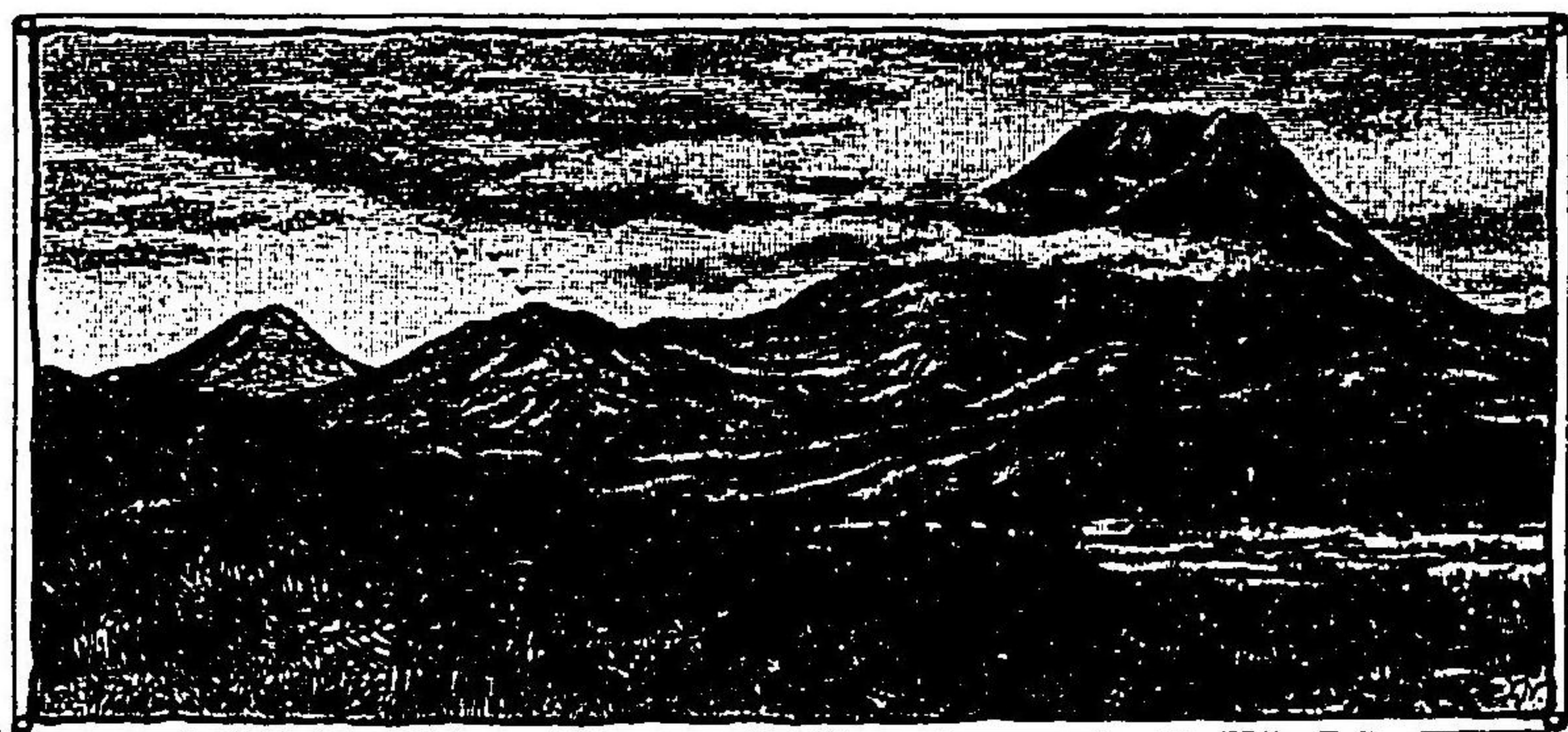
戸を歴たり。

○西部地勢。中國山脉は東西に連亘して脊梁となり、自ら山陰、山陽の兩道を劃し、南は瀬戸内海、北は日本海に向て緩斜せり。瀬戸内沿岸には平地多し、是れを内海岸の平地と呼び、農産物尠からず。地質は概ね花崗岩にして、奇峻の山骨を露はし、綠樹之に疎生す、海岸は其の碎片なる白砂を布けり。山陰の地は花崗岩中間々火山岩の噴起ありて、一般に山多く平原に乏しく、只沿海所々に少狹の農産地あり。

○中國山脉は其の脉九州より連り、著しき高山なし、西部に鬼ヶ城山あり、出雲、備後の境に猿政山、阿圖馬山等あり。出雲伯耆の境の船通山は又簸河上と稱し、『八雲起つ』の古蹟と傳へられたり。尙ホ東に走りて、三個の三國山あり、備後、播磨の境に山陽鐵道の

大隧道ある舟坂山あり、其の東に白旗山、書寫山ありて、皆歴史上有名なり。但馬には生野銀山あり、丹後の境に大江山あり。丹波に於て丘陵状をなして畿内に入れり。中國山脉は斯く兩道を劃するを以て、南北の兩海岸を通するには必ず此の脉を踰へざるべからず。京都よりは丹波路、姫路よりは美作路、石見より安藝に出づるに中山峠、及石見より山口に出づる石州路の如き是なり。

○山陰道の沿岸には火山脉ありて、間々高峰を抽んず。雲石の境に三瓶山、聳え伯耆には大山あり、高さ五千八百八十尺、中國第一ノ高峰とす。其の北に峙つ船上山は名和長年義舉の古跡なり。尙ほ東に趨き古歌に名ある、因幡山及但馬富士(三開山)丹後富士(由良岳)等あり。茲に於て一半は陷落して、與謝海となり、一半は



伯耆之大山

若狭の青葉山を経て白山に連るを以て、白山火山脉の名あり。

◎水系 河流は紀伊を除く外、中國山脉に分水せられ、北流して日本海に朝する系と、南流して瀬戸内に注ぐとの兩系あり。故に之を日本海系及瀬戸内系とす。

○日本海系の江ノ川(石見川)は備後、安藝の諸水を集め、始め三次川と稱し、中國山脉を破りて北流すること五十里、石見灘に注ぐ、是れ中國第一の大河たる所以なり、舟楫の通ずること殆んど二十里に達し、灌域は廣き農産地なり。由良川は江ノ川に次げる長

流にして、丹波にては和智川又は音無川と稱せられ、丹後に入りて、大川とも呼ばれ、由良港に注ぐ、流域は丹波、丹後の主要なる生産地なり。簸川(一名大川)は出雲、西部の水を集め、宍道湖に注ぐ、灌漑は出雲の要部なり。其の西の神門川は灌漑に富み、肥沃の農産地なり。但馬の朝來川は鮎を産し、河溪は但馬、播磨の通路なり。因幡の千代川(一名賀露川)は灌漑廣く、鳥取市其の東岸に建てり、此の河谷も山陽に通ずべし。伯耆の日野川流域は同國西部の生産地にして、天神川は東部の灌水溝なり。長門の阿武川は一に萩川と稱し、萩平地を開き海に入る。

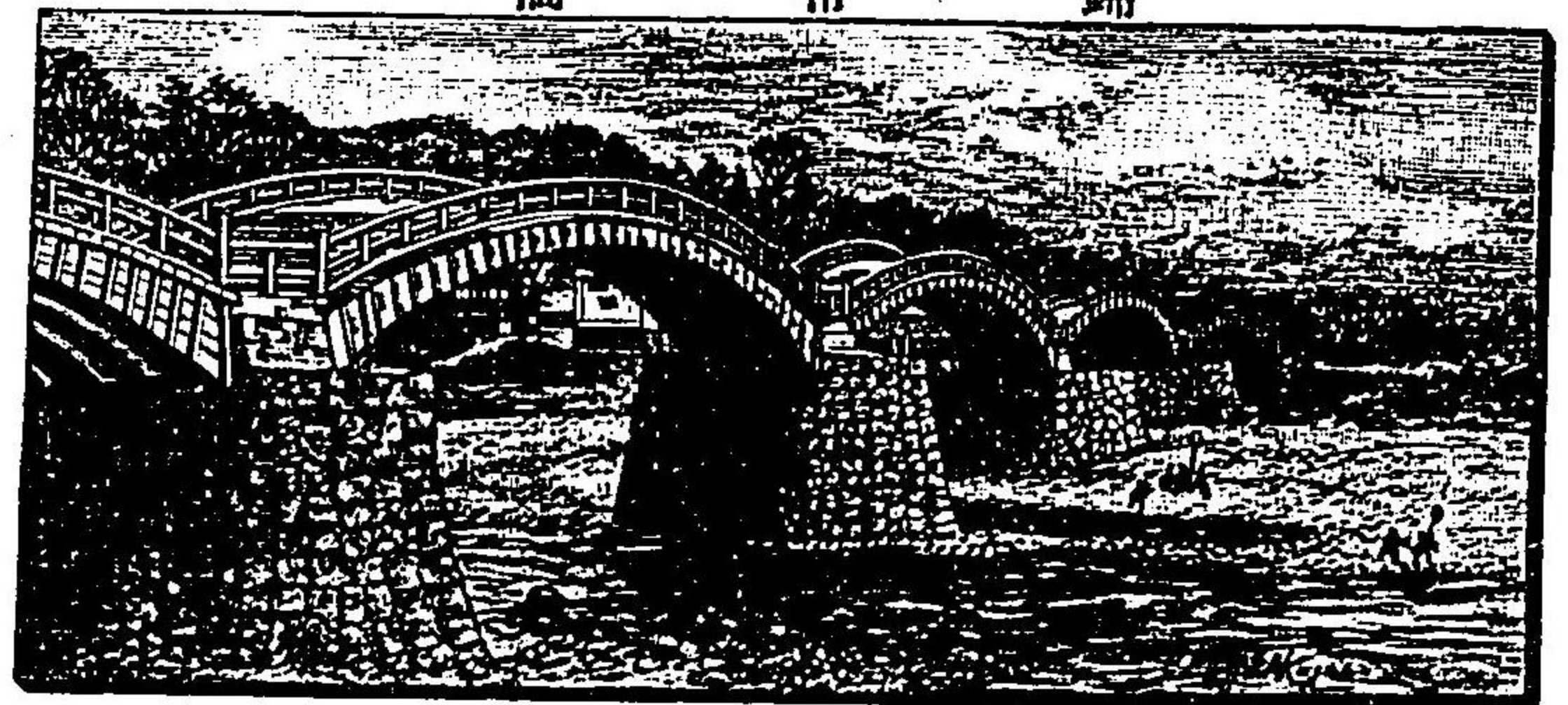
○瀬戸内系の淀川は琵琶湖より發し、上流を勢多川と云ひ、後、宇治川と稱し、産茶地方を過ぎ、丹波、保津川の下流なる桂川(大堰川)を容れ、淀に至りて南より來る木津川と會して、淀川と稱せられ、大

阪に至り安治、木津の兩河に分れ、大阪灣に注ぐ。長さ二十里なれども水深く流れ緩に運輸の便を極め、灌漑は畿内平原にして、豊饒の地なり。大阪市は其の河口に建ち安治川口には船舶輻湊せり。加茂川は愛宕山の北より發し、京都市中を貫ける有名なる河にして、遂に桂川に會す。

○大和川は大和に發し、上流を初瀬川と稱し、河内の中央を貫き大阪灣に入る、運輸灌漑共に便にして、流域よりは夥しき綿を産す。池田、武庫の二川は共に攝津の北境に發し、南流大阪灣に注ぐ、此の兩流域は攝津の生産地なり。湊川は其の流れ小なれども、楠公の戦死を以て著名なり。播磨に四川あり、加古市、揖保、千種と謂ふ、共に播州の生産地を築けり。備前に旭吉井の二川あり、共に美作の北境に發し、一は高田川又は西大川と稱し、岡山市を過

ぎ、他ハ津山川又は東大川と呼ばれ、共に兒島灣に入る。備中の河邊川(大備後の蘆田川の流域は吉備の主要部なり。安藝の太田川は南流して、廣島に至り數派に分れ、廣島灣に注錦ぐ。周防の岩國川は一名錦川と云ひ、下流には算盤橋の稱ある、錦帶橋を架せり。以上の諸河は概ね並行して南に走り、瀬戸内に入る、流れ長大ならざれども多少の流域を拓き、地味肥沃にして、中國米、爰に産し、其の外幾多の農産物を養ひ、又山陰と山陽との交通路なり、

○大和の南部及紀伊の水は總て外洋に入る、即大臺原山に發する吉野川は西流して、紀伊に入り、紀ノ川ト稱せ



湖沼

られ、和歌の浦に注ぐ、長さ四十七里、和歌山の附近は廣き農産地なり。有田川、日高川は共に西流して、紀伊水道に入る、有田川の灌域は有名なる紀州蜜柑の産地にして、此の河口より輸出す。

○津川は大和の吉野山に發し、南流して紀伊に入り、熊野川と云ひ、流れ急に舟楫の便少けれども奇景を以て名あり。

○湖沼 山城の巨椋池は一に大池と稱し、宇治川の水害を防ぐ爲めに豊太閤の開鑿せしものと謂ふ。河内の狭山池は灌漑の爲め、崇神天皇の創めて穿ち玉ひしものと傳へられたり、

○山陰道の突道湖は區内第一の大湖(三周回十)にして、島根半島に擁せられ、古は中海と相通せしを以て意宇海と稱せり、波光帆影相映じ、風景清秀にして、鱸、鰻の名産あり。中海(六周回十)は西馬瀨戸によりて、突道湖と隔て、東夜見ヶ濱の砂丘によりて日本海と

相分つ、半鹹半淡の湖水にして、魚類を産すること多し。
◎沿海 瀬戸内海は中國、四國兩山脉の峽間に湛えたる海水なり、兩

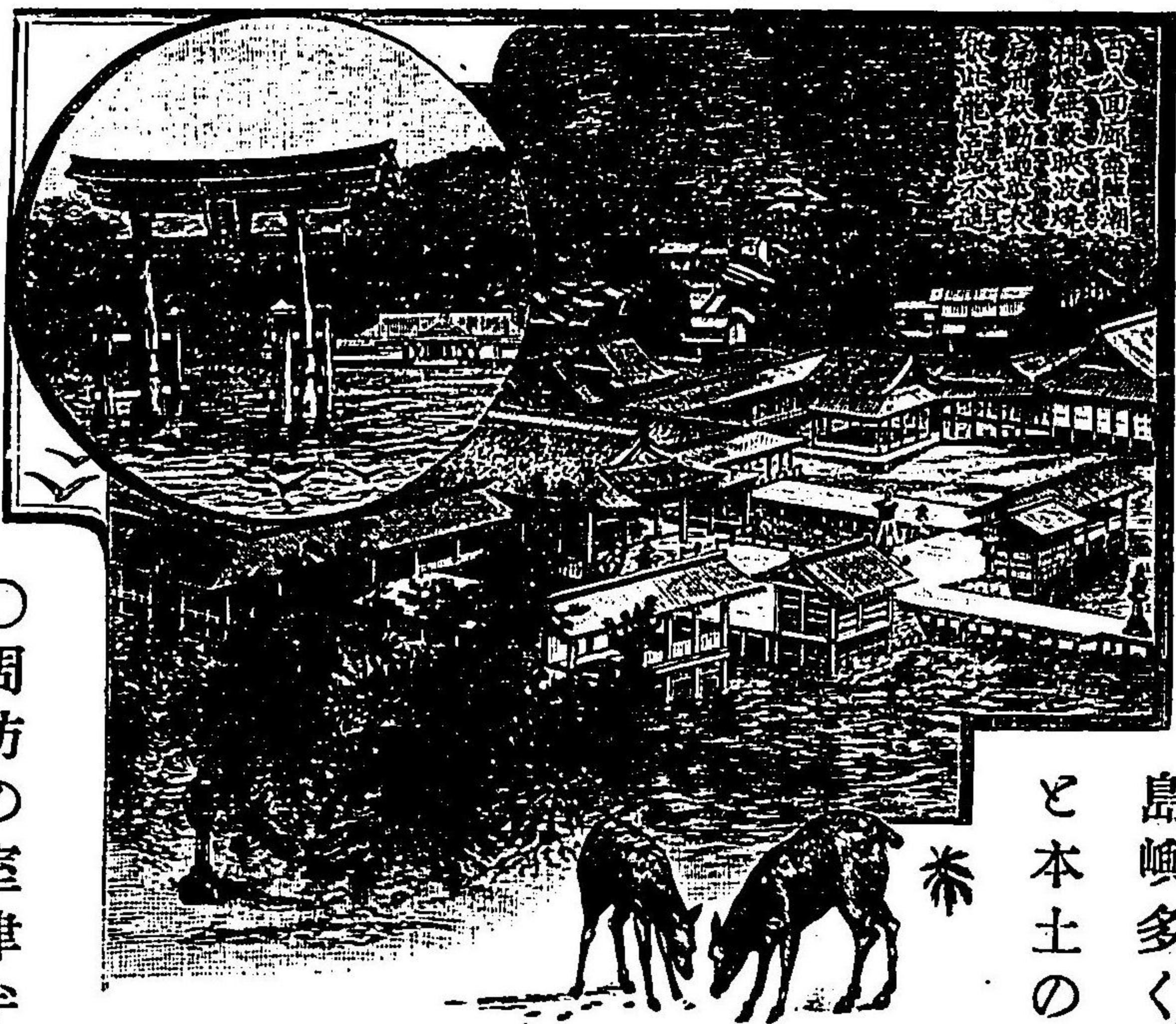


舞子之濱

岸の山色黛の如く、長汀曲浦參差として
相交り、數多の島嶼海中に碁布し、翠松潮
水に臨む風光は世界に稀有なる瀬戸内
の絶勝にして此の裏を航すれば、身畫中
の人たるかと疑ふ程なり。此の内海の
東端を大阪灣(一名茅渚)とし淡路島、其の口に
横はり楕圓狀をなせり、此の灣は交通の要
所を占め東西の旅客及貨物の吞吐所に
して、海運の便無双なり、故に兵庫、神戸、大
阪、堺等の良港、其の沿岸にあり。大阪港

の近海は淀河より流出する泥沙の爲め、底淺く、安治川口により
漁船出入す、然れども近時築港の企あれば、他日東洋稀有の良港
となるべし。攝津、播磨の海岸には須磨、明石、舞子、高砂等の勝地
あり、砂白く松緑に烟波の間に淡路島を望むべし。
○播磨の沖は播磨灘と稱し、明石、飾磨、津室、津等の港ありて、家島、男
鹿島等前に横はれり。備前には兒島半島、挺出して兒島灣を抱
けり。古の藤戸渡は今、半島の地頸となれり。備前備中の海は
水島灘と云ひ、東に玉島、西に笠岡港あり。備後の阿武菟岬には
鞆津の佳港あり。其西の灣入に尾道の良港あり、此海上を備後灘
と稱す。

○廣島灣内にある吳港は軍港にして、宇品港は廣島市に近く、二十
七八年の役に樞要の港たりしは人の知る所なり。尙灣内には



○周防の室津半島は南に出で内に室津港あり。

島嶼多く、倉橋島(周回二十里餘)を最大とす島と本土の間は音戸瀬戸と稱し、清盛の開鑿せる所と傳へ、潮勢急なり。有名なる嚴島(宮)には市杵島神社あり、華表白波の中に建ち、社殿崖に倚り、潮満るときは、殿廊潮に島浸されて浮ぶが如く、日本三景の一なり。其の東の江田島には海軍兵學校あり。

り、其の半島の東の海上に大島(周回三十里)あり。西に室積三田尻の港泊あり。此の海上を周防灘と稱し、壇ノ浦は西隅に在り、平家の没落の所なり。長門の西南端なる周防灘と日本海の分界頭に下ノ關の良港あり。早瀬海峽を隔て、門司港と相對す、其の間僅に五六町に過ぎず、瀬戸内海の要關なり。

○瀬戸内海の面積は約百三十方里あり、宛然湖の如く、風波平穩なる東西航通の要路にして、船舶の往來古より頻繁なり、且其の沿岸は魚鹽の利夥しく、『十州鹽田』と稱し、最も製鹽に適せり。

○日本海岸は丹後に與謝山嘴出で、與謝海を抱き、内に舞鶴、由良宮津の三港あり。舞鶴港は深き灣裏にありて、第四海軍區の軍港なり。宮津港の北に當り、一條の砂州遠く海中に亘り、翠松上に生じ、遠く望めば恰も長橋を波上に架せるが如く、是れ則日本



天 之 橋 立

三景の一なる天橋立なり。以西には丹後の久美濱港、但馬の津井山港、因幡の賀露港あり。伯耆の西端に砂洲遠く出づるを夜見ヶ濱と云ひ、其の北端に境の良港あり。

○出雲には島根半島西より東へ挺出し、其の東端を地藏崎と稱し、美保關港、其の西に在り。中海は夜見ヶ濱と島根半島に包まれ、南隅の米子は良泊の地なり。半島の北端を多古鼻と稱し、西端を十六

島鼻と云ひ、巨礁十六個あり。

○石見に温泉津、濱田の兩港あり、北の海上を石見潟と云ふ。長門西方の海上は響灘にして、彦島、六連島、見島等あり、長門の北海岸に青海島あり。

○隠岐は四大島より成る、最大島を島後(周國三)とし、南に西郷港あり、一に隠岐港と稱し、境港へ四十四湊あり。他の三大島は西島、中島、知夫里島にして之を島前と總稱す。

○紀伊は外洋に突出し、其海岸は概ね絶壁をなせり。南端を潮岬と稱し、本州の最南端なり。大島其前に當り、黒潮の流れ急なり。潮岬以東は熊野浦と稱し、波濤峻惡に、往々船舶難破の害あり。港泊には浦神、新宮あり。

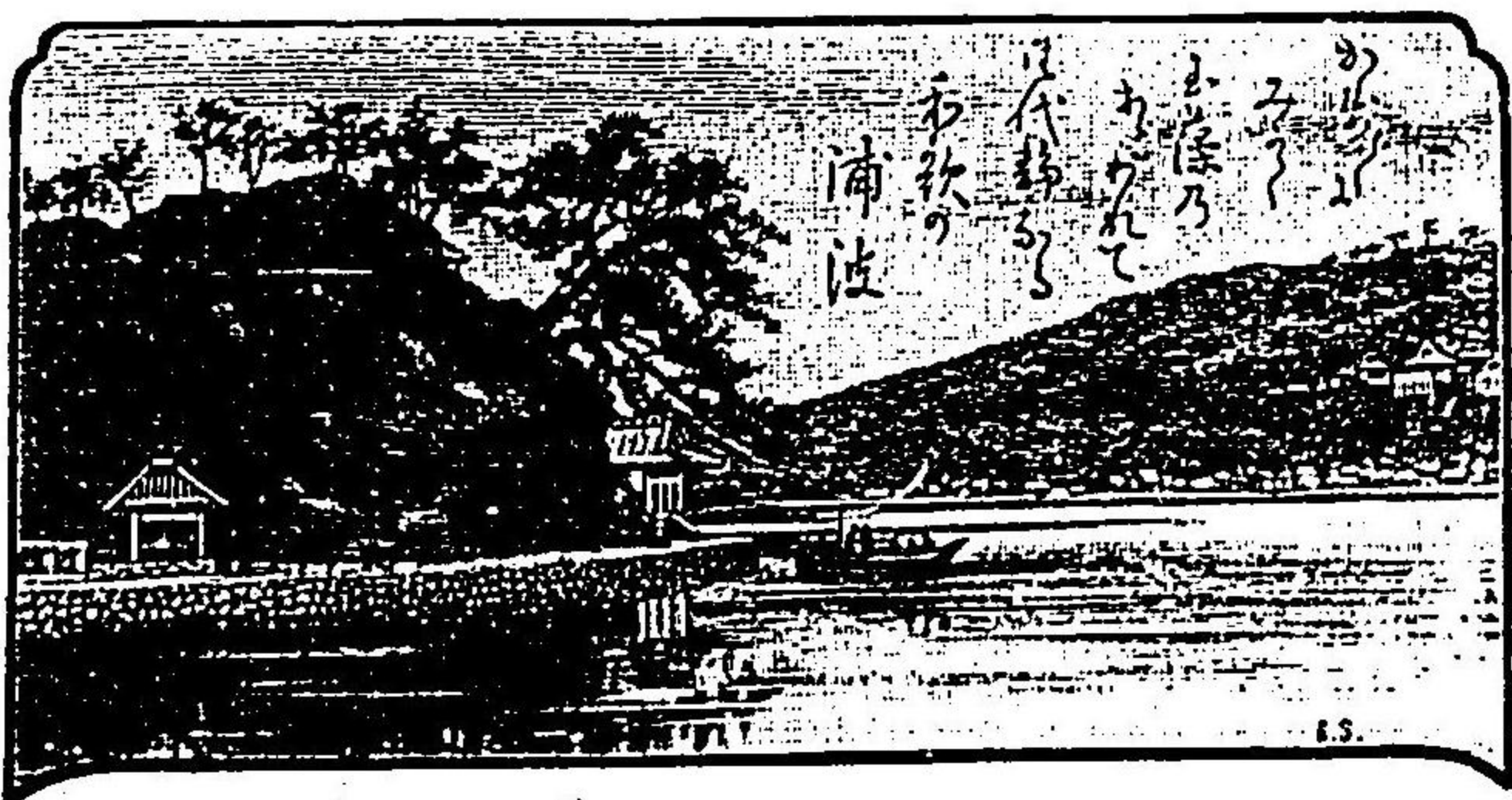
○潮岬を西に廻れば、紀伊水道にして、沿岸には田邊灣あり。和歌

處誌

浦は和歌山の南にあり、風光明媚にして、元明帝『明光ノ浦』と名を賜はりたる名所なり。淡路島は瀬戸内海及紀伊水道の口に横はり、東は由良海峡にして、西阿波との間は有名なる鳴門海峡なり。南岸に由良、福良の兩港あり、大阪灣に臨みて洲本、岩屋の港あり。

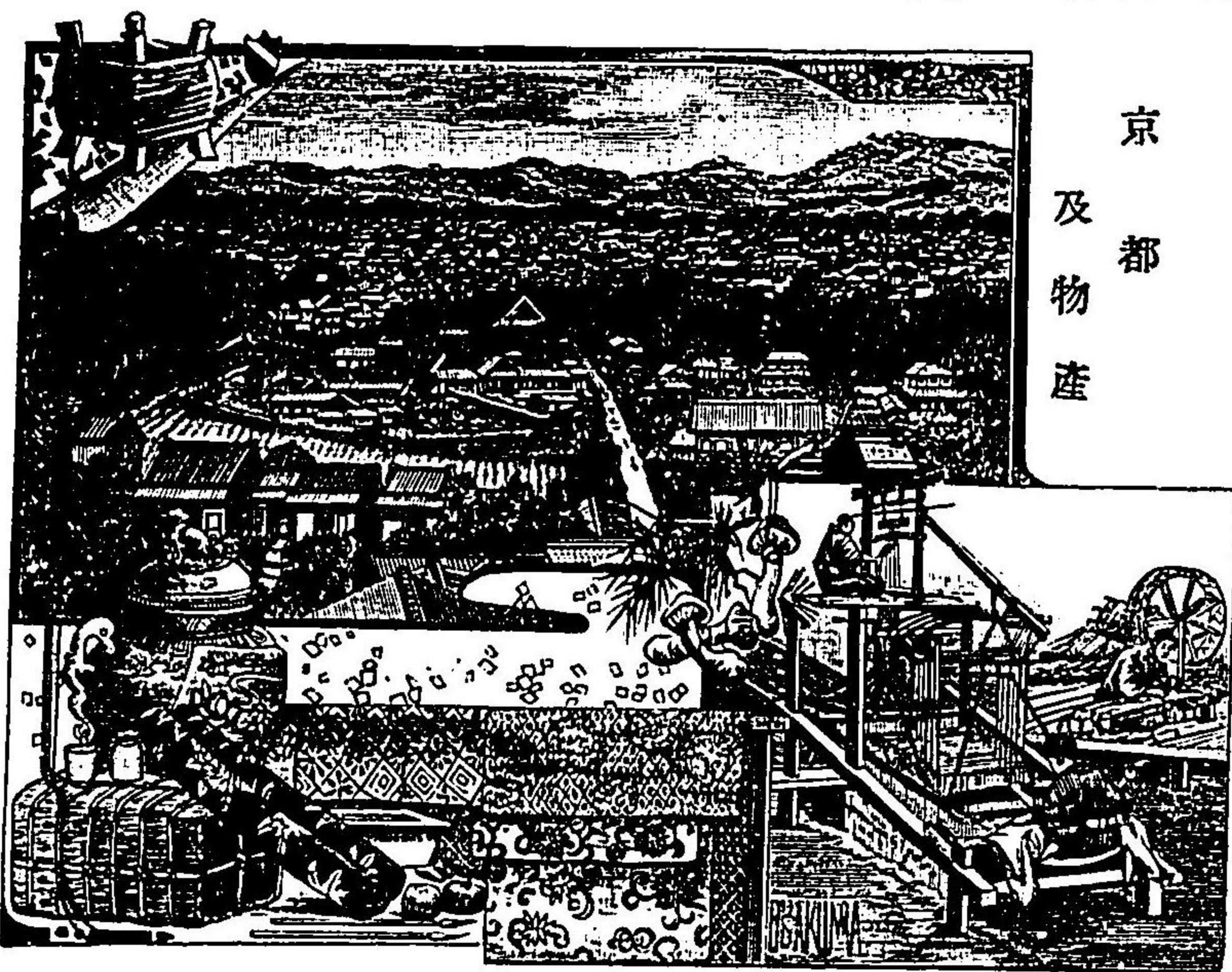
◎處誌 畿内は古來本邦の中心にして、歴代の帝都は爰に定められたれば上方と稱し、文華の集點たりしのみならず、地味肥え産物豊なるを以て人文夙に發達し、人質優和なり。山陰の地は太初出雲系統の經營せられし地にして、頗る發達したりし

和歌之浦



京都府

京都及物産



かども、中世以降は他處の多事なりしに拘はらず、著しき出來事なし、故に人氣朴直なれども稍偏狹たるを免れず。山陽の地は交通頻繁の衝に當るを以て住民一般に慧敏なり。○紀伊は有名の高野山ありて、古來佛教盛なり。◎京都府 管轄 山城、丹後の二國及丹波の五郡 ○山城は山峰を以て繞らし、水清く山縁に、所謂山河襟帶自

然の城なり、人質又自ら優雅なり。京都市は其の中間に建てり、桓武帝延暦以降、明治初年の遷都に至る七十一代千七十六年間の帝都にして、東京に對し西京とも稱し、人口三十四万あり、東に加茂川を帯び、大路七條を通じ、小路之を貫き、街衢井然たること碁盤の目に似たり。昔は左京、右京及洛中、洛外の稱ありしが、今は上京、下京の兩區に分ち、三條通以北を上京、以南を下京と云ふ。

皇居は上京區に在り。本府は

山 嵐



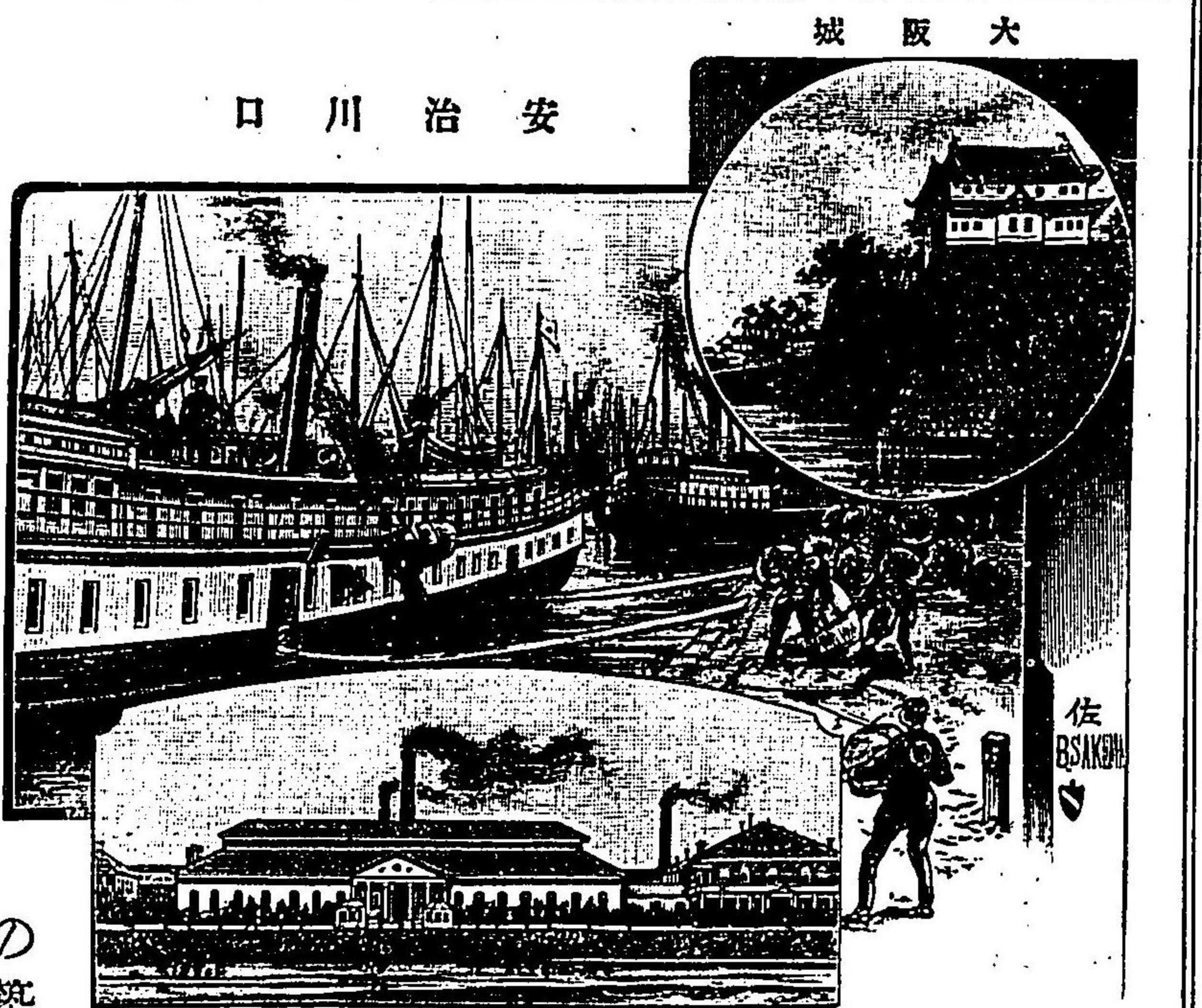
關西學門の叢園にして、京都帝國大學を始め、第三高等學校、同志社等あり。又自ら美術工藝の地となり、西陣織、加茂川染、清水焼、其の他の手工の雅致あること他の及ばざる所なり。市の内外、山水明媚の間には神社、佛閣甚だ多く、男山神社、北野神社、兩本願寺、智恩院、金閣寺、銀閣寺等最も有名なり、尙ほ東山、西山の附近には勝地舊蹟多く、名所を探り古蹟を訪ふ内外の客四時絶えず、遊人をして轉た千餘年來舊都の往事を追想せしむ。陸路には鐵道ありて東京、大阪、及奈良に通じ(東京へ三百二十九哩、大阪へ二十七哩、奈良へ二十六哩)水路は淀川ありて運輸を資く。又琵琶湖より水道を疏通し水力を利用し得べし。要するに京都は永く舊都たるの面目を失はざるべし。○伏見町は京都の南、淀川の岸にあり、京都、大阪間を往來する淀川船は此の地まで達す、町に第四師團の工兵隊屯營せり。

○丹波は山間の一僻地なり、福智山町は福智河に臨める都會なり、今歩兵第二十旅團司令部を置く。龜岡町は元の龜山なり、此の町より山城、嵐山の間、所謂保津川の奇景あり。宮津は丹後第一の都會なり。舞鶴は元田邊と稱し、明治初年今の名に改む、灣入深く船艦を容るゝに足る、故に軍港に選定せられたり、鐵道將に此の地に通せんとす。

大阪府

◎大阪府 管轄 河内、和泉の二國、攝津東部の四郡

○攝津は古來内海の要津なれば、攝津職を置き管理せられたり、是れ國名の起原なり。大阪市は淀川口に跨り、人口五十万あり、我が邦第二の大都會とす。市は東、西、南、北の四區に分ち、街衢能く整ひ、溝渠縱横に疏通し、橋梁の多き全國に冠たり。鐵道四方に通じ(東京へ三五哩、奈良へ二五哩、神戸へ二〇哩、廣島へ二〇九哩)又海路は瀬戸内の要衝に當り、安治河



口は「出船千艘入船千艘」と稱し、船舶常に輻湊せり。故に東西貨物の集散を司り、自ら全國商業の中心府となり、關西物價の昂低は多く此の市場に左右せらる。

○製造の業又盛にして、紡績、燐寸の製造、船舶、鐵器、銅器の製作等行はる。大阪城は市の北に在り、豊臣秀吉の築く所、宏壯堅固を以て稱せら

れしが、今は僅に牙城のみを存せり、中部都督、第四師團司令部を城内に置く。市内には造幣局、中の島公園、天満宮等あり、市の南に高津、今宮、天王寺等ありて、遊覽の地少なからず。大阪市の西北に池田あり、鐵道相通じ、釀酒及木炭の産地なり。堺市(和泉)は大和川の吐口にあり、人口四万九千、古は外國との互市場たりき、大阪との間鐵道の往復繁く、街衢繁盛にして、段通及鐵器の製造に名あり。河内には八尾、枚方の名邑あり、金剛山の麓は楠公の生地として知られ、國の北部には小楠公の戦死せし四條畷あり、今は鐵道の便あり。

奈良縣

◎奈良縣 管轄 大和全國

○大和は神武天皇以來、上古概ね奠鼎の地にして、古蹟各所に散在し、世に『大和廻』と稱して、遊人の來り訪ふもの多し、特に近來は鐵

神武陵



吉野山



道、京、阪より通じ遊覽の便あり。奈良市は北

部に在り、此の地は元明帝より桓武帝に至る七代八十四年間の帝都にして、一に南都と稱し、我が邦美術の淵源地なり。東大寺には著名なる

大佛(聖武帝の建立高さ五十三尺の坐像)興福寺には伽

藍(高さ百五十六尺)あり、春日社は春日山

麓にあり、法隆寺(舊斑鳩寺)は法隆

寺村にありて、古器名畫を藏む。

其の他南都七大寺と稱して名

刹多し。畝傍の神武帝陵を始

め、歴代の山陵、及月瀬梅溪、三笠

山、天香久山等の名所尠からず。郡山及五條も小都會なり。
◎和歌山縣 管轄 紀伊の七郡

○域内山多く平地に乏し、且南邊に僻在するを以て交通不便なり、然れども頗る森林に富み良材を出す、是れ「木の國」の起原なり。
和歌山市は紀の川の吐口にあり、元徳川三家の一なる紀州侯(五十五万石)の城市にして、人口五万六千を有する南地の都會なり、綿フランチル、雲齋織を産す。其の南の湯淺、田邊及新宮は共に濱海の小都會なり。

◎兵庫縣 管轄 攝津三郡、丹波二郡及播磨、但馬、淡路の三國

○本縣は畿内及山陰、山陽、南海の三道に跨り、境域甚だ廣し。神戸市は攝津の西南部に在り、北は山を負ひ南は海に濱し、西湊川を挟みて兵庫と連り、港灣廣く水深く、大船巨艦を容るべく、各國の

船舶輻湊し、市街、殷賑にして、外國貿易の盛なる横濱に次ぐ。重なる輸出品は茶、米、樟腦等にして輸入品は綿、絲、砂糖、石炭等なり。昔は寂寞の一漁村なりしかども、慶應三年の開港以來俄に繁華に趣き、人口年を追ふて増加し、今は十八万の多きに上り、我が國第五位の都會となれり。兵庫縣廳ここに在り。湊川神社は湊川の

淡川神社

神戸港



東に在り『嗚呼忠臣楠子之墓』の碑は境内に建てり。兵庫には福原の舊趾あり、近郊に生田ハ、森布引ハ、瀑布等あり。西ハ宮及伊丹は清酒を以て著はれ、尼ヶ崎も名邑なり。

○播磨は土地肥沃にして、海濱は勝地に富めり。宮本武藏、大石良雄此の地に出身せり。姫路市は中國の要衝に當り、人口三万を有し、市街稍々繁盛なり、元酒井氏の治所にして、城は豊臣氏の築く所、白鷺城の名あり、今は第八旅團を置く。革細工、高砂染を産す。明石町は國の東端にある勝地にして、縮及帆木綿の産あり。赤穂町は西に在りて、食鹽を産し、四十七義士を以て高名なり。○篠山町(波丹)は加古河の上流にある山間の小都會なり。但馬の生野町は銀山を以て有名なり。出石豊岡も小城市にして、豊岡には柳行李を産し、出石には陶器を出し、名僧澤庵の出身地なり。

岡山縣

○淡路は瀬戸内海に横はる一島國にして、先山、其の中央に峙ち眺望佳なり、北に岩屋、南に福良、東に由良、洲本の小都會あり。

○岡山縣 管轄 美作、備前、備中三國

○備前は吉井、旭二大川の流域を占め、地味肥え農産豊なり。和氣清麿、兒島高德、熊澤蕃山等此の國に出でたり。岡山市は旭川に臨み、元池田侯(三十万石)の城市にして、其の城を鳥城と謂ふ。山陽鐵道の中途に當り(神戸ハ八十九哩、廣島ハ百哩)人口五万六千、市街繁盛なること山陽道第二の都會なり、本邦三公園の一と稱せらる、後樂園あり。

○美作は山間の一小國なり。津山町は國の中央平地に在り、因、伯二州の貨物を此の地に集め、吉井川によりて輸送するを以て商業繁昌せり、足袋、雲齋織を産す。院ハ庄は津山の西一里許にあ

り、高德の櫻樹を削りて赤誠を
題せし所なり。

○備中は備前、備後と共に古來吉
備と稱したり。高梁町は河邊
川の流域に在り。倉敷町は鐵
道に沿ひたる名邑なり。

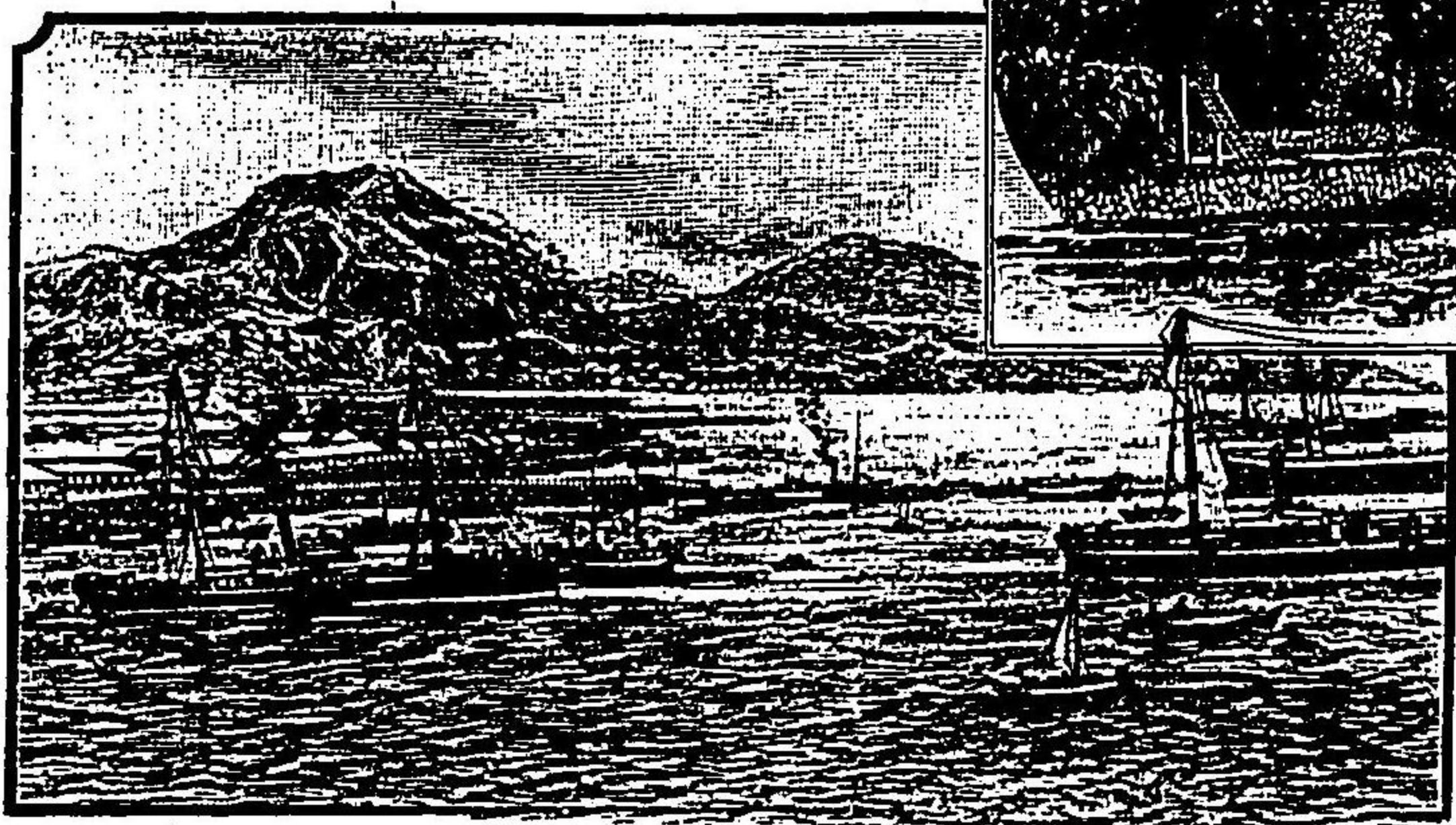
廣島縣

○廣島縣 管轄 備後、安藝二國

○安藝は中古、毛利氏の割據せし所、後淺
野侯の封地たり、頼一家は其の藩士な
りき。今や鐵道及海運の便を占め山
陽の繁華を此の地に集めんとす。廣
島市は毛利輝元の創むる所にして、廣



廣島城



宇品港

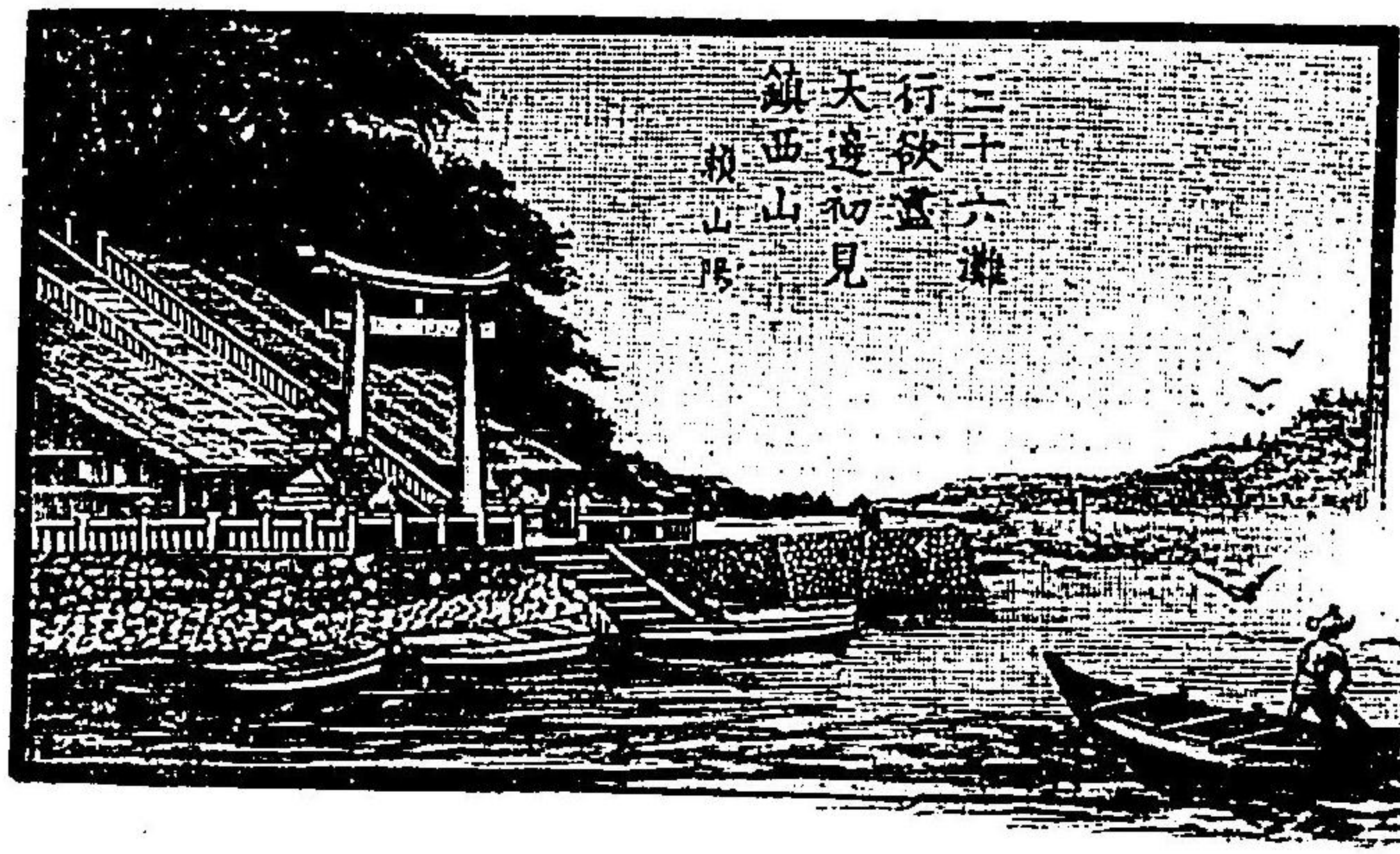
島灣を控へ、太田川に跨り、第五師團司令部、控訴院等あり、人口十
万、大坂以西第一の都會なり。陸に鐵道あり、海路は宇品港と相
應じ。實に中國の中心を占め、北は山陰に通ずべし、故に市街繁盛
にして、中國の大阪と稱せらる。明治二十七八年の役、其の形勝の
地なるを以て、大本營を廣島城に進められ。大元帥陛下親臨し
玉ひ、空前の大勝を制せし以來、廣島の名は世界に轟けり。吳港
は廣島の東南にあり、海軍鎮守府の所在地なり。吉田は國の北
部に在り、元毛利氏の城趾あり。

○備後の尾道市は鐵道の要衝に當り、海路中國及四國の各港に通
じ、瀬戸内海の一要港なり。福山、三次は共に小都會なり。

○山口縣 管轄 周防、長門二國

○長防二國は毛利氏及其の一族の封地にして、中國に崛強せる雄

赤間關
之景



藩なりき。近世人物輩出し、維新の大業を翼賛せし人多し。山口町は周防西部に在り、大内氏十二世割據せしが、後毛利公萩より茲に移る、今は山口縣廳及歩兵第四十二聯隊營所あり。岩國町は吉川氏の城市にして、岩國川に臨み錦帯橋及岩國縮を以て知らる。徳山は海濱の城市なり。赤間關市は長門の南端に位し、九州中國の咽喉を扼し、東西航通の船舶は必ず此の海峡に由る、下ノ關或は馬關と稱し、特別輸出港にして、人口三万五千、市況殷賑、百貨輻湊す、清國と媾和條約成りし、地なるを以て著

島根縣

名なり。萩は日本海に瀕し、毛利氏數代の居城なり、吉田松陰は此の地の志士にして、其の門下より有爲の士を出だすこと多し。

◎島根縣 管轄 出雲、石見、隱岐三國

○出雲は太古、出雲派の開かれし古國にして、古史に顯はる。松江市は宍道湖畔、風光佳絶の地を占め、人口三万四千を有し、山陰道第一の都會とす。島根縣廳、爰に在り。杵築町には出雲の大社あり。

○石見は山陰道西部の大國なり。濱田

松江市街之圖



町は中央の都會にして、歩兵第二十一聯隊を置く。津和野は西部の小都會なり。

○隱岐は日本海中に在り。西郷港は島中の一都會とす。西ノ島には後醍醐天皇の蒙塵し玉ひし、黒木御所の舊趾あり。中ノ島には後鳥羽上皇の陵あり。

鳥取縣

◎鳥取縣 管轄 因幡、伯耆、二國

○鳥取市は千代川に臨み、人口二万八千あり、山陰道第二の都會とす。元池田侯の城市(三十二万石)なり、歩兵第四十聯隊の營所あり。

○伯耆は忠臣名和氏の世々據りし所なり。米子町は中海に臨める要港にして、縹綿の産あり。境港は夜見ヶ濱の盡頭に在る良港なり。倉吉町は東部に在りて、飛白織を産す。

交通

◎交通 畿内は水陸共に交通便利なれども、大和の南部より紀伊

に至れば紀伊山脉の蔽ふ所となり、到る所山岳波濤の如く行路頗る困難なり。且鐵道未だ開通せず、陸運甚だ不便なり。道路は大坂より和歌山及紀州海岸を繞り伊勢に入る線と、和歌山より紀ノ河に沿ひ、大和に入る線とあれども、海路を取るを便なりとす。中國は中國山脉蟠まりて、南北の横斷は頗る難けれども、海岸及河谿に沿ひたる道路あり。即山陰道は京都より丹波を経て、日本海岸に沿ひ、石見を経て周防の山口町に通じ。山陽道は大坂より内海岸に沿ひ、山口の南に於て山陰線と相會し、終に赤間關に達せり。別に中國山脉を横斷して兩道を連絡する通路少からず。鐵道の本區を通ずるもの凡十線あり、内八線は畿内にあり、神戸、大阪、京都間(七哩)に東海道鐵道あり、神戸、徳山間(二百五十八哩)に山陽鐵道あり、此の兩線を幹線とす。其他、大阪鐵道、南

氣候

和鐵道及奈良鐵道、阪堺鐵道、播但鐵道、攝津鐵道、關西鐵道等あり。瀬戸内海は漁船の交通最も頻繁にして、『中國廻り』と稱する大阪、馬關間の十數港に寄港するものと、又神戸、馬關間を直航するものとあり。然るに日本海岸なる山陰道は漁船の航通寂寥たるのみならず、鐵道も亦一線を有せず。故に海陸共に文明的交通機關を缺き、其の發達山陽に數歩を譲れり。

◎氣候 域内は概して氣候温暖なれども、近畿と中國とは多少の差異あり。即畿内中央の平野は内地性氣候を顯し、寒暑共に強し。殊に京都は山に圍まるゝを以て、夏は涼を送くる海風なく、冬は凜烈なる比叡風あり。内海岸各地は冬温暖にして夏は頗る暑し。又紀州沿岸は冬も温暖に、九州南部に比すべし。山陰道の冬期は北陸地方と全じく、北風烈しくして、船舶の航海甚だ

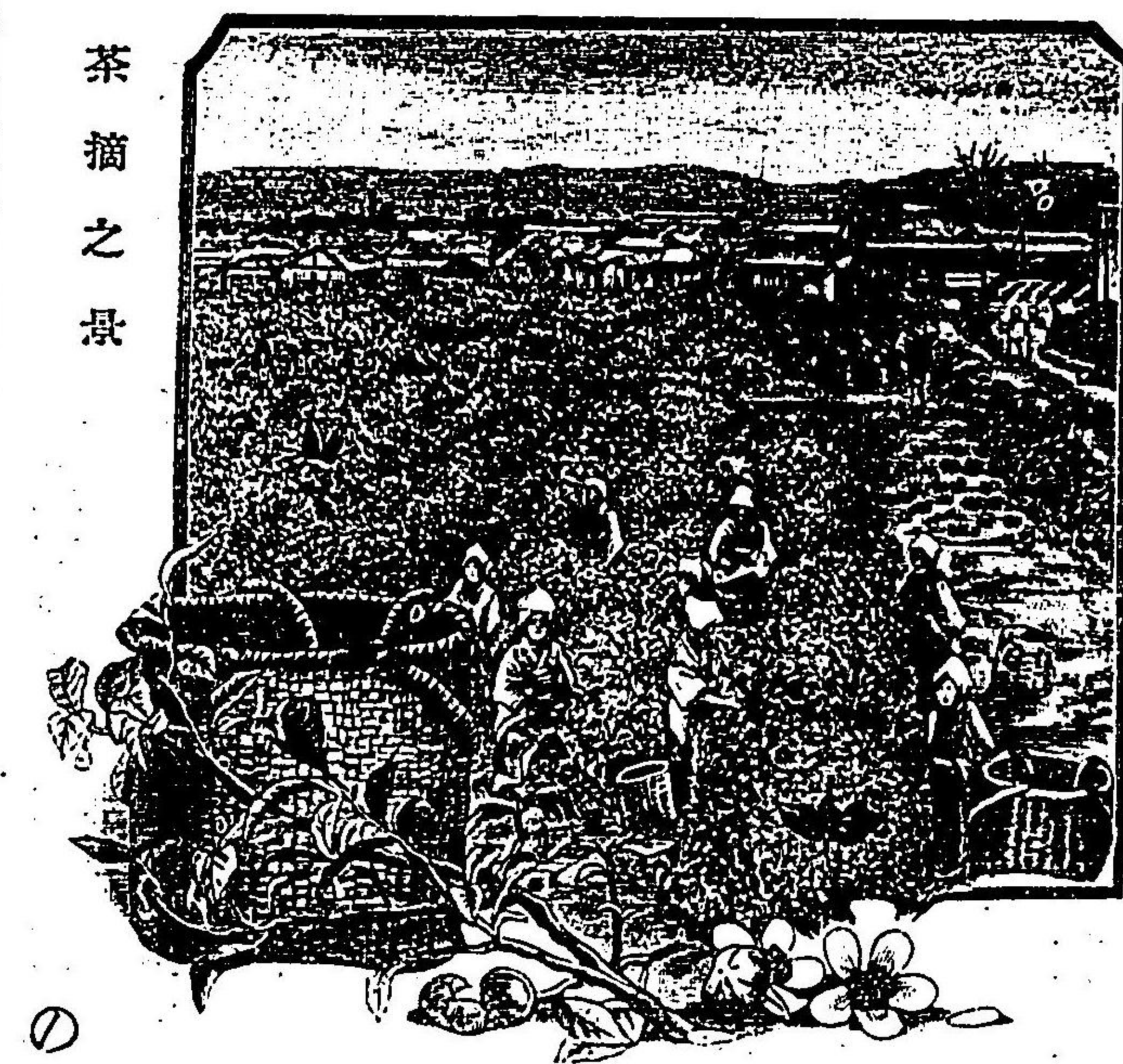
産業

困難なり。雨量も各地に甚だ差あり、紀伊南部は本邦最多の部に屬すれども、瀬戸内海に瀕する各地は一般に寡雨にして、製鹽に適す。而して山陰は其の中間にありて、冬期に至りて晴天少く積雪稍々深し。

◎産業 畿内は美術工業地たるのみならず、農産亦甚だ饒なり。

山陰道は地味疲せ天産に乏しく。山陽道は良好の生産地多く、著しく生活の要素に富めり。要するに本區は農産を以て重なる富源となせり。則畿内、山陽の各地よりは夥しく米を産し、兵庫は新潟に亞ぎて米産額多く、百四五十萬石を收め、岡山、山口、大阪の府縣も亦百萬石以上の收穫あり。其の他の穀産亦多し。畿内の各地は菜蔬に名あり。又山城の茶、丹波の烟草、茶、但馬、伯耆の麻、紀州の蜜柑、出雲の人參、蜜柑、三備の疊表、花筵等は何れも

著名産なり。畿内の南部より紀州に亘りては綿の産多く、其の花時には『西風吹白木綿國』一路穿花是紀州』の景あり、故に之に附



茶摘之景

隨する木綿夥しく、大和飛白、河内木綿、堺段通、紀州綿、フラ、ンネル、雲齋織等あり。又中國の各地にも伯耆木綿、明石縮、帆木綿、高砂染、美作の雲齋織、岩國縮、大島木綿等を産す。○京阪附近は各種の工業盛にして京都の織物、染物、繡刺物は其技甚だ巧なり。大阪の紡績、神戸附近の燐寸は最も盛

大にして、支那、朝鮮地方へ輸出するもの多く、兵庫の灘地方の釀酒は全國に最たり。其の他各地より手工品を出す。中國にては丹後の縮緬、但馬の柳行李、及出石焼、出雲焼、石州半紙、姫路革、備前の刀劍、伊部焼、備中の紙及淡路には伊賀野焼等を産す。○畜産は中國を主とし、但馬牛を始め世に神戸牛と稱するは中國各地より出づ。特に備後、備中は其の頭數の多きこと本邦第一なり。

○瀬戸内海は降雨寡きを以て、製鹽の利あり。魚漁は長門、紀伊、隱岐最も盛にして特に捕鯨の利あり。内海岸は安藝を最とし、本區の漁産額は總て四百萬圓、製鹽額は全國の半を占めたり。

○鑛産は中國各地に豊なり。殊に但馬の生野、及石見、邇摩の銀山は最も多く産す。鐵の産出額は現今安藝を以て全國の冠とす、

風土比較

又備後、伯耆、出雲、石見よりも産す。其の他攝津の御影石(花崗岩)長門の赤間、關硯、石炭、及紀伊の那智黒石も著名なりとす。

◎風土比較 以上逐條述べ來りたる事項により近畿、山陰、山陽を比すれば左の如し。(畿内附近を總稱して近畿と云ふ)

東部(近畿)	北部(山陰道)	南部(山陽道)
<p>○北に中國山脈を負ひ、南に紀伊山脈蟠まり、大河は多く中央平野を流る。</p> <p>○濱海の地少なく、港灣に乏しけれども、良好なる大阪灣あり。</p> <p>○北半は肥沃の平野にして農産豊に、南半は山國にして、木</p>	<p>○南に山を負ひ、北方日本海に向ひて緩斜し、河流多く北流す。</p> <p>○海岸出入に乏しく、良港及半島少く、海上には島嶼多からず。</p> <p>○耕地少く、農産豊かならず、鑛産に富む。</p>	<p>○北に山を負ひ、南方内海に向ひて傾斜し、河流總て南流す。</p> <p>○海岸出入多く、良港及半島多く、海上には島嶼少なからず。</p> <p>○耕地多く、農産豊に、又鑛産に富む。</p>

四國區誌

◎本區は本土と九州との間に横はる島地なり。北は瀬戸内海を隔て、山陽道に對し、南は渺茫たる太平洋に瀕す、東は鳴門海峽によりて、淡路島及紀伊水道を隔て、紀伊に對し、西は豊後水道

<p>材に富む。</p> <p>○沿海船舶の交通繁く、陸には鐵道の來往頻繁なり。</p> <p>○氣候温暖に雨量南北によりて差異あり。</p> <p>○域内は甚だ發達進歩して繁盛の大都會多し。</p> <p>○古來本邦の中心を占め、治亂興廢の跡實に多し。</p>	<p>○沿海波荒く、冬期は船舶の往來を絶ち、陸には汽車の便なし。</p> <p>○氣候稍、涼しく、降雨多く製鹽に適せず。</p> <p>○域内は未だ發達進歩せず、繁盛の都會少し。</p> <p>○中心地方と遠ざかり、治亂の跡少し。</p>	<p>○内海は波靜に、船舶の往復四時頻繁にして、陸には鐵道の便あり。</p> <p>○氣候稍、暖なり、降雨少く製鹽に適す。</p> <p>○域内は益々發達進歩して、繁盛なる都會少からず。</p> <p>○古來東西の要衝にして、歴史上の出來事尠からず。</p>
---	---	---

によりて九州と相望む。内に四國あるを以て此の名あり、是れに紀伊、淡路を加へて南海道と云ふ。面積一千〇百八十方里、人口二百九十万あり。左の四縣を置く。



四國區

徳島縣 香川縣
愛媛縣 高知縣

地形

◎地形 本島の形は兩翼を東西に張り、北に向ひて翔ける蝙蝠の如し。其の兩翼を貫きて、地路を爲せる、四國山脉は九州南部山脉の一巨豊後水道に陥り、伊豫の佐田岬より起りて、土佐、伊豫の境界を走り、矢筈山、石槌山、瓶ヶ森山等あり。石槌山は本脉の最高點にして、七千七百八十餘尺に聳え。其の東に別子銅山あり。此の脉東に走り、吉野河によりて、二派に分る、本派は阿波に入り、遂に紀伊水道に陥る、脉中の劍山は七千四百尺あり、石槌山と共

水系

に四國の双峰とす。支脉は阿波、讃岐の境界を走り、雲邊寺山、大川山となり、終に鳴門海峡に没す。此の山脉によりて、地勢自ら北方瀬戸内海と南方の太平洋に向ひて傾斜し、河邊及沿海に平地を存せり。

○島の北邊は阿蘇火山脉に當り、伊豫の小富士(興居島)及高繩山、讃岐の飯野山等を経て、淡路島に渡る。此の脉の噴起せしものは高繩、讃岐兩半島となる。

◎水系 排水界廣からざるを以て、河流は長大ならず。只、吉野川は分水界の兩側より發し、山脉に沿ひて東に走り、本島第一の長流なるを以て、四國三郎の稱あり。源は伊豫、土佐の兩國より發し、阿波に於て相會し、東流四十二里、河口に數個の三稜洲を作り、撫養港に注ぐ、灌域は良好の農産地にして、殊に藍を以て世に知

沿海

らる。此河谷は東西の主要なる交通路なり。南に那珂川あり、又灌溉に富み、山間の木材を下すに利あり。其他伊豫の重信川、肱川、土佐の物部川、仁淀川、渡川(一里四方十川名)は重なるものとす。

◎沿海 瀬戸内海は古來交通の要路たるを以て、其の沿海の地は頗る發達す。東に讚岐半島あり、西に高繩半島突出して、内に凹字形の燧灘を擁す、灣の東に多度津、高松、志度の諸港あり。多度津は四國の最良港にして、船舶輻湊し、高松の東なる屋島は源平の古戰場なり。海上には島嶼亂點して、風景甚だ佳なり、其中小豆島(讚岐周回三十里餘)、大島(伊豫周回十一里半)、大三島(全十四里半)、伯方島(全十五里)を大なりとす。伊豫の西北海上は硫黄灘にして、佐田岬、西に挺出すること十五里、豊後の地藏岬と相對して、佐賀關海峡を扼す、其の間僅に三里に過ぎず。其の南は海岸線犬牙の如く相錯り、八幡灣、宇和

島灣、宿毛灣等何れも、漁船碇泊の便あり。

○太平洋岸は西より蹉跎岬、東より室戸岬、出で、南風戦ぐ土佐灣を擁す、此の灣は白鳳年間大地震の爲め、陸地陥落せる所なりと云ふ、灣内に須崎、浦戸の兩港あり。阿波と紀伊との間を紀伊水道と稱し、北に淡路島横はり、其の間に有名なる鳴門海峡あり、潮水巨礁と相激して、渦流をなし、其の聲雷の如く、航行最も危険なり。

處誌

◎處誌 四國山脉の陰陽及交通の便否により、風土頗る差あり。

南際の地は海南に僻居し、無涯の大洋を南に受けて、本土との交渉少きを以て、人質撲實にして、勇壯なれども、北際の地は往來繁き内海に沿ひ、本土と接近せるを以て、機敏にして、稍々鄙俗を帯ぶる所あり。島地なるを以て、一般に海事思想發達し、往々一葉



鹽田之圖

の扁舟を浮べて海外に航し、壯圖を試みし英傑を出せり。

◎德島縣 管轄 阿波全國

○吉野河域を占め、土地概ね肥沃にして、農産物豊に、人質亦商估に長けたり。吉野川の三稜洲に德島市あり、人口六万を有し、四國第一の大都會とす。元、峰須賀侯二十万石の城市なり。吉野川灌域の貨物は悉く此の地に集り、市街繁盛にして、阿波縮を産す。撫養町は淡路に渡る要津なり、其の齋田鹽は産額多く、且品質佳良に、全國鹽價の標準となる。

◎香川縣 管轄 讃岐全國

○半島地にして、三方海を繞らすを以て、漁戸多く海産に富めり、又最も中國に近く、古來本土との交通頻繁なりしかば、屢々兵を被り、殊に源平の古戰場多し。高松市は瀬戸内海に臨み、水陸交通の便を占め、縣廳此の地にあり、人口三万三千を有す、漆器及保多織の産あり。是れより丸龜、多度津を経て琴平の間二十七哩に鐵道あり。其の西海岸の白峰には崇德上皇の陵あり。



琴平神社之圖



○丸龜町は高松の西に在り、元、京極氏の城地にして、人口一万八千餘、第十一旅團を置く。多度津は其の西に在る要港にして、琴平神社に近く、參詣の客は此の地より上陸し、琴平との間(七哩半)鐵道の便あり。其の南に在る善通寺町は歩兵第四十三聯隊の屯在地なり。

愛媛縣

◎愛媛縣 管轄 伊豫全國

○高知縣と腹背をなし、海岸線長く、漁業甚だ盛なり。松山市は瀬戸内海に近く、人口三万二千、縣廳の在る所なり、歩兵第二十二聯隊を置く、松山縞の産あり。鐵道は本市を中央として、道後、三津等へ通ぜり。三津(或は三津濱)は松山に近く、船舶輻湊し、毎朝魚市の盛なること、四國第一と稱す。道後は頗る古き温泉場にして、松山近郊にあり、日本三湯の一と稱せらる。今治は高繩半島にあ

高知縣

る要港にして、宇和島は西南隅の良泊なり。

◎高知縣 管轄 土佐全國

○土佐は四國の大國なり、人質武健にして口舌明晰と稱せらる、維新の際、山内容堂侯を始めとし、坂本龍馬其他數多の志士俊傑此の地より出でたり。高知市は土佐灣頭、鏡川の北岸に沿ひて建ち、山内侯の舊城市にして海南の雄藩たりき、人口三万四千あり、歩兵第四十四聯隊を置く、北部との交通は海路廻航の外頗る不便なり。浦戸は其の南に在り、戰國の時、長曾我部氏此の地に據り、四國全島を統御せし所なり。須崎は其の西に在り、浦戸と共に土佐灣内の良港なり。

交通

◎交通 中央に脊梁山脉ありて、交通は其の兩際に於て大に便否の差あり。則北際は一面に瀬戸内航行至便の通路に當り、中央

地方との往來繁く、且陸路も其の沿岸を通じ、二の鐵道さへ既に開けたり。山脉の南際は一帯太平洋に濱し、其の方面中央地とは相遠ざかり、又陸路も未だ鐵道の設けなく、通路不便なり。道路の幹線は高松より丸龜、多度津、松山を連ね三津に出づるものと、讚岐より吉野川上流に沿ひ、高知に出で高知より土佐灣を沿ひ、阿波に入り、徳島に達する線とあり。

氣候

◎氣候 氣候概して溫暖なれども、山脉の北際及南際に於て差異あり。土佐の沿海地方は黒潮によりて溫度著しく高く、夏期亦割合に清涼なり。北際は溫度稍々低く、冬は暖和なれども、夏期は溽暑強し。雨量は南北によりて一層の差異あり、即南際は本邦中最多の部に屬すれども、内海岸は本邦寡雨の地に屬す、是れ南は黒潮暖流の濕氣を送り來り、四國山脉に觸れて雨化すれど

も、北際に至れば、山脉の爲め既に濕氣を奪はれたる乾風を被るを以てなり。

産業

◎産業 南際は良好の農産地に乏しく、而して内海岸は肥沃にして米穀の産あり。吉野川の灌域は藍の栽培甚だ盛にして其の産額は全國の四分の一餘に居り、阿波藍の名世に高し。

○讚岐、阿波共に烟草の産あり、甘蔗は各地共農民の常食を助け、甘蔗は到る處に之を植ゑ、讚岐、阿波は製糖業の盛なること臺灣の外、全

藍之製之造



國の最たり。家畜も亦甚だ多く、讃岐の牛は製糖業に使用する爲め特に多し。工業には織物最も盛にして、阿波の織織は世に阿波縮と稱せられ、低廉なるを以て名あり、保多縞、松山織も世に知らる、土佐半紙は産出の多きこと本邦第一とす。水産は四面の沿海各種の産に富めり、其の著名なるものは土佐の鯉、珊瑚、眞珠及土佐沖より紀州灘に亘り捕鯨の利あり。又有名なるは製鹽にして、阿波の齋田鹽、及讃岐は産額最も多し。鑛産は伊豫別子の銅は産出の多き本邦第二に位し、其の他安質母尼及石材を各地より出す。

風土比較

◎風土比較 今例により四國山脉によりて、本區を南北兩際に分ち、比較すれば左の如し。

北際

(讃岐伊豫及阿波の那珂河以北)

- 地勢南に山を負ひ、北は内海に瀕し、河流多く北流す。
- 降雨寡く、有名なる製鹽地なり。
- 中央地方に面し、繁盛の都邑多し。
- 波靜なる内海に面し、海路交通甚だ便なり。
- 地形北に向て開き本土と交渉を求むるが如く、屢々兵を被り、歴史上の遺蹟に富む。

南際

(土佐及阿波の那珂河以南)

- 地勢北に山を負ひ、南は外洋に瀕し、河流多く南流す。
- 降雨多く、植物に適し大森林多し。
- 中央地方と背き、繁盛の都邑少し。
- 波荒き外洋に瀕し、航行頻繁ならず。
- 地形南に向て開き、本土との交渉を避るが如く、歴史上の出來事少し。

九州區誌 附沖繩誌

◎九州島及壹岐、對馬其の他の諸島を合せて九州區とす。西邊の島地にして、西北は朝鮮海峽を隔て、朝鮮に相對し、東は瀬戸内海及日向灘に瀕し、北は玄界洋及響灘に臨み、西南を繞るは太平

洋なり。西海道十一國を含み、面積二千六百七十一方里、人口六

百十四万を有し、左の七縣を置く。

九州區 大分縣 福岡縣 佐賀縣 長崎縣

熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣

山系



九州區圖

◎山系 九州島は崑崙山系の初起を受け

二派の山脉より成れり、九州北部山脉及九州南部山脉と云ふ、九州は此兩山脉により地軀を接合したるものなり。九州北部山脉は西方海中なる五島平戸の諸島より其の脊を現はし、肥前に入りて國見岳、天岳及筑前の境上に聳ゆる雷山となり、尙ほ東に走り寶滿山、福智山等より、終に馬關海峽に没し、更に中國山脉となる。此の脉は高峻ならざれども石炭を埋藏すること夥し。
○九州南部山脉は薩摩の西海なる甌島より肥後の南部に渡り、斜

に北東に走り、日向、肥後の境に於て白髮岳、市房山等の高峰あり。市房山は六千尺に聳え九州の高山なり。此の邊山彙最も深く五個、米良の山莊あり、豊後の境邊に於て高千穂高原、行膝山、可愛岳、朝日岳等あり、佐賀ノ關に至り陥りて、豊後海峽となり、更に四國山脉に連る、

○此の南北兩山脉の間は瀬戸内の窪地と同じき地溝あり、茲に阿蘇火山帶噴起せるを以て、今は此の部却て高原をなせり。阿蘇山は世界に有名なる活火山にして、舊噴火口は長徑七里に亘り、今此の内に五個の小火山を噴起す、是れを阿蘇五岳と云ふ、我邦三大火山の一なり。是れより豊後富士の名ある由布岳及鶴見岳となり、北に走りて英彦山等の火山を起し、遂に國東半島より瀬戸内海に入り、四國に渡る。

○又南部山脉の南には霧島火山帯ありて、薩南群島を噴起し、薩摩富士の稱ある開聞岳、鹿兒島灣内の櫻島岳を起し、本脉の主山なる霧島の活火山に連る、此の山は東西二峰に分れ、最高五千五百餘尺あり。此の脉西北に走り肥薩の境に三太郎の嶮坂あり、海を隔て、島原半島の温泉岳(活火山)となり、其の北の多良岳に連れり。

○九州の地勢は南北兩山脉より阿蘇霧島兩火山帯を連ねて北、響灘より南、薩摩沖に貫く、高臺ありて全島の脊梁たるが如き觀あり、此の中央高臺は本島の分水嶺となる、且、其の兩側の海岸及、河邊に沖積層の平地あり、有明海に瀕する、築紫平原は美田多く、有名なる米の産地なり。

◎水系 並行せる各山脉を連ぬる中央高臺は九州の分水嶺にし

水系

て、東際に落つる水は日向の大淀川、一ノ瀬川、美々津川、五個瀬川等となり、皆駢走して日向灘に注ぐ、然れども其の灌域廣からず。

耶馬溪之圖



豊後には大野川、大分川あり、共に肥後境に發し大分灣に入る、此の兩河の流域は頗る廣く、所謂碩田(天分の農産地を拓けり。豊前には山國川、驛館川あり、共に豊前の生産地を爲せり、山國川の上流は有名なる耶馬溪にして、奇峰天に聳え、怪巖溪に臨み、兩岸に耶馬四十景あり、日本三奇景の一なり。

○中央高臺の西際には筑前に遠賀川あり、北に走りて響灘に注ぐ、